AV Center

DTX-8.8

取扱説明書

Integra

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書ともに大切に保管してください。

主な特長

■ 各種サラウンド方式に対応した 7.1 チャンネルアンプ
■ ドルビーデジタル、ドルビーデジタル EX、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、ドルビープロロジックⅡ、ドルビープロロジックⅡx サラウンド再生可能＊1
■ DTS、DTS-ES Matrix、DTS-ES Discrete、DTS-HD High Resolution オーディオ、DTS-HD Master Audio、DTS Neo:6、DTS 96/24 サラウンド再生可能＊2
■ DSD ダイレクト再生可能
■ THX Ultra 2＊3 規格に準拠
■ Neural THX＊4 再生可能
■ 2 つまたは 3 つのスピーカーでもバーチャル 5.1 サラウンドが楽しめる T-D（Theater-Dimensional＊5）モード搭載
■ MPEG-2 AAC サラウンド再生可能
■ 高音域が強調された劇場用サウンドをご家庭で適切なバランスに補正する「Re-EQ＊6」機能
■ LFEch を持たないソースでもサブウーファーを効果的に動作させる「ダブルバス」回路
■ 小音量でもサラウンドを楽しめる LATE NIGHT 機能（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD 時のみ）
■ 24bit/192kHz D / Aコンバーター搭載
■ 32bit DSP 3 基搭載
■ 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する VLSC＊7（Vector Linear Shaping Circuitry）を全チャンネルに搭載
■ ダウンミックスによるフロント L/R チャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N 劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
■ 信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上の S/N を向上させるリニア・オプティマム・ゲイン・ボリューム回路
■ デジタル音声 / 映像信号を 1 本のケーブルで伝送可能な HDMI＊8 入力 4 系統、出力 2 系統装備
■ ビデオ（コンポジット）、S ビデオ信号、D4/ コンポーネント端子からの入力信号を HDMI 出力端子に出力するビデオコンバーター搭載＊9
■ D4/ コンポーネント映像入力端子各 3 系統、出力端子各 1 系統装備
■ S 映像入力端子 6 系統 / 出力端子 2 系統装備
■ 7.1 マルチチャンネル入力端子／プリアウト出力端子装備、DVD-Audio プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーへの拡張性を実現
■ デジタル入力端子として光 3 系統 / 同軸 3 系統、デジタル出力端子として光 1 系統装備
■ メインルームで 7.1 チャンネル再生しながら別室 A と B で異なるソースを楽しめる Zone2/Zone3 機能（Zone2 では映像も再生可能）
■ スピーカーの出力を約二倍にできる BTL (Bridged Transless) 接続が可能
■ 精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能
■ 音声と映像のズレを補正する A/V シンクコントロール機能搭載
■ 付属の測定用マイクで精密な自動スピーカー（Audyssey MultEQ XT＊10）設定可能
■ モニターを見ながら、簡単設定ができる OSD（オンスクリーンディスプレイ）機能
■ 他機の操作を可能にするマクロ機能搭載のリモコン付属
■ Windows Media® Connect 対応
■ Ethernet、USB 経由で MP3、WAV、WMA、MPEG4 AAC フォーマットの音楽ファイルを再生可能
■ インターネットラジオ受信可能

＊1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic”、“TrueHD”およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

＊2 “DTS”、および“DTS-HD マスターオーディオ”は、DTS 社の商標です。

＊3 THX および Ultra2 は、THX 社の商標または登録商標です。Surround EX はドルビーラボラトリーズの登録商標です。

＊4 Neural Surround は Neural Audio Corporation の商標です。
THX は THX Ltd 社の商標です。

＊5 Theater-Dimensional は、オンキヨー株式会社の商標です。

＊6 Re-Equalization、Re-EQ のロゴは THX 社の商標です。

主な特長

＊7 VECTOR LINEAR SHAPING CIRCUITRY　VLSC は、オンキヨー株式会社の登録商標です。

＊8 HDMI　HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

＊9　本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障されたマクロビジョンコーポレーションの許可が必要な著作権保護技術を搭載しており、改造または分解は禁止されています。
U.S. パテント Nos. 4, 631, 603; 4, 577, 216; 4, 819, 098; 4, 907, 093; 5, 315, 448; 6, 516, 132

＊10 AUDYSSEY MULTEQ XT　Audyssey Laboratories からの実施権に基づき製造されています。Audyssey MultEQ XT は Audyssey Laboratories の商標です。

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Mobile、Windows Media、ActiveSync、DirectX および Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Intel および Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

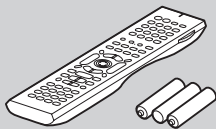
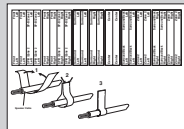
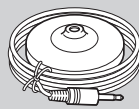
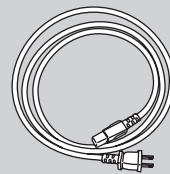
AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

THX Ultra2
THX Ultra2 の認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質 / 性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されている THX Ultra2 のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Ultra2 の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル / アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。また THX Ultra2 レシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX 技術 (THX モード) を備えています。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225 5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671 07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036 5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547 5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087 5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

箱の中身を確認する

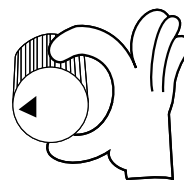
■ 付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-688M）…（1）
乾電池（単三形、R6）…（3）

スピーカーコード用
ラベル…（1）

自動スピーカー設定用
マイク…（1）

電源コード（2m）…（1）

取扱説明書（本書）…（1）
保証書…（1）
ユーザー登録カード…（1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

別室で音楽、映像を楽しむ／ Zone2、Zone3

本機はメインルームで 7.1 チャンネルサラウンド再生をしながら、別室 A/B（Zone2、Zone3）それぞれで 2 チャンネルのステレオ再生をお楽しみいただけます。また別室 A（Zone2）ではメインルームから映像を送ってお楽しみいただけます。
（別室で音声を再生するには別のプリアンプ／アンプが必要です。）

本機は 3 つのスピーカーシステムでそれぞれ異なるソースを再生することができます。

① メインルームのスピーカーシステム
② 別室 A のスピーカーシステム
③ 別室 B のスピーカーシステム

❑ メインルーム

メインルームでは最大 7.1 チャンネルサラウンド再生ができます（☞ 22 ～ 25 ページ）。
ドルビー、DTS、THX などのさまざまなリスニングモードがお楽しみいただけます（☞ 66 ～ 73 ページ）。

ご注意

- 別室 A（Zone2）のスピーカーを本機のアンプに接続して聞く場合はメインルームでの再生は 5.1 チャンネルになります。
  （本機のアンプに接続した別室B のスピーカーで聞くときの設定(Powered Zone 2 設定)については 106 ページをご覧ください）

❑ 別室 A（Zone2）

別室 A（Zone2）では 2 チャンネルのステレオ再生と映像をお楽しみいただけます（☞ 104 ページ）

❑ 別室 B（Zone3）

別室 B（Zone3）では 2 チャンネルのステレオ再生をお楽しみいただけます（☞ 105 ページ）

ご注意

- 別室 A、B ともリスニングモードはお使いになれません。

目次

修理を依頼する前に

本機をリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことでトラブルが解消されることがあります。電源を入れた状態で本体の VCR/ＤＶＲ ボタンを押したまま、Stanby/On ボタンを押してリセットしてください。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⦸ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠ 警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにアンプの電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ 本機後面の電源コンセントには表示された供給電力を越える機器を接続しない

禁止

表示された供給電力以内でも、ヘヤードライヤー・電気こたつなどの電熱器具、オーブンレンジなどの調理器具などは接続しないでください。
火災・感電の原因となります。

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

■ ETHERNET ポートには電話回線を接続しない

禁止

本機の ETHERNET ポートに以下のネットワークや回線を接続すると、必要以上の電流が流れ、故障や火災の原因となります。

- 一般電話回線
- デジタル式構内交換機（PBX）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

警告

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ **電源コードを傷つけない**

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出･断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ **電源プラグは定期的に掃除する**

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。
電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■ **本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない**

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機の通風孔、ダクトから異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ **長時間音がひずんだ状態で使わない**

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ **雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない**

接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■ **乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない**

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス+とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れる

■ **電池から漏れ出た液にはさわらない**

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠ 注意

接続、設置に関するご注意

■ **不安定な場所や振動する場所には設置しない**

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ **配線コードに気をつける**

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ **表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する**

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■ **電源コードを束ねた状態で使用しない**

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■ 長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

必ずする

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■ 通風孔の温度上昇に注意

注意

本機通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ 音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■ 長時間大きな音でヘッドホンを使用しない

禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。

■ 持ち運びは2人以上で行う

必ずする

本機は非常に重いので、持ち運びは 2 人以上で行ってください。

■ 機器内部の点検について

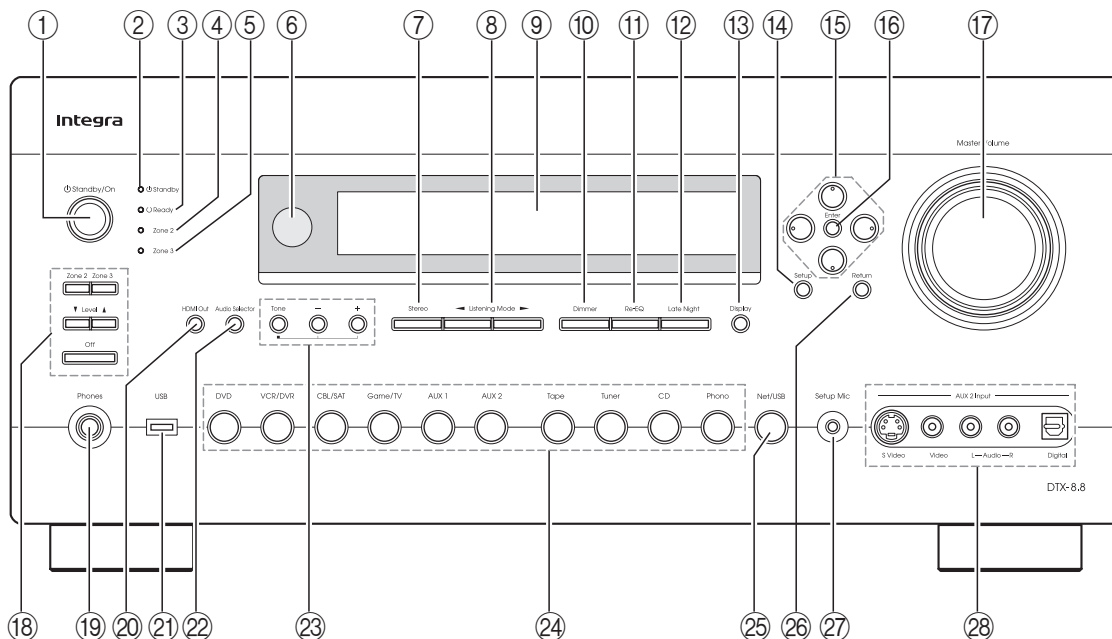
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。

① **Standby/On ボタン〔44〕**
電源のスタンバイ / オンを切り換えます。

② **Standby インジケーター〔44〕**
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

③ **Ready インジケーター〔103〕**
本機がスタンバイ状態のとき「電源連動」設定が "有効" になっていると点灯します。

④ **Zone 2 インジケーター〔107〕**
別室 A（Zone2）への出力が「オン」のとき点滅します。

⑤ **Zone 3 インジケーター〔107〕**
別室 B（Zone3）への出力が「オン」のとき点滅します。

⑥ **リモコン受光部〔21〕**
リモコンからの信号を受信します。

⑦ **Stereo ボタン〔66〕**
リスニングモードをステレオにします。

⑧ **Listening Mode ◀ / ▶ボタン〔66〕**
リスニングモードを選びます。

⑨ **表示部**
12 ページをご覧ください。

⑩ **Dimmer ボタン〔61〕**
表示部の明るさを切り換えます。

⑪ **Re-EQ ボタン〔65〕**
Re-EQ 機能をオン／オフします。

⑫ **Late Night ボタン〔65〕**
レイトナイト機能をオン／オフします。

⑬ **Display ボタン [63〕**
表示部の情報を切り換えます。

⑭ **Setup ボタン**
本機の設定を行います。

⑮ **カーソル ▲ / ▼ / ◀ / ▶ボタン**
設定項目を選択します。

⑯ **Enter ボタン**
選択している設定項目を確定するときに押します。

⑰ **Master Volume つまみ〔60〕**
音量を調整します。
音量は基本的に−∞ dB・− 81.5dB・− 81.0dB…＋ 18.0dB の範囲で調整できます。

⑱ **Zone2/Zone3、Level ▲/▼、Off ボタン〔107〕**
Zone2/Zone3 ボタンは別室 A（Zone2）/ 別室 B（Zone3）への出力をオンにするときや、別室 A/ 別室 B の入力を切り換えます。
Level ▲ / ▼ボタンは別室 A（Zone2）/ 別室 B（Zone3）のスピーカー音量を調整します。
別室への出力をオフにするときは、Off ボタンを押します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

⑲ Phones 端子〔61〕
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑳ HDMI Out ボタン〔47〕
「HDMI モニター」設定を切り換えます。

㉑ USB 端子〔79〕
USB ストレージ（USB メモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイルを再生できます。

㉒ Audio Selector ボタン〔63〕
本機で再生する音声入力信号をアナログ、デジタル、HDMI、マルチチャンネルから選択します。

㉓ Tone、＋／－ボタン〔64、108〕
高音、低音を調整するときに使用します。

㉔ 入力切換ボタン（DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、Game/TV、AUX1、AUX2、Tape、Tuner、CD、Phono）〔58〕
再生する機器を選びます。

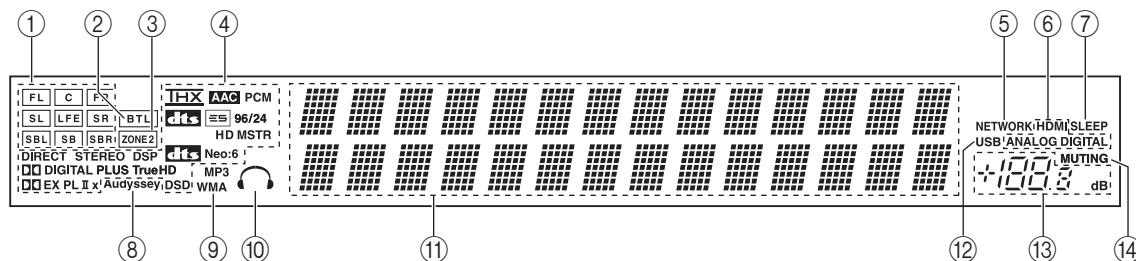
㉕ Net/USB ボタン〔74〕
Net/USB 機能の画面を表示します。ボタンを押すたびに「ネットワークサーバー」「USB」「インターネットラジオ」が切り替わります。

㉖ Return ボタン
設定中に 1 つ前の表示に戻します。

㉗ Setup Mic 端子〔55〕
付属の自動スピーカー設定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置などを検出します。

㉘ AUX 2 Input 端子〔37、84〕
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

表示部

① **スピーカー／チャンネルインジケーター**
本機のスピーカーコンフィグ設定と入力信号のチャンネルを表示します。

- □ は「スピーカーコンフィグ設定」で選択しているスピーカーを示します。
- 下記は入力信号に含まれているチャンネルを示します。
  - FL　：左フロントスピーカー
  - C　：センタースピーカー
  - FR　：右フロントスピーカー
  - SL　：左サラウンドスピーカー
  - LFE：サブウーファー
  - SR　：右サラウンドスピーカー
  - SBL：左サラウンドバックスピーカー
  - SB　：サラウンドバックスピーカー
  - SBR：右サラウンドバックスピーカー

② **BTL インジケーター〔25〕**
選択されているフロントスピーカーが BTL 接続用に設定されていると点灯します。

③ **ZONE2（ゾーン）表示〔107〕**
別室 A（Zone2）への出力が「オン」のときに点灯します。

④ **リスニングモード／入力信号フォーマット表示〔66、71〕**
入力されているデジタル信号の種類およびリスニングモードを表示します。

⑤ **NETWORK（ネットワーク）インジケーター**
Net/USB モードで「ネットワークサーバー」または「インターネットラジオ」が選ばれているとき、本機がホームネットワーク（LAN（ラン））に接続されていると点灯します。正しく接続されていないときは点滅します。

⑥ **音声信号表示〔63〕**
選択している音声入力信号の種類（HDMI/ANALOG/DIGITAL）を表示します。

⑦ **SLEEP（スリープ）表示〔61〕**
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

⑧ **Audyssey（オデッセイ）表示〔54〕**
自動スピーカー設定プログラム “Audyssey” が起動中に点灯します。

⑨ **MP3/WMA インジケーター**
再生中の音楽ファイルが MP3 または WMA
場合、そのファイルフォーマットを表示します。

⑩ **ヘッドホン表示〔61〕**
ステレオヘッドホンを Phones（フォーンズ）端子に接続すると点灯します。

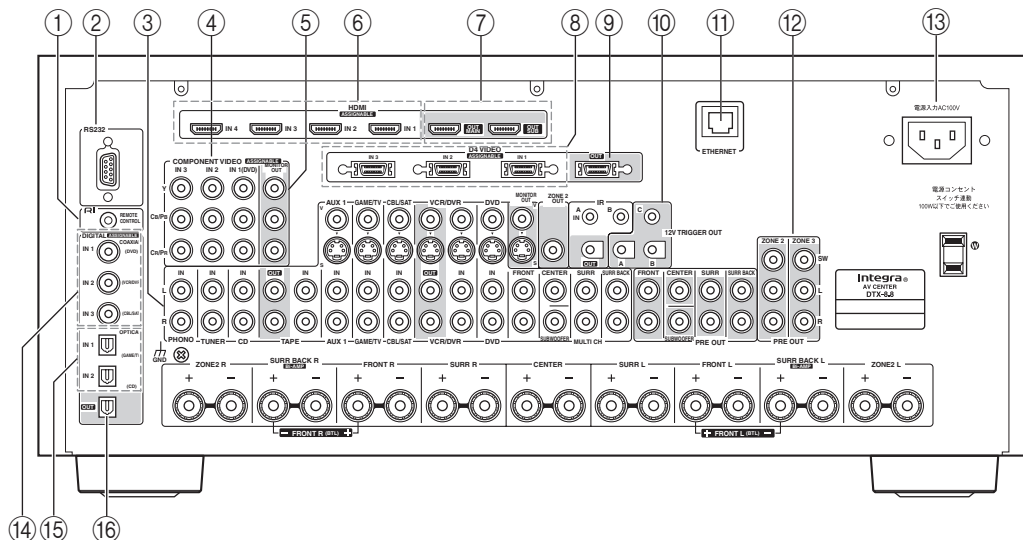
⑪ **多目的表示部**
入力ソース、リスニングモード、「HDMI モニター」設定など各種の情報を表示します。

⑫ **USB インジケーター〔79〕**
Net/USB モードで「USB」が選ばれているとき、USB ストレージ（USB メモリーなど）が接続されていると点灯します。

⑬ **ボリュームレベル〔60〕**
音量をデシベル（dB）値で表示します。

⑭ **MUTING（ミューティング）表示〔61〕**
ミューティングが働いているときに点滅します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル

① RI REMOTE CONTROL 端子

RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

② RS232 コネクター

外部のコントロール機器から本機をコントロールすることができます。

③ PHONO IN 端子

レコードプレーヤーと接続します。本機はムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。

④ COMPONENT VIDEO IN 1/2/3 端子

接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子です。S 映像より良い画質が得られます。

⑤ COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子

本機からコンポーネント映像を出力する端子です。
S 映像より良い画質が得られます。

⑥ HDMI IN 1/2/3/4 端子

接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力します。IN1 ～ IN4 の各端子は接続機器に合わせて入力切換ボタンに割り当てることができます。

⑦ HDMI OUT MAIN/SUB 端子

本機からデジタル映像信号をテレビに出力する端子です。MAIN/SUB のどちらから出力するかは、「HDMI モニター」設定で切り替えます（☞ 46 ページ）。
「HDMI オーディオ出力」設定を“オン”にすると、音声信号を TV に出力できます（☞ 102 ページ）。
HDMI OUT MAIN に接続した機器は、本機と連動させることができます（☞ 103 ページ）。

⑧ D4 VIDEO IN 1/2/3 端子

接続した機器から D 映像を入力する端子です。
S 映像より良い画質が得られます。

⑨ D4 VIDEO OUT 端子

本機から D 映像を出力する端子です。
S 映像より良い画質が得られます。

⑩ 12V TRIGGER OUT A/B/C 端子

外部機器の 12V トリガー入力端子と接続します。

⑪ ETHERNET 端子

ホームネットワーク（LAN）と接続するための端子です。イーサネットケーブルを使ってルータやハブに接続します。

⑫ PRE OUT ZONE 2/ZONE 3 L、R、SW 端子

別室 A（Zone2）、別室 B（Zone3）で使用するアンプとサブウーファーを接続するアナログの音声出力端子です。

⑬ AC INLET

付属の電源コードを接続します。

⑭ DIGITAL IN1/2/3（COAXIAL）端子

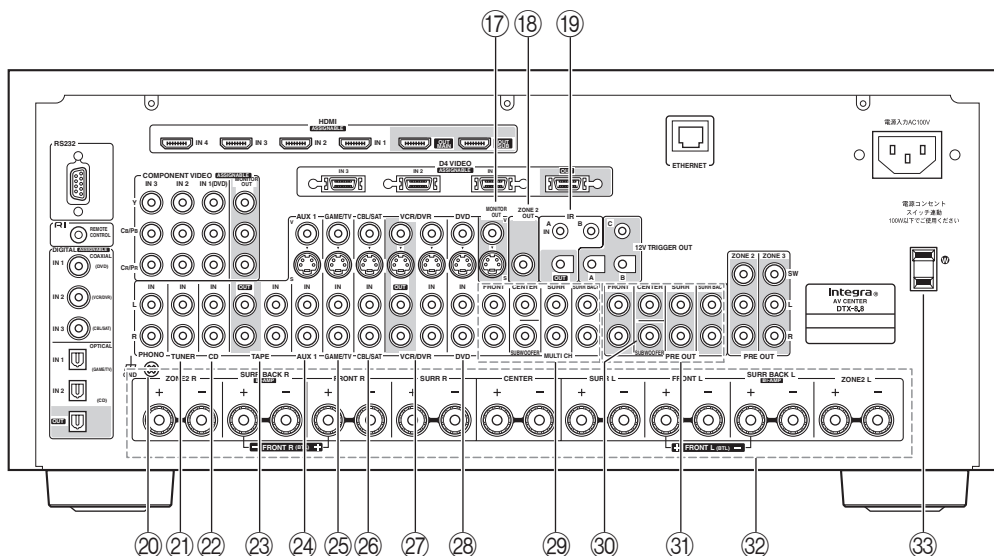
デジタル音声の入力端子です。
デジタル再生機器を接続します。

⑮ DIGITAL IN1/2（OPTICAL）端子

デジタル音声の入力端子です。
デジタル再生機器を接続します。

⑯ DIGITAL OUT（OPTICAL）端子

デジタル音声の出力端子です。
デジタル録音機器を接続します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

⑰ MONITOR OUT 端子

接続しているモニターやテレビにビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を出力する端子です。

⑱ ZONE 2 OUT 端子

別室 A（Zone2）の TV のビデオ（コンポジット）入力端子に接続します。本機からビデオ映像（コンポジット）を出力します。

⑲ IR IN (A/B)/OUT 端子

別室 A（Zone2）から本機をリモコン操作したいときや、本機がキャビネットなどに入っていてリモコン信号が届かないときにリモコンセンサーを接続する端子です。（接続にはマルチルームシステム用キットが必要です。）

⑳ GND 端子

レコードプレーヤーのアース線を接続します。

㉑ TUNER IN 端子

チューナーを接続します。

㉒ CD IN 端子

CD プレーヤーを接続します。

㉓ TAPE IN/OUT 端子

テープデッキ、MD レコーダーなどの録音機器や iPod 用オンキヨー RI ドックを接続します。

㉔ AUX 1 IN 端子

LD プレーヤーや BS チューナーなどを接続します。

接続した機器の映像をコンポジット端子（V）または S 端子に、音声を L/R 端子（赤白）に入力します。

㉕ GAME/TV IN 端子

ゲーム機やテレビなどを接続します。

接続した機器の映像をコンポジット端子（V）または S 端子に、音声を L/R 端子（赤白）に入力します。

㉖ CBL/SAT IN 端子

BS チューナーやケーブルチューナーなどを接続します。

接続した機器の映像をコンポジット端子（V）または S 端子に、音声を L/R 端子（赤白）に入力します。

㉗ VCR/DVR IN/OUT 端子

ビデオデッキや DVD レコーダーなどを接続します。

接続した機器の映像をコンポジット端子（V）または S 端子に、音声を L/R 端子（赤白）に接続します。

㉘ DVD IN 端子

DVD プレーヤーなどを接続します。

接続した機器の映像を V 端子または S 端子に、音声をコンポジット（L/R）端子に入力します。

㉙ MULTI CH IN 端子

マルチチャンネル出力に対応した DVD プレーヤーを接続します。

㉚ SUBWOOFER PRE OUT 端子

アンプ内蔵サブウーファーと接続します。

㉛ PRE OUT 端子

本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプと接続します。

㉜ スピーカー端子

スピーカーを接続します。FRONT L/R 端子と SURR BACK L/R 端子は BTL 接続またはバイアンプ接続して使用することもできます（☞ 25 ページ）。

㉝ 電源コンセント

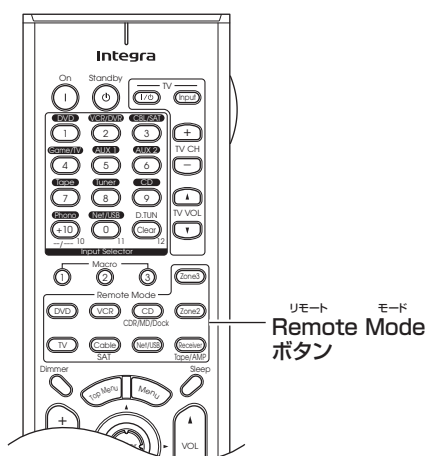
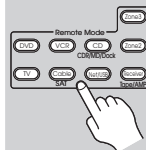
本機に接続するオーディオ機器の電源プラグを接続します。

接続については、23 ～ 44 ページをご覧ください。

リモコン（RC-688M）

Remote Mode ボタン

Remote Mode ボタンでリモートモードを切り換えると、本機に付属のリモコンで、他の AV 機器を操作できるようになります。操作する機器に合わせて、リモートモードを切り換えてください。

- 本機以外の機器を操作するには、ご使用になる機器に合わせて、あらかじめ各ボタンに 4 桁のリモコンコードを登録する必要があります。詳しくは 111 ～ 113 ページをご覧ください。

1 操作する機器にあわせて、Remote Mode ボタンを押す

2 選択したボタンが、数秒間点灯します

操作の際も、ボタンを押すたびに、選択しているモードのボタンが点灯します。

■ **Receiver/Tape/AMP モード** .... 16、18 ページ

本機を操作できます。RI 接続 * した、インテグラ / オンキヨー製チューナーやカセットデッキもこのモードで操作できます（☞ 18 ページ）。

* RI 接続については 42 ページをご覧ください。

■ **DVD モード** .... 17 ページ

お買い上げ時の設定では、インテグラ / オンキヨー製 DVD プレーヤーがこのボタンに登録されています。リモコンコードを変更することで、他メーカー製の DVD プレーヤー、DVD レコーダーのいずれかを操作できます。

■ **VCR モード** .... 114 ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のビデオデッキを操作できます。

■ **CD/CDR/MD モード** .... 18 ページ

お買い上げ時の設定では、インテグラ / オンキヨー製 CD プレーヤーがこのボタンに登録されています。リモコンコードを変更することで、インテグラ / オンキヨー製 CD レコーダーや MD レコーダー、他メーカー製の録音機器のいずれかを操作できます。

■ **TV モード** .... 114 ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のテレビを操作できます。

■ **Cable/SAT モード** .... 115 ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のケーブルテレビチューナーや BS チューナーを操作できます。

■ **Dock モード** .... 19 ページ

リモコンコードを登録することで、iPod 用オンキヨー RI ドックを操作できます。

■ **Zone2/Zone3 モード** .... 107 ページ

別室 A（Zone2）、別室 B（Zone3）をコントロールできます。

■ **Net/USB モード** .... 20 ページ

パソコンや USB メモリーなどに入っている音楽ファイルを再生したり、インターネットラジオを聴いたりできます。

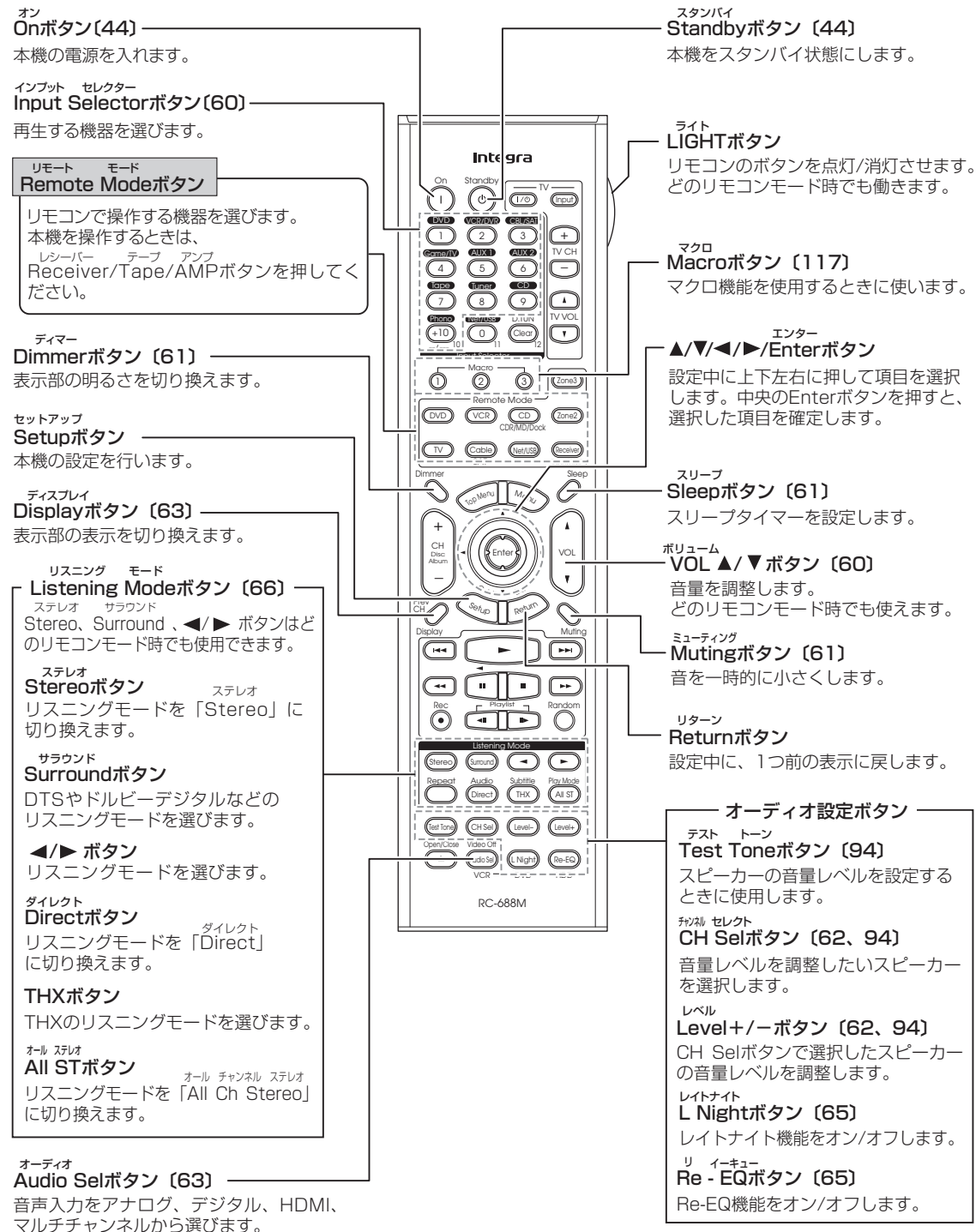
ご注意

- 製品によっては、動作しない場合があります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

AMP モード(本機を操作するとき)

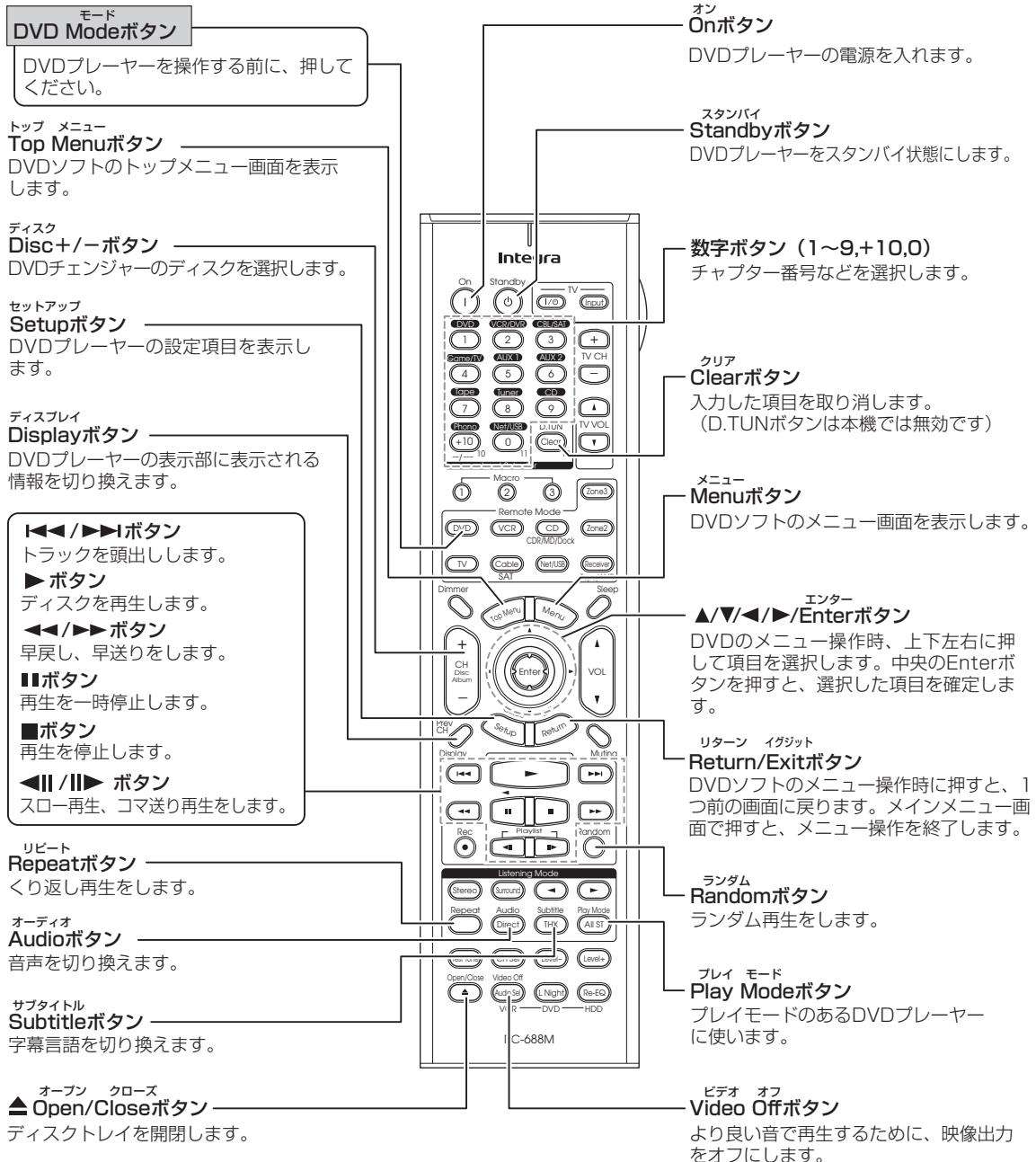
〔　〕内のページに主な説明があります。

本機を操作する前に、Receiver/Tape/AMP ボタンを押してください。

※ D.TUNボタンは本機では無効です。

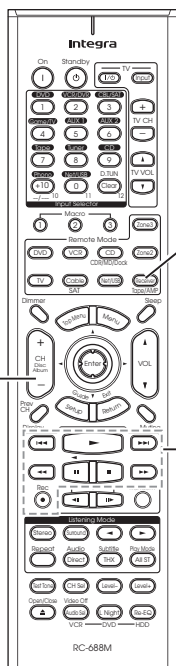
本体、リモコンボタンの名前と働き

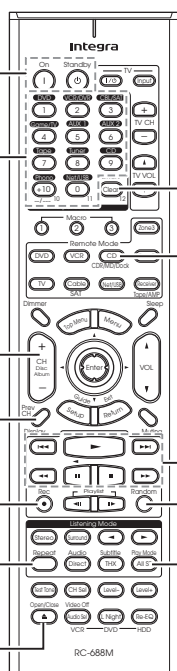
お買い上げ時の設定では、インテグラ / オンキヨー製 DVD プレーヤーを操作することができます。他社の製品を操作するときは、111 ページでリモコンコードを登録してください。

DVD モード（本機に接続した DVD プレーヤーを操作するとき）

接続する DVD プレーヤーや再生するディスクによっては、対応していない機能もあります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

Tape モード（本機にRI接続したチューナー／カセットデッキを操作するとき）

RI接続したチューナーやカセットデッキを操作する前に、Remote Mode Receiver/Tape/AMP ボタンを押して、リモコンを Tape モードにしてください。

CD/CDR/MD モード（本機に接続した CD プレーヤー、CDレコーダーやMDレコーダーを操作するとき）

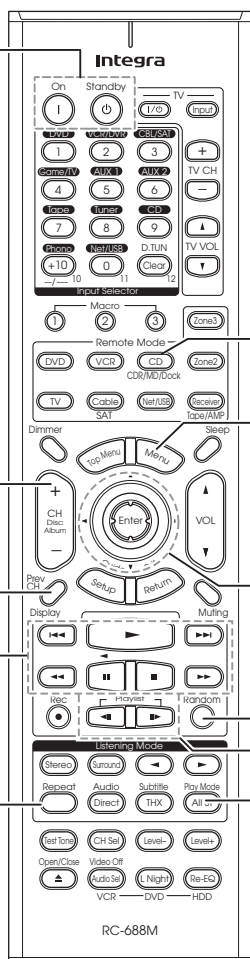
MD レコーダー、CD レコーダーを操作するときは、111 ページでリモコンコードを登録して、58 ページで入力表示を切り換えてください。

Dock モード（本機とRI接続したオンキヨー RI ドックに搭載した iPod を操作するとき）

Dock モードでRI接続したオンキヨー RI ドックに搭載した iPod が操作できます。

RI ドックを組み合わせるときは：

1. 本機の TAPE IN 端子または GAME/TV 端子に接続する
2. RI ドックのRI MODE 切換スイッチを「HDD」（もしくは「HDD/DOCK」）に合わせる
3. 入力表示を「DOCK」に切り換える（☞58 ページ）

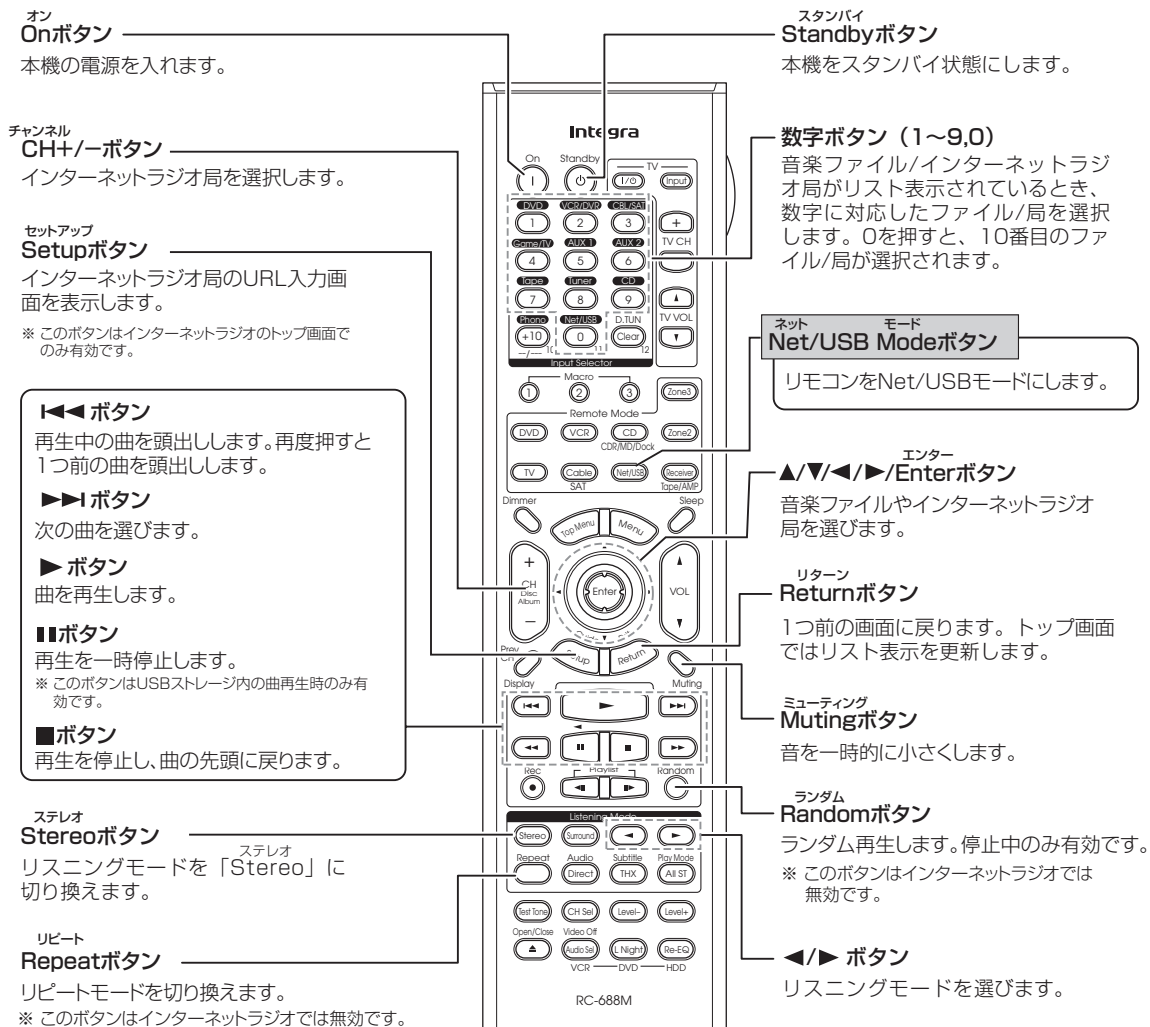
ご注意

- 本機に付属のリモコンでオンキヨー RI ドックを操作するには、最初に 4 桁のリモコンコード「6004」を登録する必要があります（☞111 ページ）。リモコンは本機に向けて操作します。

ご注意

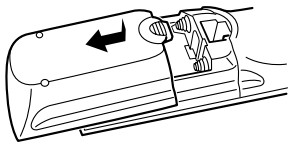
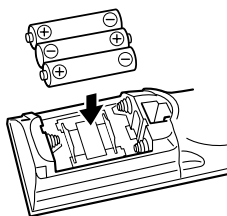
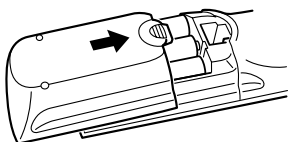
- ＊のついているボタンは、第 3 世代の iPod では使用できません。
- DS-A1 の取扱説明書もご覧ください。
- iPod は、米国及びその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

本体、リモコンボタンの名前と働き

Net/USB モード（ネットワークサーバー、USB、インターネットラジオを操作するとき）

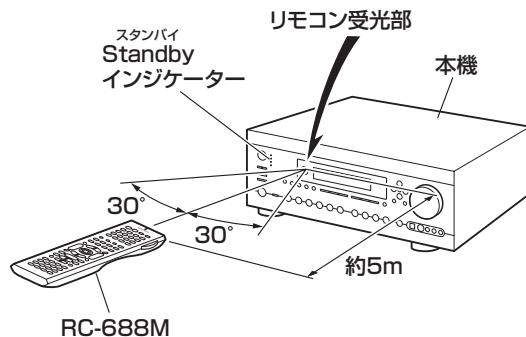
Net/USB モードでパソコンや USB メモリーなどに入っている音楽ファイルを再生したり、インターネットラジオを聴いたりできます。

本体、リモコンボタンの名前と働き

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池 3 個を+（プラス）と−（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して 3 本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単 3 形をご使用ください。

リモコンの使いかた

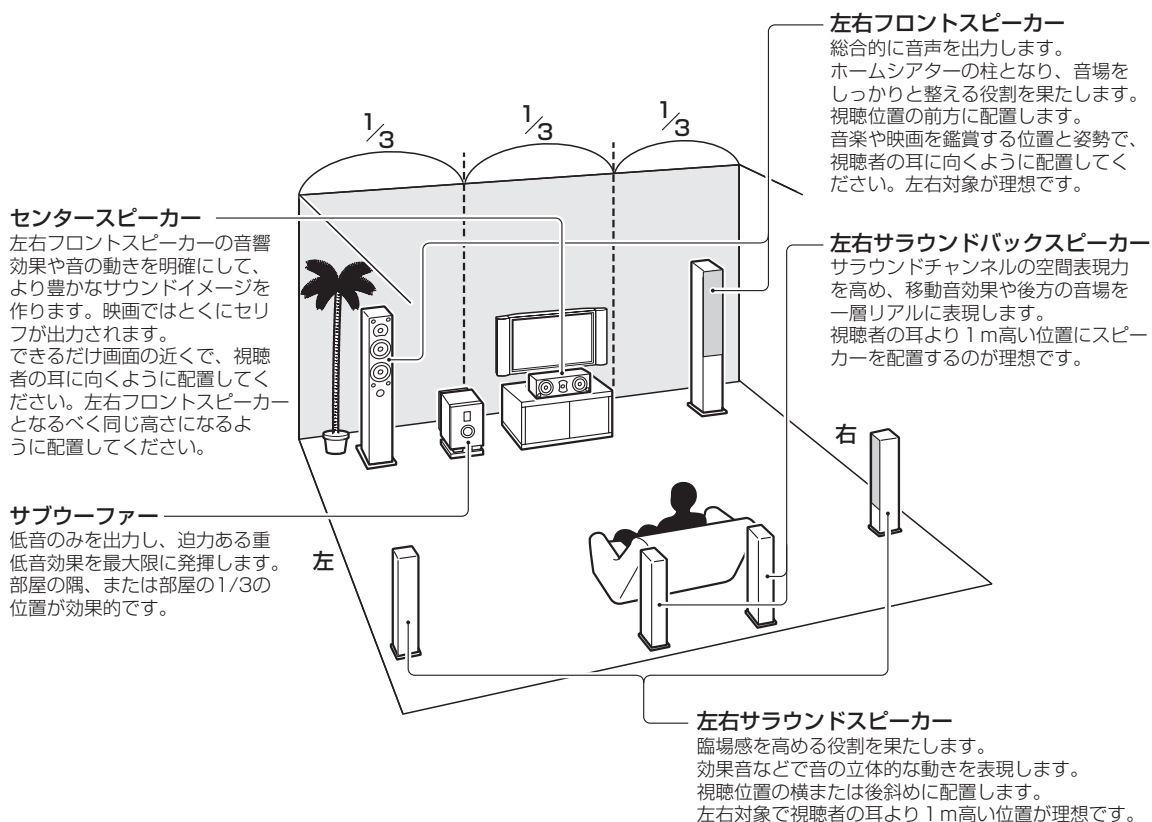
リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機の Standby（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTS やドルビーデジタル、ドルビープロロジックⅡx、DTS Neo:6 の再生やオンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。
THX のリスニングモードを聞くときは、THX 社認証スピーカーのご使用をおすすめします。

スピーカーの使いかた
2 つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。（2 チャンネル再生）
3 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。（3 チャンネルサラウンド）
4 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（4 チャンネルサラウンド）
5 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（5 チャンネルサラウンド）
6 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。（6 チャンネルサラウンド）
7 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。（7 チャンネルサラウンド）
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。（○.1 チャンネル再生）

- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の自動スピーカー設定用マイクを使って自動スピーカー設定を行ってください。（☞ 54 ページ）

接続する

スピーカーを接続する

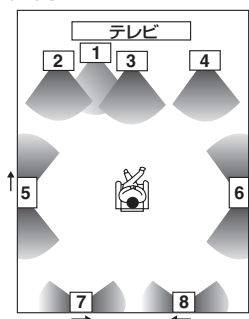
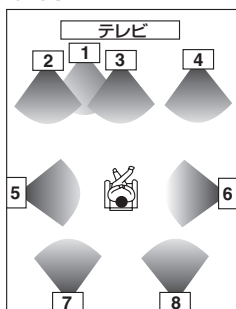
サラウンドバックスピーカーの配置について

サラウンドバックスピーカーは、7.1ch サラウンド再生を楽しむときに必要です。

設置例 1 は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

*位相：正弦波の 1 周期（0 ～ 360 度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、プラス（+）、マイナス（−）の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

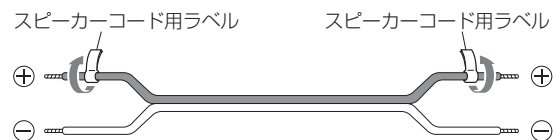
設置例 1

設置例 2

1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー

左右サラウンドバックスピーカーは、できるだけ間隔をあけずに配置してください。（THX 社推奨）

スピーカーの配置については「ホームシアターとは」（☞ 22 ページ）および「サラウンドバックスピーカーの配置について」（上記）をご覧ください。

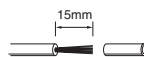
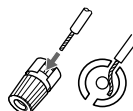
スピーカーコード用ラベルの使いかた

本機はスピーカー端子の⊕側を色分けして識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。スピーカー端子は以下のように色分けしています。

スピーカーコード用ラベル　　スピーカーコード用ラベル
⊕ ⊕
⊖ ⊖

左フロント	：白	左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント	：赤	右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター	：緑	センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド	：青	左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
右サラウンド	：灰	右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック	：茶	左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック	：ベージュ	右サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）にベージュのラベルを貼る

スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

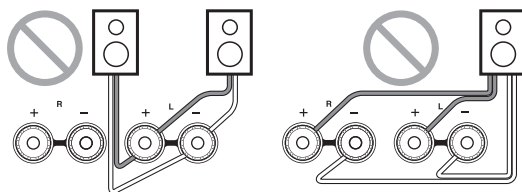
① **スピーカーコードの被覆を 15mm カットする**
② **しん線の先端をしっかりとよじる**

ご注意

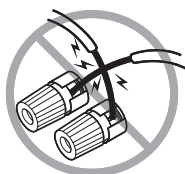
● しん線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

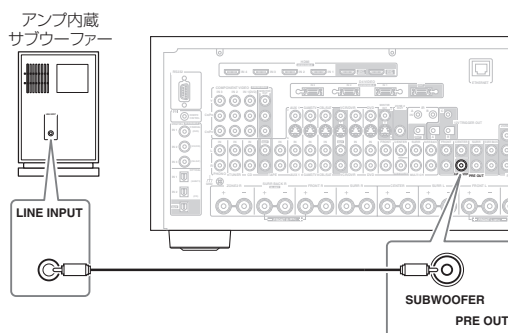
接続する

本機にはインピーダンスが４Ω〜 16 Ωのスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが４Ω以上６Ω未満のスピーカーを接続するときは、45 ページで「スピーカーインピーダンス」を４オームに設定してください。

ご注意

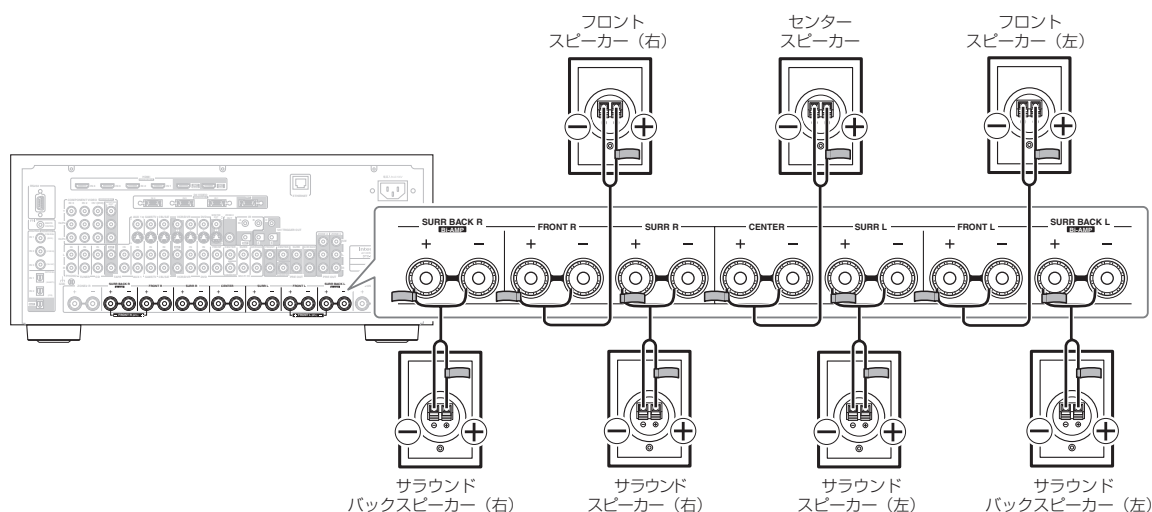
- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- １台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを
PRE OUT SUBWOOFER 端子に接続します。

!ヒント

- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または 1/3 の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。
- サブウーファーの設定については、58 ページの「アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合」の項をご覧ください。

サラウンドバックスピーカーを1つだけ使用する場合は、SURR（サラウンド） BACK（バック） L 端子に接続してください。

5.1ch（チャンネル） の場合は、FRONT（フロント） L/R、CENTER（センター）、SURR（サラウンド） L/R 端子に接続してください。

接続する

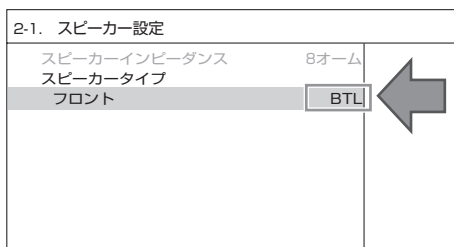
フロントスピーカーを BTL 接続する

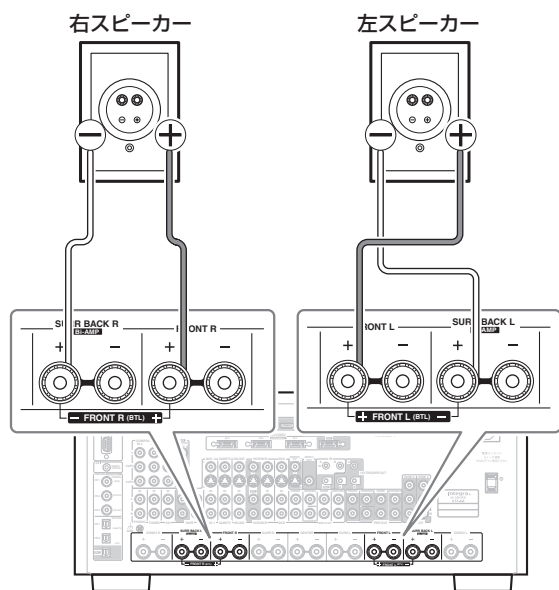
出力を大きくしたいとき、フロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーの端子を使用して、ＢＴＬ（Bridged Transless）接続することができます。これは 2 つのアンプの出力をブリッジ接続して使用する方法で、通常の約二倍の出力を得ることができます。

■ フロントスピーカーを BTL 接続する

ご注意

- BTL 接続時、本機は最大 2.1 チャンネルの再生となります。
- **BTL 接続にはインピーダンスが 8 Ω以上のスピーカーを使用してください。そうでないスピーカーを使用すると本機が損傷する場合があります。**

本機後面のスピーカーケーブルをすべて外し、本機の電源を入れて、OSD メニュー「スピーカータイプ」の「フロント（スピーカー A）」を「BTL」に設定します。

設定方法については、45 ページをご覧ください。

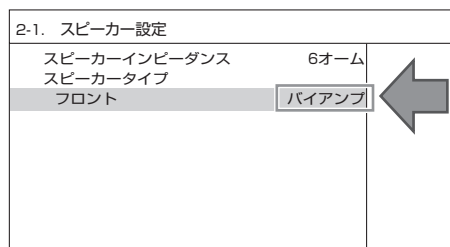
次に、本機の主電源を切り、下図のように FRONT L/R 端子、SURR BACK L/R 端子とスピーカーを接続します。

フロントスピーカーをバイアンプ接続する

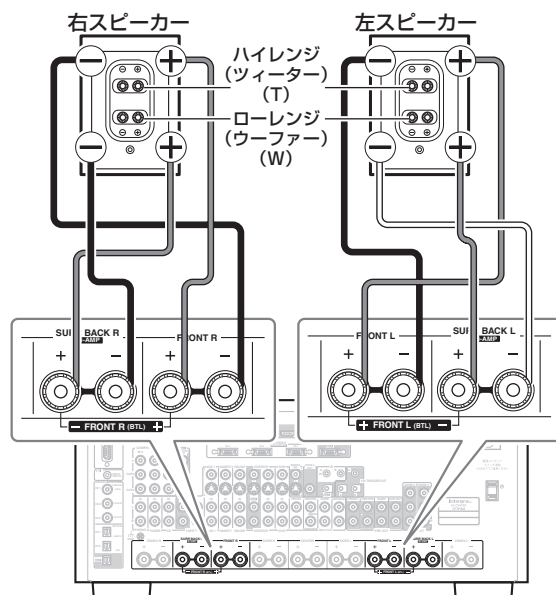
バイアンプ接続すると、高域と低域を分けてスピーカーに送ることができます。フロントスピーカーの端子から高域を、サラウンドバックスピーカーの端子から低域を出力することができます。

■ フロントスピーカーをバイアンプ接続する

ご注意

- バイアンプ接続に対応したスピーカー以外ではバイアンプ接続はできません。
- **バイアンプ接続では必ず FRONT L/R 端子はスピーカーのツイーター端子に、SURR BACK L/R 端子はスピーカーのウーファー端子にそれぞれ接続してください。**
- **バイアンプ接続ではスピーカーのウーファー端子とツイーター端子をつないでいるショートバーを必ず外してください。**
- バイアンプ接続時、本機は最大 5.1 チャンネルのサラウンド再生となります。

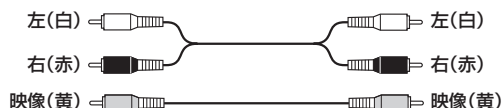
本機後面のスピーカーケーブルをすべて外し、本機の電源を入れて、OSD メニュー「スピーカータイプ」の「フロント（スピーカー A）」を「バイアンプ」に設定します。

設定方法については、45 ページをご覧ください。

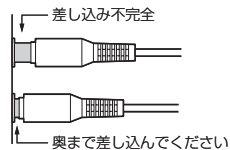
次に、本機の主電源を切り、下図のように FRONT L/R 端子、SURR BACK L/R 端子とスピーカーを接続します。

接続する

接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（R の表示）、白いコネクターを左チャンネル（L の表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（V の表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子 / 出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてシャッタータイプですので、シャッターをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、シャッターが破損する場合があります。

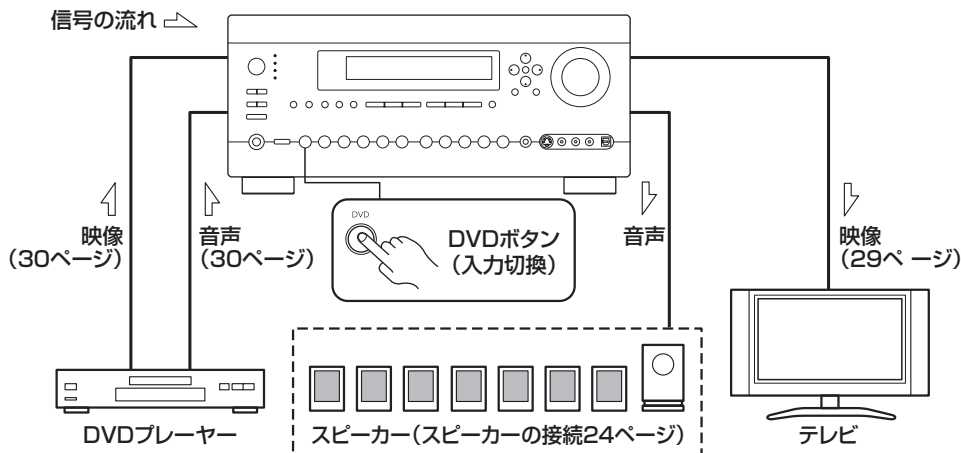
映像 / 音声ケーブルと端子の種類について

ケーブルと端子の種類

	ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
映像	コンポーネント ビデオコード	Y / PB / PR	Y / CB/PB / CR/PR	画質は S ビデオより良く、D 端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	D 端子用 接続コード		D4	画質は S ビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
映像	S ビデオコード		S	コンポジットの映像より良い画質が得られます。 本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	ビデオコード （コンポジット）		V	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
音声	光デジタルケーブル （OPTICAL（オプティカル））		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。 音質は COAXIAL と同レベルです。
音声	同軸デジタルケーブル （COAXIAL（コアキシャル））		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。 音質は OPTICAL と同レベルです。
音声	オーディオ用 ピンコード		L / R	アナログ音声を伝送します。
音声	オーディオ用 ピンコード	×4	FRONT / CENTER / SURR / SURR BACK / SUBWOOFER / MULTI CH	DVD オーディオ対応の DVD プレーヤーなどとの接続に使用します。 アナログマルチチャンネル音声を伝送します。
映像と音声	HDMI ケーブル			映像と音声をデジタル伝送します。 本機は HDMI Version 1.3a に対応しています。

AV センターを使う

DVD プレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。本機の入力切換ボタンを押すだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。

例：DVD プレーヤーと組み合わせる場合

映像接続のしくみ

本機にはビデオ、S ビデオ、D 端子、コンポーネント、HDMI の 5 種類の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。

本機では映像信号を使用機器に合わせてアップコンバート／ダウンコンバートすることができます。「HDMI モニター」設定で、映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するか、COMPONENT VIDEO OUT 端子から出力するかを選べます（☞ 48 ページ）。

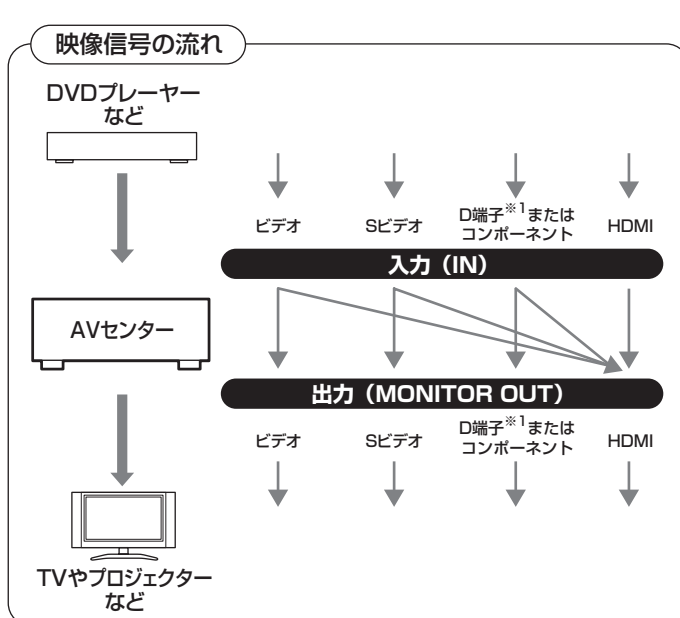
THX は、より良い映像をお楽しみいただくために、アップコンバートせず同じ入出力の信号をご使用いただくことを推奨します。（例えば、ビデオ入力はビデオ出力から、S ビデオ入力は S ビデオ出力からの信号をお楽しみください。）

「HDMI モニター」設定を“メイン”または“サブ”にした場合

「HDMI モニター」設定を“メイン”または“サブ”にした場合、入力した映像信号の流れは右図のようになります。ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）に入力された映像信号はアップコンバートされて HDMI OUT 端子から出力されます。**本機の HDMI OUT MAIN 端子にテレビを接続している場合は“メイン”に、HDMI OUT SUB 端子にテレビを接続している場合は“サブ”に設定してください。**

ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）に入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されます。

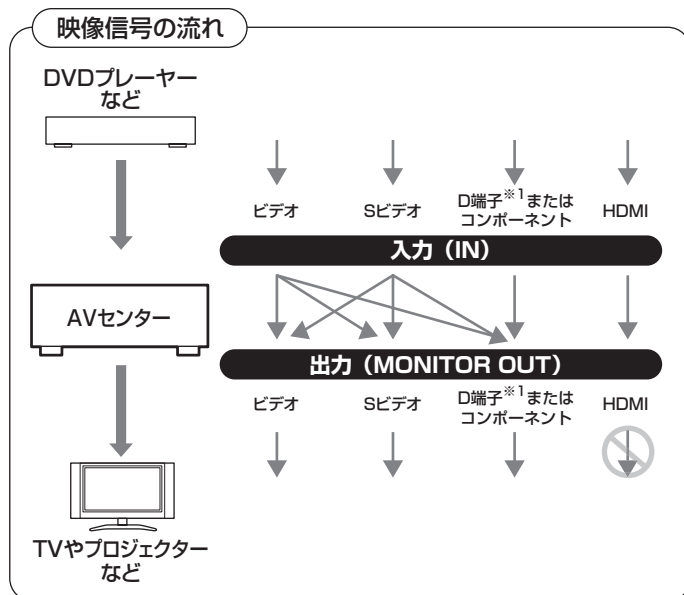
!ヒント

- ビデオ、S ビデオ端子に入力された各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するには、「HDMI 入力設定」（☞ 48 ページ）と「コンポーネント映像入力設定」（☞ 50 ページ）を両方とも“- - -”にする必要があります。

接続する

「HDMI モニター」設定を“使用しない”にした場合

「HDMI モニター」設定を“使用しない”にした場合、入力した映像信号の流れは右図のようになります。ビデオ、S ビデオの各端子に入力された映像信号はアップコンバートされて COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子または D4 VIDEO OUT 端子から出力されます。**本機の HDMI OUT 端子をテレビに接続していない場合は“使用しない”に設定してください。**

ビデオ信号は S ビデオ信号にアップコンバートされます。逆に S ビデオ信号はビデオ信号にダウンコンバートされます。コンバートされた信号は MONITOR OUT V/S の各映像端子からのみ出力されます。VCR/DVR OUT V/S の各映像端子からは出力されませんのでご注意ください。

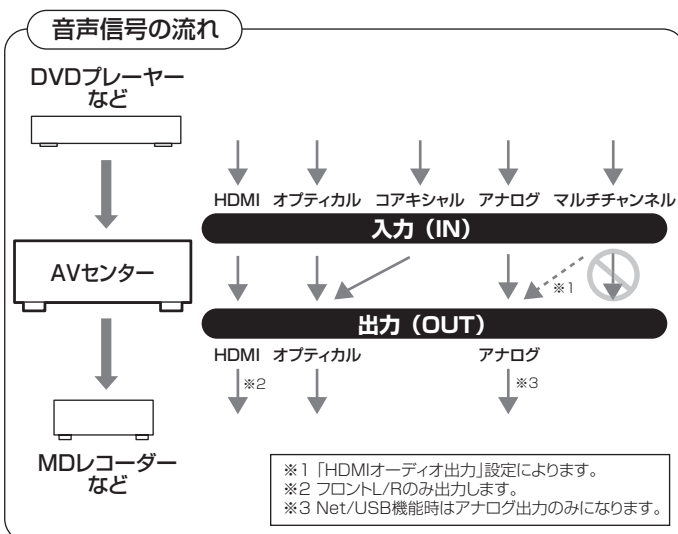
D 端子（またはコンポーネント）に入力した各映像信号は、そのまま各出力端子から出力されます。

※1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力まで D 端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

- 映像機器とビデオ端子または S ビデオ端子を使って接続するときは、コンポーネント端子の設定(☞ 50 ページ)をすると、D 端子接続やコンポーネント端子接続したモニターからも映像を出力することができます。
- HDMI 信号については、35 ページをご覧ください。

音声接続のしくみ

本機はアナログ、デジタル(光／同軸)、アナログマルチチャンネル、HDMI の音声信号入力に対応しています。
本機はデジタル入力信号を変換してアナログ出力することはできません。また逆にアナログ入力信号を変換してデジタル出力することもできません。たとえば OPTICAL 端子や COAXIAL 端子に入力した音声信号を TAPE OUT 端子から出力することはできません。

ご注意

- Net/USB 機能の音声はアナログ出力のみです。デジタル出力されません。

接続する

テレビやプロジェクターと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C、D の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと映像接続をしてください。

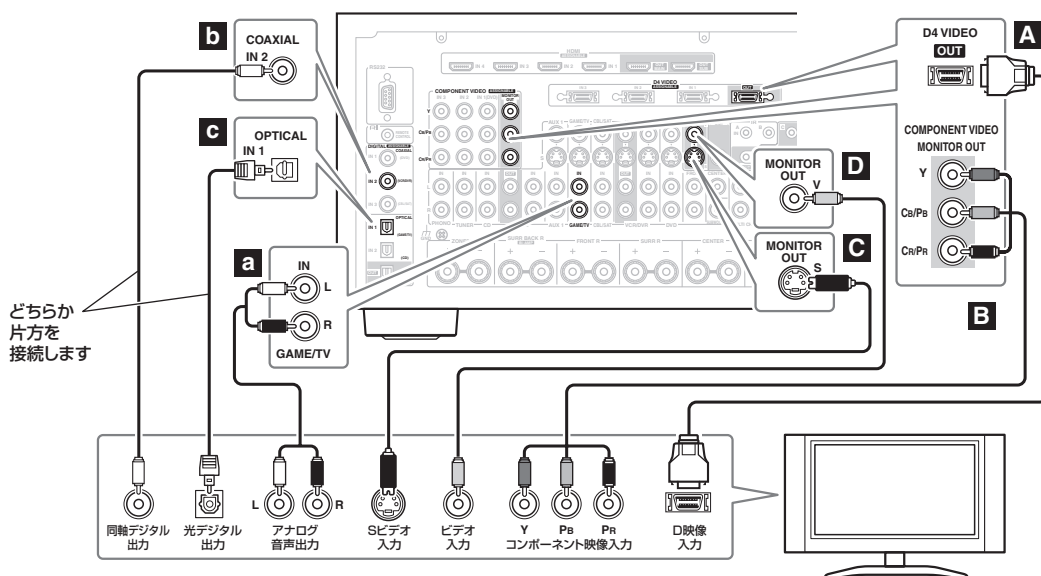
!ヒント 27 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- テレビの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI オーディオコントロール端子付テレビと連動させるときに必要です。(☞ 43 ページ)

BS デジタルや地上デジタルのサラウンド放送を楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	テレビ / プロジェクター	画質
A	D4 VIDEO OUT 端子	➡	D 映像入力端子	最良
B	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子	➡	コンポーネント映像入力端子	最良
C	MONITOR OUT S 端子	➡	S ビデオ入力端子	良い
D	MONITOR OUT V 端子	➡	ビデオ(コンポジット)入力端子	標準
a	GAME/TV L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN 2 端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN 1 端子	⬅	光デジタル出力端子	

!ヒント

- テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機の VCR/DVR IN L/R 端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。

接続する（映像機器を接続する）

DVD プレーヤーと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から1つ選んで DVD プレーヤーと映像接続をしてください。

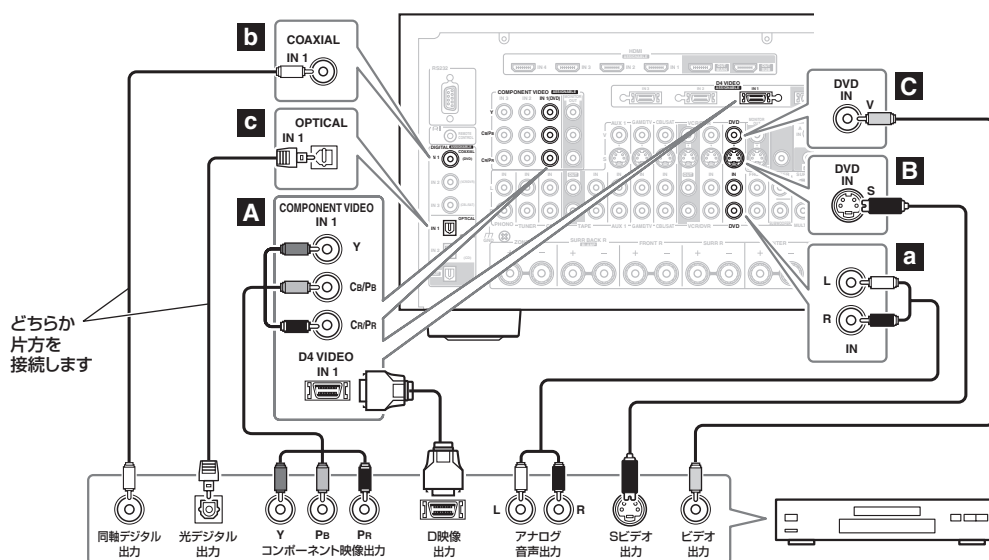
!ヒント 27 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで DVD プレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- DVD の音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI 端子付インテグラ / オンキヨー製 DVD プレーヤーと連動させるときに必要です。（☞ 42 ページ）

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	DVD プレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN 1 端子 または COMPONENT VIDEO IN 1 端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	DVD IN S 端子	⬅	S ビデオ出力端子	良い
C	DVD IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	DVD IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN 1 端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN 1 端子	⬅	光デジタル出力端子	

!ヒント

- DVD プレーヤーにマルチチャンネルと 2 チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機の DVD IN L/R 端子だけを接続するときは、DVD プレーヤーの 2 チャンネル出力端子と接続してください。マルチチャンネル接続は次ページをご覧ください。

接続する（映像機器を接続する）

■ マルチチャンネル（5.1/7.1ch）出力端子がある DVD プレーヤーと接続する

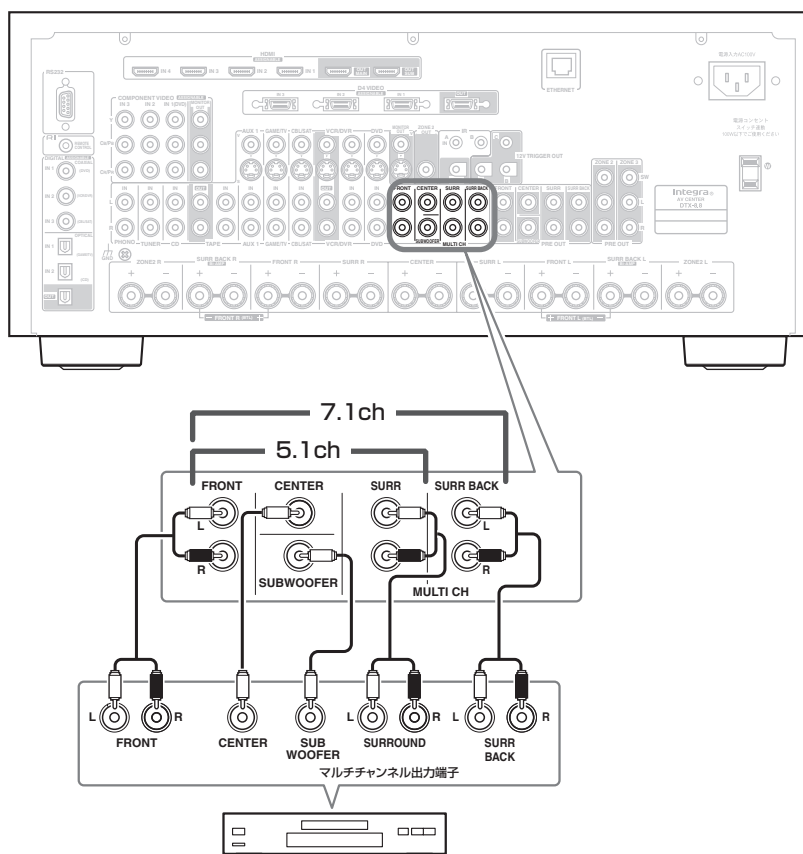
DVD オーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVD オーディオやスーパーオーディオ CD などの再生がお楽しみいただけます。

5.1 チャンネル接続

5.1 チャンネル接続するときは、マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコード 3 本を使って DVD プレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機の MULTI CH FRONT L/R、SURR L/R、CENTER、SUBWOOFER 端子を接続します。

7.1 チャンネル接続

7.1 チャンネル接続するときは、5.1 チャンネル接続に加え、オーディオ用ピンコードを使って SURR BACK L/R 端子を接続してください。

62 ページの「マルチチャンネル接続した機器を再生する」で「Audio Selector」を“Multich”に設定してください。また、この設定の前に MULTI CH IN 端子を入力切換ボタンに割り当てる必要があります（☞ 52 ページ）。

接続する（映像機器を接続する）

ビデオデッキや DVD レコーダーと接続する（再生編）

ステップ 1：映像接続をする

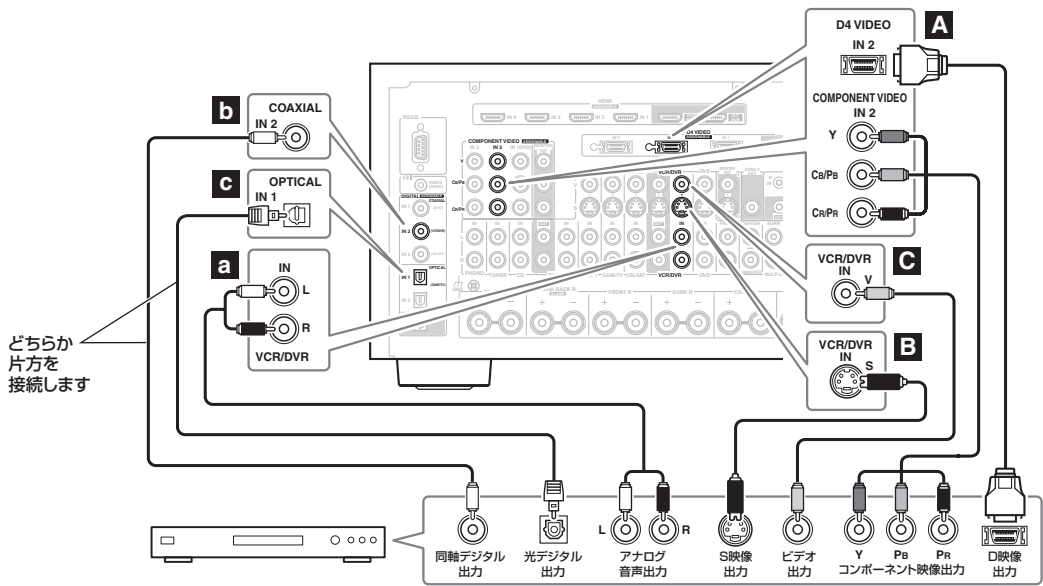
A、B、C の接続から 1 つ選んでビデオデッキや DVD レコーダーと映像接続をしてください。

!ヒント 27 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでビデオデッキや DVD レコーダーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ /DVD レコーダー	画質
A	D4 VIDEO IN 2 端子 または COMPONENT VIDEO IN 2 端子	←	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	VCR/DVR IN S 端子	←	S ビデオ出力端子	良い
C	VCR/DVR IN V 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	VCR/DVR IN L/R 端子	←	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN 2 端子	←	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN 1 端子	←	光デジタル出力端子	

!ヒント

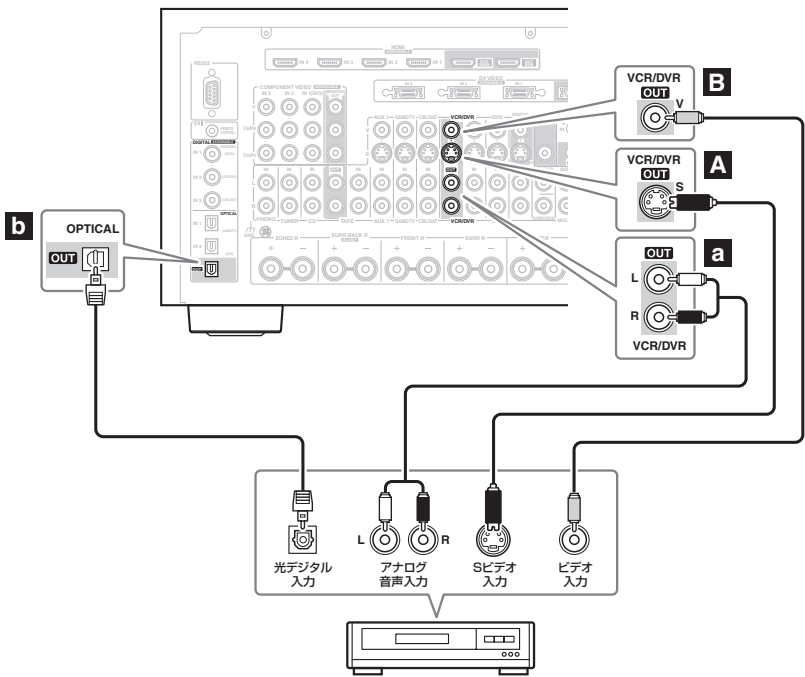
- この接続例ではビデオデッキあるいは DVD レコーダーの内蔵チューナーの音声を本機を通して楽しめます。TV に音声出力がない場合に良い音質で番組を楽しむことができます。

接続する（映像機器を接続する）

ビデオデッキや DVD レコーダーと接続する（録画編：本機を通して録画する）

ステップ 1：ビデオデッキや DVD レコーダーと A または B の映像接続をしてください。

!ヒント 27 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：アナログ録音する場合は a、デジタル録音する場合は b の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ /DVD レコーダー	画質
A	VCR/DVR OUT S 端子	➡	S ビデオ入力端子	良い
B	VCR/DVR OUT V 端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	VCR/DVR OUT L/R 端子	➡	アナログ音声入力端子	
b	DIGITAL OPTICAL OUT 端子	➡	光デジタル入力端子	

ご注意

- 録画をするときは、本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態では録画できません。

!ヒント

- 本機を通さずに TV あるいは他の機器から直接録音したい場合は、TV あるいは他の機器の音声 / ビデオ出力を録音するビデオデッキや DVR の音声 / ビデオ入力に接続してください。
- 本機の V 端子に入力したビデオ（コンポジット）信号は本機の VCR/DVR OUT V 端子を通してのみ録画できます。たとえば、TV の映像出力を GAME/TV IN V 端子に接続した場合は録画するビデオ /DVR 機器も VCR/DVR OUT V 端子に接続します。同様に GAME/TV IN S 端子に S ビデオ信号を入力した場合は、録画するビデオ /DVR 機器も VCR/DVR OUT S 端子に接続します。

接続する（映像機器を接続する）

BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーなどと接続する

ステップ 1：映像接続をする

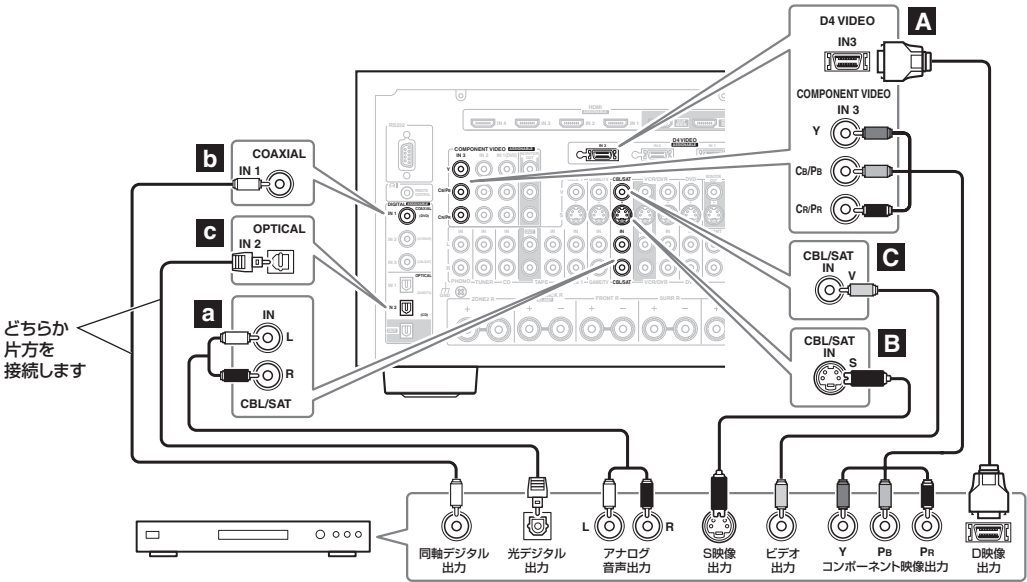
A、B、C の接続から1つ選んで BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーと映像接続をしてください。

!ヒント 27 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	BS チューナー／ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN 3 端子 または COMPONENT VIDEO IN 3 端子	←	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	CBL/SAT IN S 端子	←	S ビデオ出力端子	良い
C	CBL/SAT IN V 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	CBL/SAT IN L/R 端子	←	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN 1 端子	←	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN 2 端子	←	光デジタル出力端子	

ご注意

- 本機に LD プレーヤーの AC-3RF 出力端子は直接接続できません。LD プレーヤーでドルビーデジタル 5.1ch ソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

HDMI 端子を使って接続する

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ / プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。
従来の DVI（Digital Visual Interface）＊1 規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMI ケーブルを 1 本接続するだけで、HDMI 端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。

HDMI のビデオストリーム（映像信号）は、DVI と原理的に互換性があります。DVI 端子を装備したテレビ / モニターなどに接続するには HDMI → DVI 変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機は HDCP を使用しており、対応の機器でのみ映像が出ます。

本機の HDMI インターフェースは、以下の規格に基づいています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Informational Version 1.3a

対応音声フォーマット
- 2 チャンネルリニア PCM（32 ～ 192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニア PCM（7.1ch、32 ～ 192kHz）
- ビットストリーム（DSD、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolusion、DTS-HD Master Audio、AAC）

ただし、プレーヤー側も HDMI Version 1.3a に対応している必要があります。

著作権保護について

本機は HDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）＊2 に対応しています。HDCP とは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。
本機と接続する機器も HDCP に対応していることが必要です。
本機の HDMI OUT 端子とテレビ / プロジェクターなどの HDMI 入力端子を接続します。接続には、市販の HDMI ケーブルをご使用ください。

＊1　DVI（Digital Visual Interface）: DDWG＊3 が、99 年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

＊2　HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）: Intel® が開発した HDMI/DVI 用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP 準拠の HDMI/DVI レシーバーが必要になる。

＊3　DDWG（Digital Display Working Group）: Intel®、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packard などが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

接続する（映像機器を接続する）

接続のしかた

29 ～ 34 ページの接続方法のかわりに、HDMI ケーブルで映像信号と音声信号を伝送することができます。

ステップ 1： HDMI ケーブルを使って本機の HDMI 端子と DVD プレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどの HDMI 端子と接続してください。

ステップ 2： 46 ページの「HDMI モニター」設定を“メイン”または“サブ”にしてください。

ステップ 3： 接続した HDMI IN 端子を 48 ページの「HDMI 入力設定」で割り当ててください。

● 映像信号

本機の HDMI IN 1 ～ IN 4 端子から入力したデジタル映像信号は、HDMI OUT 端子からテレビへ送られます。ビデオ（コンポジット）、S ビデオ、コンポーネントの各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力できます。

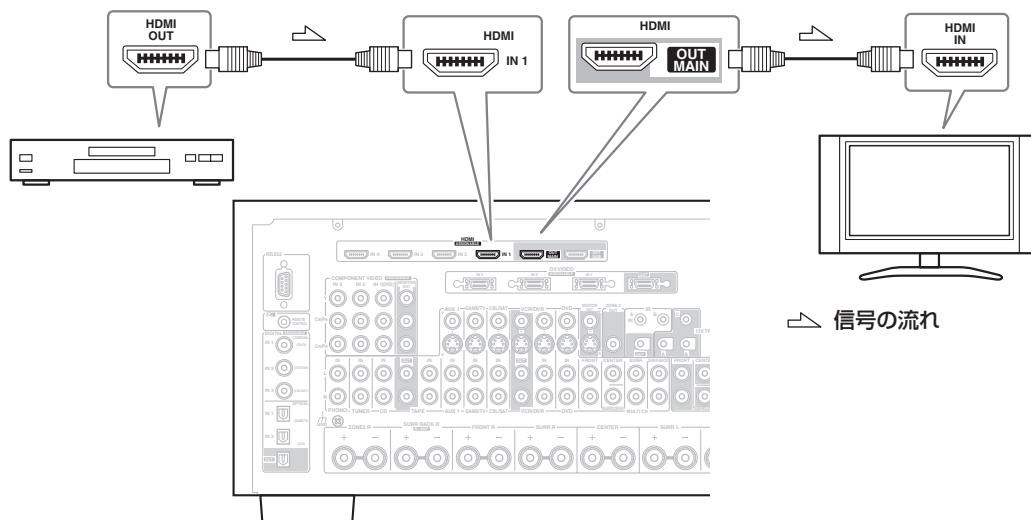
● 音声信号

本機の HDMI IN 1 ～ IN 4 端子から入力したデジタル音声信号は、本機に接続されたスピーカーやヘッドホンへ出力できます。本機の「HDMI オーディオ出力」設定を“オン”にしていない普通の状態では HDMI OUT 端子から音声は出力されません（☞ 102 ページ）。

!ヒント

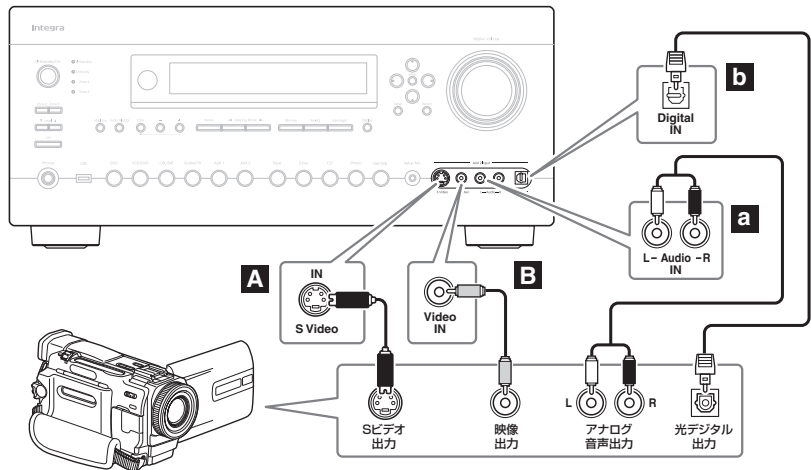
- 本機の HDMI IN 端子に入力した音声をテレビのスピーカーで聞く場合は、本機の「HDMI オーディオ出力」設定を“オン”にし（☞ 102 ページ）、次に再生機器 (DVD プレーヤー) 側の HDMI 音声出力設定を“PCM”にします。
- 接続した HDMI 機器の音声を本機に接続されたスピーカーで聞く場合は、テレビに接続した HDMI 機器の映像が映る状態にしてください（テレビ側の HDMI 入力選択が本機を接続した入力に正しく選択する）。テレビの電源がオフだったり、他の入力を選択している状態では本機に接続したスピーカーから音声が出なかったり、途切れたりする場合があります。

ご注意

- 「HDMI オーディオ出力」設定が“オン”（☞ 102 ページ）、または「TV 連動」設定が“有効”の状態でテレビのスピーカーで音声を聞いているとき、本機の Master Volume つまみを上げると本機に接続したスピーカーから音が出るようになります。本機に接続したスピーカーからの音を止めるには設定を変更するか、テレビ側の設定を変更するか、あるいは Master Volume つまみを下げてください。

接続する（映像機器を接続する）

ビデオカメラやゲーム機と接続する

ステップ 1：**A** または **B** の映像接続をしてください。

ステップ 2：**a** または **b** の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオカメラ / ゲーム機	画質
A	AUX 2 Input S Video 端子	⬅	S ビデオ出力端子	良い
B	AUX 2 Input Video 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	AUX 2 Input Audio-L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	AUX 2 Input Digital 端子	⬅	光デジタル出力端子	

接続する（オーディオ機器を接続する）

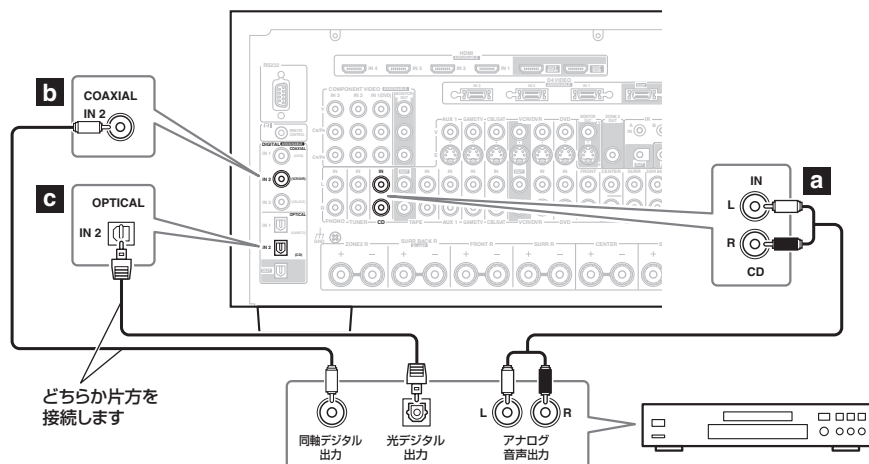
CD プレーヤーと接続する

ステップ 1：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

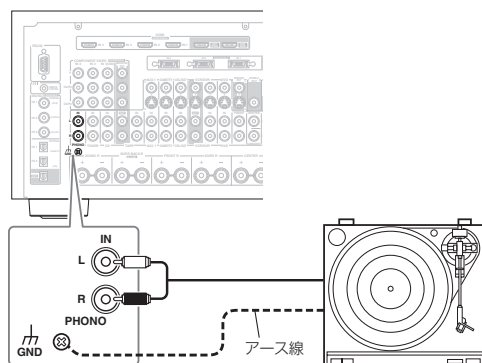
- CD の音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI 端子付オンキヨー製 CD プレーヤーと連動させるときに必要です。（☞ 43 ページ）

PCM や DTS 信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	CD プレーヤー
a	CD IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 2 端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 2 端子	⬅	光デジタル出力端子

レコードプレーヤーを接続する

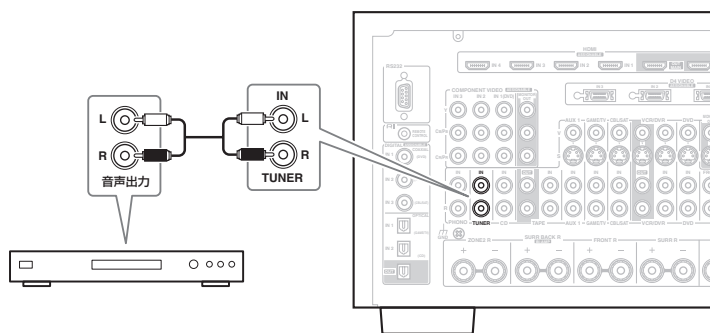
本機は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。レコードプレーヤーの接続コードを本機の PHONO IN L/R 端子に接続します。

ご注意

- アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機の GND 端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。
- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機の PHONO IN L/R 端子を接続します。

接続する（オーディオ機器を接続する）

チューナーを接続する

ステップ 1：音声接続をする

オーディオ用ピンコードでチューナーの音声出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続してください。

カセットデッキ、MDレコーダー、CDレコーダーを接続する

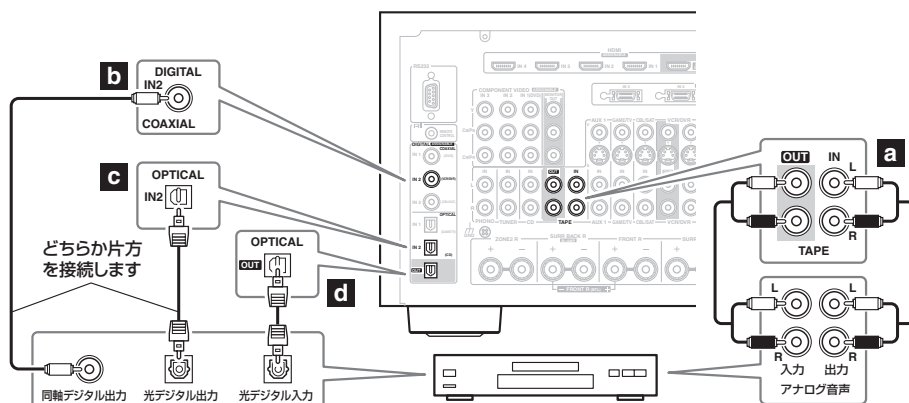
ステップ 1：音声接続をする

a、b、c、d の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- アナログ録音することができます。
- RI 端子付オンキヨー製品と連動させるときに必要です。（☞ 43 ページ）

PCMやDTS信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。

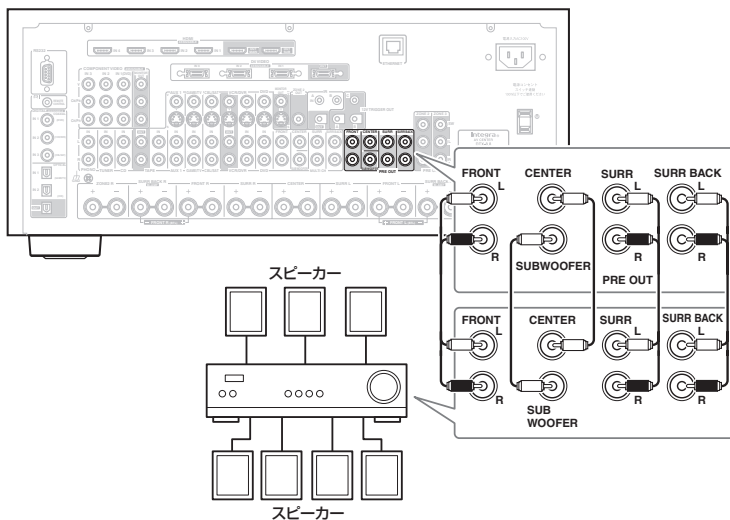
デジタル録音するときは、d の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	録音機器
a	TAPE IN L/R 端子 TAPE OUT L/R 端子	← →	アナログ音声出力端子 アナログ音声入力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 2 端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 2 端子	←	光デジタル出力端子
d	DIGITAL OPTICAL OUT 端子	→	光デジタル入力端子

接続する（オーディオ機器を接続する）

パワーアンプを接続する

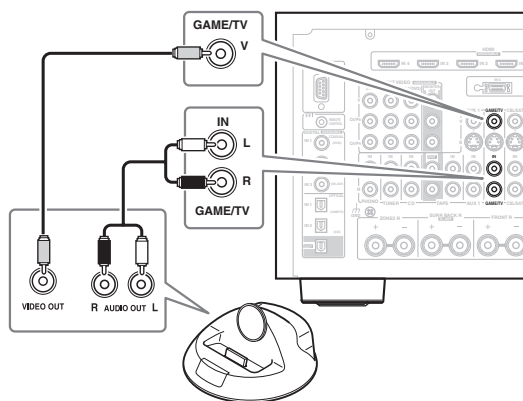
パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用する場合、各スピーカーやサブウーファーはパワーアンプに接続してください。パワーアンプの音声入力端子と本機の PRE OUT 端子を接続します。

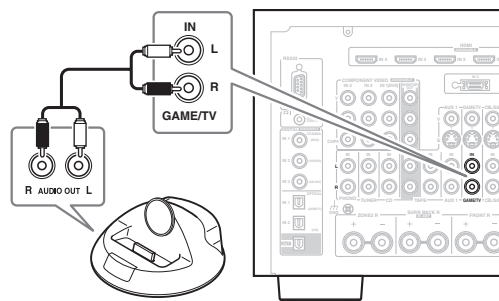
!ヒント

- PRE OUT 端子の出力はスピーカー端子からの出力と並列に出力されます。

RI ドックを接続する

ご使用の iPod がビデオ対応機種の場合

オーディオ用ピンコードで RI ドックの AUDIO OUT L/R 端子と本機の GAME/TV IN L/R 端子を接続します。ビデオコードで RI ドックの VIDEO OUT 端子と本機の GAME/TV IN V 端子を接続します。
（イラストはオンキヨー RI ドック DS-A1X の例です。）

オンキヨー RI ドック DS-A1 をご使用の場合、S ビデオコードで RI ドックの S VIDEO OUT 端子と本機の GAME/TV IN S 端子を接続します。

ご使用の iPod がビデオに対応していない機種の場合

オーディオ用ピンコードで RI ドックの AUDIO OUT L/R 端子と本機の GAME/TV IN L/R 端子を接続します。
（イラストはオンキヨー RI ドック DS-A1X の例です。）

- **本機に付属のリモコンに 4 桁のリモコンコード(6004)を最初に登録してください。**（☞ 111 ページ）
- RI ドック側で、RI MODE スイッチを HDD（あるいは HDD/DOCK）に設定してください。
- 本機の入力表示を DOCK にしてください。（☞ 58 ページ）
- RI ケーブルで RI ドックと本機を接続することも忘れずに行ってください。
- RI ドックに付属の取扱説明書もご覧ください。
- ご使用の iPod が音声のみに対応している場合、TAPE IN L/R 端子にも接続できます。

接続する（オーディオ機器を接続する）

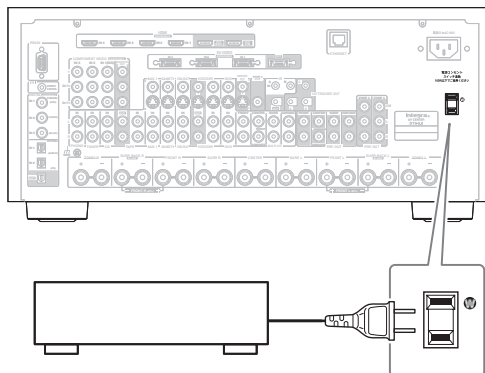
オーディオ機器の電源プラグを本機につなぐ

本機は後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用する製品の電源プラグを差し込むことができます。本機の電源を入れると他機の電源も連動して入ります。
RI端子付きのインテグラ / オンキヨー製品は、常時通電しているコンセントにつないでください。

ご注意

- 本機には 100W を超える機器を接続しないでください。

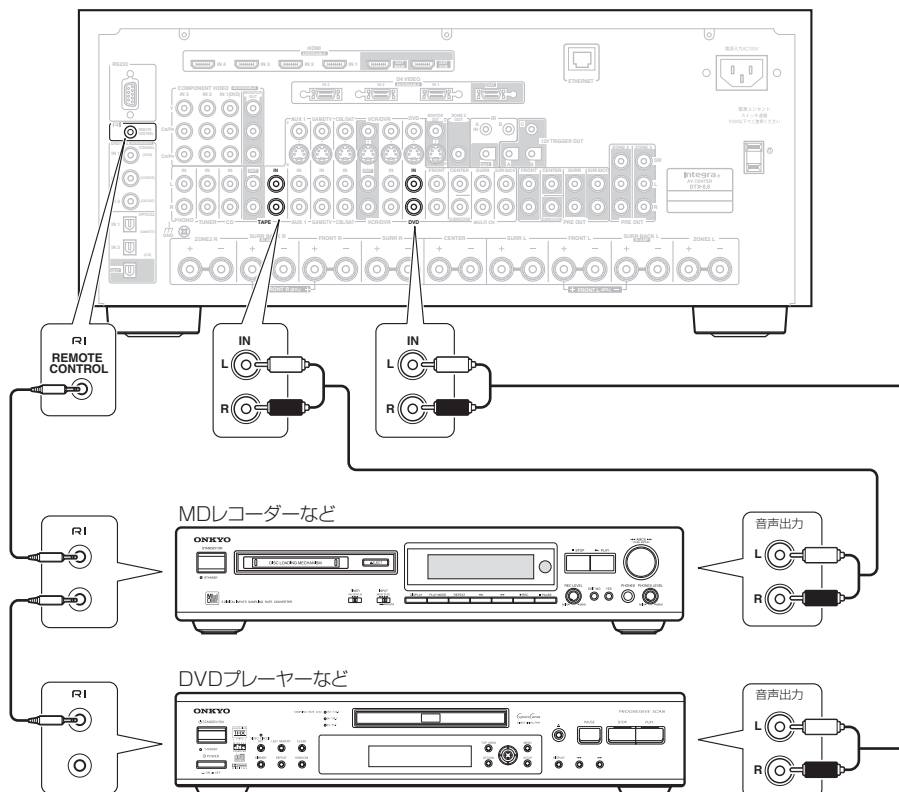
よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードに目印がある場合は目印線側を本機の電源コンセントのⓌ側に合わせてください。他機の電源コードに目印がない場合はどちらを接続してもかまいません。

外部コントロール機器を本機につなぐ

外部コントロール機器を本機につないで、外部から本機をコントロールすることができます。
外部から本機をコントロールするには、本機の RS232 端子または ETHERNET 端子のいずれかと外部コントロール機器を接続します。ETHERNET 端子に接続する場合は、本機の「ネットワーク設定」で「コントロール」を“有効”にして「ポート」を指定します（☞ 75 ページ）。
コントロールできる内容および外部コントロール機器の設定については、お使いのコントロール機器の取扱説明書をご覧ください。

接続する

インテグラ / オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのインテグラ / オンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。29 ～ 40 ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ご注意

- RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント(AC OUTLET)に接続されている場合はこの機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。
DVD プレーヤーのマルチチャンネル再生をする場合は、Audio Selector ボタンを押して “Multich” を選ぶ必要があります（☞ 62 ページ）。

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます(☞16 ～ 20 ページ)。

ご注意

- 58 ページの「入力表示を切り換える」もご覧ください。
- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が 2 つある場合、2 つの端子の働きは同じです。どちらにも接続できます。
- 新旧製品の連動動作の対応 / 非対応については、コールセンターにお問い合わせください。

接続する

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

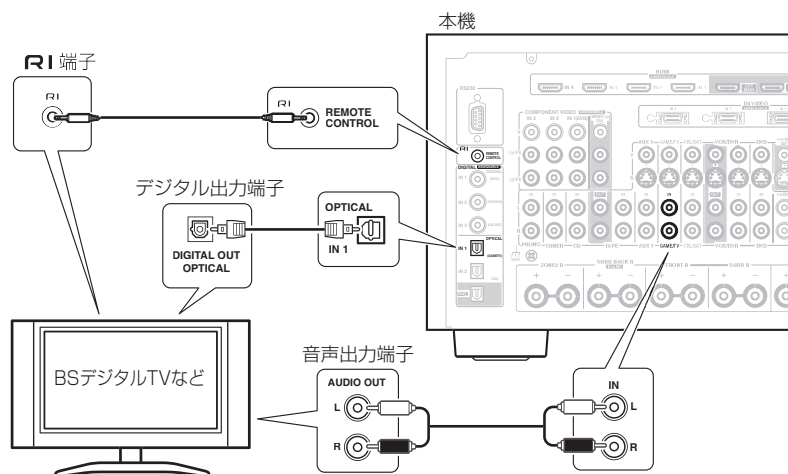
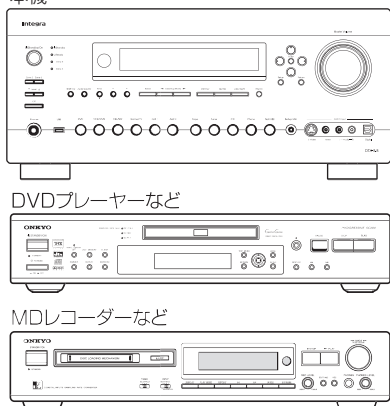
ご注意

● HDMI コントロールを"有効"にしている場合(☞ 103 ページ)は、本機の RI 端子とテレビを接続しないでください。HDMI コントロールと RI オーディオコントロールの両方が機能し、誤動作の原因となることがあります。

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。
①テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る(スタンバイにする)と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。
②テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング(消音)ができます。
③本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード(抵抗なし)を別途お求めください。

接続のしかた

● 本機の GAME/TV IN L/R 音声入力端子を接続する
● モノラルミニプラグコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
● テレビの光デジタル音声出力端子と本機の DIGITAL IN 1（OPTICAL)端子と接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

● 他のインテグラ / オンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
● RI端子が 2 つある製品の場合、2 つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
● RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

接続する

電源コードを接続する

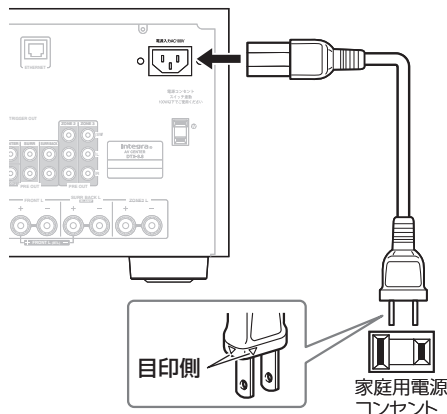
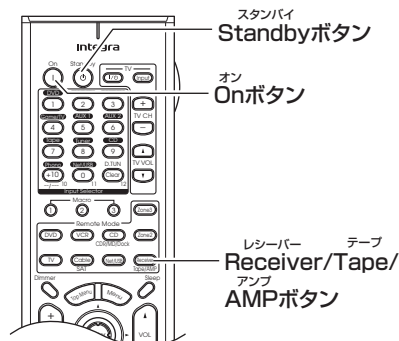
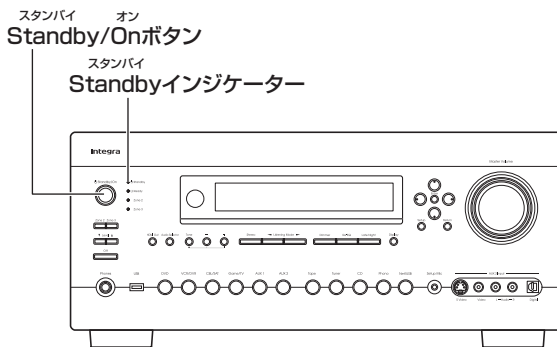
電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。
付属の電源コード以外は使用しないでください。この電源コードは本機専用です。
家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で AC INLET から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

電源を入れる

1

本体の Standby/On ボタン、またはリモコンの Receiver/Tape/AMP Mode ボタンを押し、On ボタンを押す

Standby インジケーターが消え、表示部が点灯します。

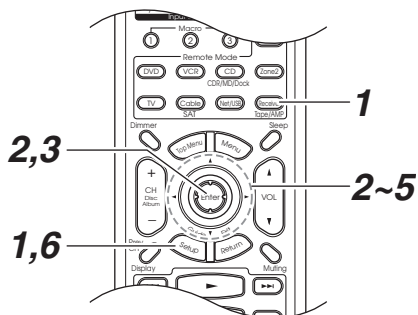
リモコンの On ボタンをもう一度押すと、RI 接続したすべての機器の電源が入ります。

スタンバイ状態に戻すには

本体の Standby/On ボタンまたはリモコンの Standby ボタンを押します。

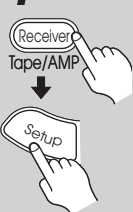
初期設定をする

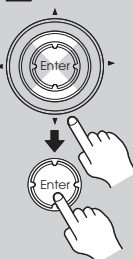
スピーカーの基本設定をする

この項目は自動スピーカー設定（☞54 ページ）では自動設定されません。
この設定を変更した場合、もう 1 度自動スピーカー設定を行ってください。

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）、フロントスピーカーの接続方法（通常、BTL 接続、バイアンプ接続）を設定します。

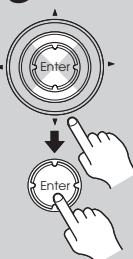
ご注意

- 設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

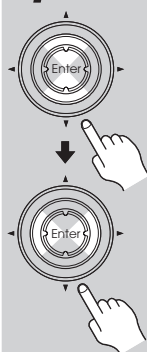
2

▲ / ▼ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲ / ▼ボタンを押して「1. スピーカー設定」を選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2-1. スピーカー設定	
スピーカーインピーダンス	6オーム
スピーカータイプ	
フロント	通常

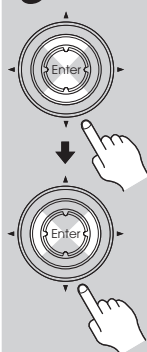
4

▲ / ▼ボタンを押して「スピーカーインピーダンス」を選び、◀ /▶ボタンを押して「4 オーム」または「6 オーム」を選ぶ

4 オーム：接続したスピーカーの中に 1 台でも 4 Ω以上 6 Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。

6 オーム：接続したスピーカーがすべて 6 Ω以上の場合に選択します。

!ヒント

- ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。

5

▲ / ▼ボタンを押して「フロント (スピーカー A)」を選び、◀ /▶ボタンを押して設定を選ぶ

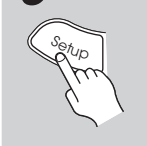
通常：通常のスピーカー接続の場合に選択します。

バイアンプ：フロントスピーカーをバイアンプ接続している場合に選択します。

BTL：フロントスピーカーを BTL 接続している場合に選択します。この設定を選択すると、「スピーカーインピーダンス」の設定値は自動的に「8 オーム」となり変更できません。（BTL 接続には 8 Ω以上のスピーカーが必要なため。）

!ヒント

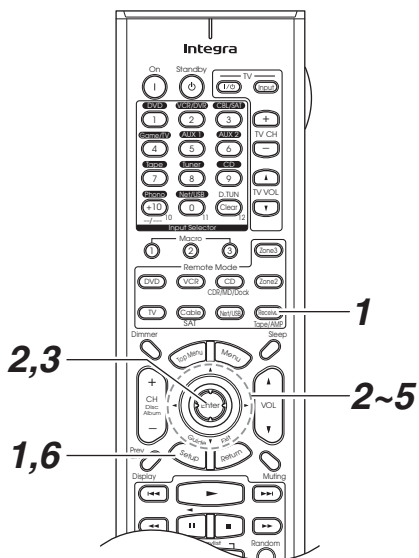
- バイアンプ接続、BTL 接続については 25 ページをご覧ください。

6

Setup ボタンを押す

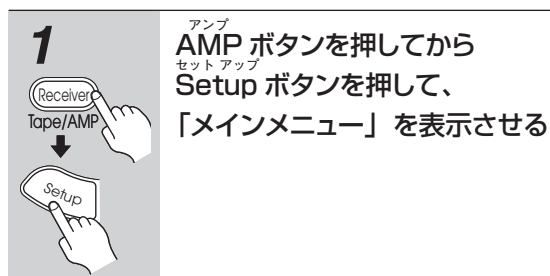
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

HDMI モニターを設定する

モニター出力端子と出力の解像度を設定します。

本機の HDMI OUT 端子にテレビを接続した場合：
テレビを接続した端子に合わせて、“メイン”または“サブ”に設定してください。正しく設定されると、OSD メニューが画面表示されます。またビデオ、S ビデオ、コンポーネントの各映像入力信号はアップコンバートされて HDMI OUT 端子から出力されます。

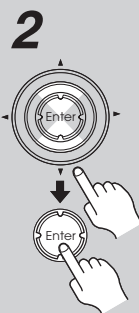
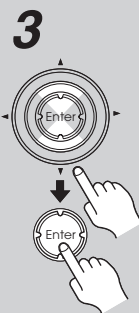
本機の HDMI OUT 端子以外にテレビを接続した場合：
「HDMI モニター」設定を必ず“使用しない”に設定してください。正しく設定されると、OSD メニューが画面表示されます。またビデオ、S ビデオの各映像入力信号はアップコンバートされて COMPONENT VIDEO OUT 端子から出力されます。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲ / ▼ボタンを押して「1. 入力 / 出力設定」を選び、Enter ボタンを押す

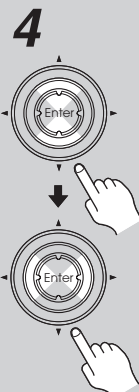
サブメニュー画面が表示されます。

3

▲ / ▼ボタンを押して「1. モニター出力設定」を選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1-1.　モニター出力設定

HDMI モニター	メイン
解像度	スルー

4

▲ / ▼ボタンを押して「 HDMI モニター」を選び、◀ / ▶ボタンで設定を選ぶ

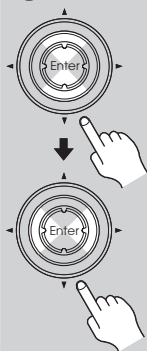
使用しない： テレビを HDMI OUT MAIN 端子、HDMI OUT SUB 端子以外に接続した場合に選びます。

メイン： テレビを HDMI OUT MAIN 端子に接続した場合に選びます。

サブ： テレビを HDMI OUT SUB 端子に接続した場合に選びます。

ご注意

- OSD メニュー画面は、“メイン”を選んでいるときは HDMI OUT MAIN 端子、“サブ”を選んでいるときは HDMI OUT SUB 端子からのみ出力されます。HDMI OUT 端子以外にテレビを接続しているとき、誤って“メイン”または“サブ”を選ぶとメニュー画面は消えます。その場合は本体の HDMI Out ボタンで“No”に設定してください。

5

▲/▼ボタンを押して「解像度」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

スルー：
入力信号の解像度とおなじ解像度で本機でコンバージョンしないでそのまま出力する場合に選択します（お買い上げ時の設定）。

自動：
テレビが対応していない解像度を自動でコンバートする場合に選択します。ただし「HDMI モニター」設定が“使用しない”のときは選べません。

480p：
480p の解像度で出力する場合、あるいは 480p にコンバートして出力する場合に選択します。

720p：
720p の解像度で出力する場合、あるいは 720p にコンバートして出力する場合に選択します。

1080i：
1080i の解像度で出力する場合、あるいは 1080i にコンバートして出力する場合に選択します。

1080p：
1080p の解像度で出力する場合、あるいは 1080p にコンバートして出力する場合に選択します。ただし「HDMI モニター」設定が「しない」のときは選べません。

6

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

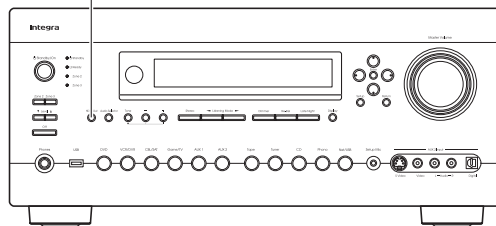
- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

ご注意

- 映像ソースに高解像度出力制限がある場合は 720p と 1080i の映像コンテンツはコンバートできません。

HDMI Out ボタンで切り替える

「HDMI モニター」設定は本体の HDMI Out ボタンでも No、Main、Sub の設定切り換えができます。

1

HDMI Out

HDMI Out ボタンを押す

現在の設定がディスプレイに表示されます。

```
HDMI  Monitor
         :  Main
```

2

HDMI Out

HDMI Out ボタンを（くり返し）押す

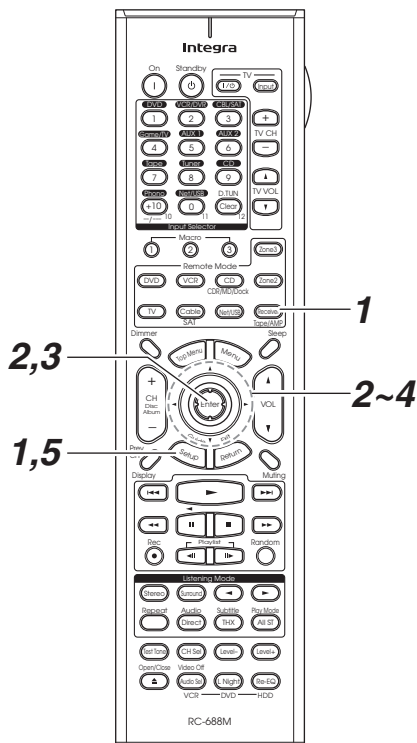
No、Main、Sub を切り替えます。

- **No：** テレビを HDMI OUT MAIN 端子、HDMI OUT SUB 端子以外に接続した場合に選びます。
- **Main：** テレビをHDMI OUT MAIN 端子に接続した場合に選びます。
- **Sub：** テレビを HDMI OUT SUB 端子に接続した場合に選びます。

ご注意

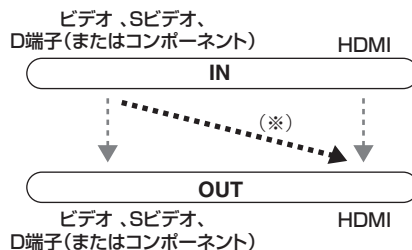
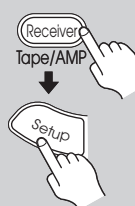
- **OSD メニュー画面は、“メイン”を選んでいるときは HDMI OUT MAIN 端子、“サブ”を選んでいるときは HDMI OUT SUB 端子からのみ出力されます。HDMI OUT 端子以外にテレビを接続しているとき、誤って“メイン”または“サブ”を選ぶとメニュー画面は消えます。その場合は本体の HDMI Out ボタンで“No”に設定してください。**

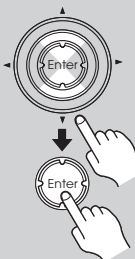
入力の設定をする

HDMI 入力端子の設定

HDMI IN 1 ～ IN 4 端子に、HDMI 出力端子のある DVD プレーヤーなどを接続しているときに設定します。

たとえば、DVD プレーヤーを本機の HDMI IN 1 端子に接続したときは、DVD に「IN 1」を割り当ててください。

DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、Game/TV、AUX1、AUX2、TAPE、TUNER、CD、PHONO の各入力に設定できます。

HDMI ケーブルで本機の HDMI OUT 端子にテレビを接続した場合、"- - -" に設定すると、ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）の各映像入力信号をアップコンバート（※）して HDMI OUT 端子から出力できます。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから Setup（セット アップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

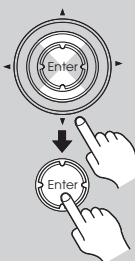
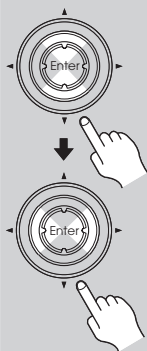
2

▲/▼ボタンを押して「1. 入力 / 出力設定」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「2. HDMI 入力設定」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

**▲/▼ボタンを押して
設定する入力を選び、
◀/▶ボタンで設定を選ぶ**

IN1： 映像機器を HDMI IN 1 端子に接続した場合に選びます。
IN2： 映像機器を HDMI IN 2 端子に接続した場合に選びます。
IN3： 映像機器を HDMI IN 3 端子に接続した場合に選びます。
IN4： 映像機器を HDMI IN 4 端子に接続した場合に選びます。
- - -： ビデオ、S ビデオ、コンポーネントの各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力する場合に選びます。

ご注意

- **アップコンバートして HDMI OUT MAIN 端子、HDMI OUT SUB 端子から出力する場合、必ず「HDMI モニター」設定を、テレビを接続した端子に合わせて“メイン”または“サブ”(☞ 46 ページ)にして下さい。**

5

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

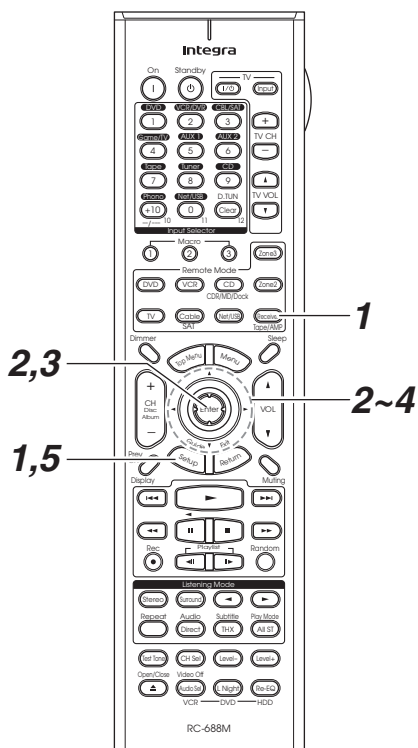
!ヒント

- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

ご注意

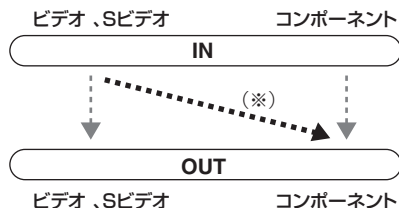
- ビデオ、S ビデオ端子に入力された各映像信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力するには、「HDMI 入力設定」(46 ページ) と「コンポーネント映像入力設定」(☞ 50 ページ)を両方とも“- - -”にする必要があります。
- HDMI IN 1 ～ IN 4 の各入力端子に割り当てできる入力切換ボタンは 1 つまでです。
- ビデオ、S ビデオ、D 端子(またはコンポーネント)の各映像入力信号をアップコンバートして HDMI OUT 端子から出力する場合は、必ず「HDMI モニター」設定を、テレビを接続した端子に合わせて“メイン”または“サブ”にします。
- HDMI IN 1 ～ IN 4 を設定した入力切換ボタンには、自動的に同じ HDMI 1 ～ 4 のデジタル音声入力が割り当てられます。(☞ 51 ページ)

初期設定をする

コンポーネントビデオ端子の設定

D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO OUT 端子にテレビなどのモニターを接続しているときに設定します。お買い上げ時の設定では、下の表のようにDVD 以外は設定されていません。
ここで設定した映像入力端子からの映像が、D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO OUT 端子から出力されます。各入力ごとに設定できます。

本機の D4 VIDEO IN 端子に映像機器を接続した場合、必ず D4 VIDEO IN 端子を入力切換ボタンに割り当ててください。たとえば D4 VIDEO IN 3 端子に DVD プレーヤーを接続した場合、入力切換ボタン DVD を D4 3 に設定します。

入力	映像入力端子の初期設定
DVD	RCA1(色差入力)
VCR/DVR	- - -
CBL/SAT	- - -
GAME/TV	- - -
AUX 1	- - -
AUX 2	- - -
TAPE	- - -
TUNER	- - -
CD	- - -
PHONO	- - -

コンポーネントビデオケーブルで本機の COMPONENT VIDEO OUT 端子にテレビを接続した場合、設定を“- - -”にすると、ビデオ、S ビデオの各映像入力信号をアップコンバート（※）して COMPONENT VIDEO OUT 端子から出力できます。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲ /▼ボタンを押して「1. 入力 / 出力設定」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲ /▼ボタンを押して「3. コンポーネント映像入力設定」を選び、Enter ボタンを押す

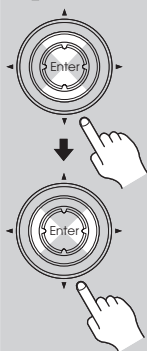
設定画面が表示されます。

1-3.　コンポーネント映像入力設定

DVD	RCA1(色差入力)
VCR/DVR	---
CBL/SAT	---
GAME/TV	---
AUX1	---
AUX2	---

1-3.　コンポーネント映像入力設定

TAPE	---
TUNER	---
CD	---
PHONO	---

4

▲/▼ボタンを押して割り当てたい入力切換ボタンを選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

RCA 1：映像機器をCOMPONENT VIDEO IN1端子に接続した場合に選びます。
RCA 2：映像機器をCOMPONENT VIDEO IN2端子に接続した場合に選びます。
RCA 3：映像機器をCOMPONENT VIDEO IN3端子に接続した場合に選びます。
D4入力1：映像機器をD4 VIDEO IN1端子に接続した場合に選びます。
D4入力2：映像機器をD4 VIDEO IN2端子に接続した場合に選びます。
D4入力3：映像機器をD4 VIDEO IN3端子に接続した場合に選びます。
- - -：映像機器をVまたはSのビデオ端子に接続した場合に選びます。各映像信号はアップコンバートされてCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力されます。

ご注意

- ビデオ、Sビデオ端子に入力された各映像信号をアップコンバートしてCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力するには、「HDMI入力設定」（☞46ページ）と上記のコンポーネントビデオ端子の設定を両方とも“- - -”にする必要があります。

5

Setup ボタンを押す

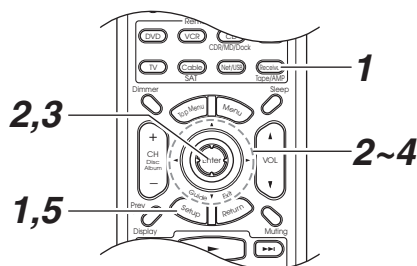
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

デジタル音声入力端子の設定

デジタル音声入力端子の接続は、ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル音声入力端子は、お買い上げ時の設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- 接続した機器がデジタル音声入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル音声入力端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を“- - -”にする必要があります。

入力	デジタル 音声入力端子の初期設定
DVD	COAX1(同軸入力)
VCR/DVR	COAX2(同軸入力)
CBL/SAT	COAX3(同軸入力)
GAME/TV	OPT1(光入力)
AUX1	- - -
AUX2	FRONT（固定）
TAPE	- - -
TUNER	- - -
CD	OPT2(光入力)
PHONO	- - -

- 46ページでHDMI端子を割り当てた入力には、本設定も自動的にHDMI端子が割り当てられます。また、この入力に他のデジタル音声入力を割り当てることもできます。

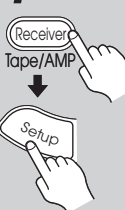
例：

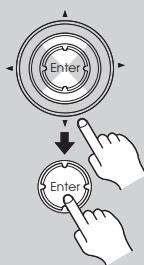
本機後面のOPTICAL 1端子にCDプレーヤーを接続した場合

CDのデジタル音声入力端子の初期設定は“OPT 2”のため、“OPT 1”に設定を変更します。

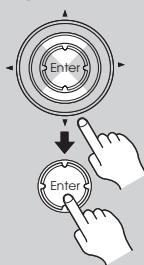
DVDプレーヤーとアナログ接続のみをした場合

DVDのデジタル音声入力端子の初期設定は“COAX 1”のため、“- - -”に設定を変更します。

1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

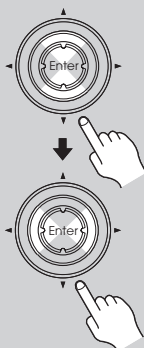
2

▲/▼ボタンを押して
「1. 入力 / 出力設定」を選び、
Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲ / ▼ボタンを押して
「4. デジタル音声入力設定」を
選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1-4. デジタル音声入力設定	
DVD	COAX1(同軸入力)
VCR/DVR	COAX2(同軸入力)
CBL/SAT	COAX3(同軸入力)
GAME/TV	OPT1(光入力)
AUX1	---
AUX2	フロント入力
TAPE	---
TUNER	---
CD	OPT2(光入力)
PHONO	---

4

▲ /▼ボタンを押して
設定する入力を選び、
◀ /▶ボタンで設定を選ぶ

以下のデジタル音声入力端子を割り当てることができます。

COAX 1 ：(COAXIAL 1 端子)
COAX 2 ：(COAXIAL 2 端子)
COAX 3 ：(COAXIAL 3 端子)
OPT 1 ：(OPTICAL 1 端子)
OPT 2 ：(OPTICAL 2 端子)
- - - ：(アナログ)

- 入力が AUX 2 のときは、FRONT（前面パネルのデジタル入力端子)に固定となります。
- 46 ページで HDMI 端子を設定した入力に、その HDMI 端子を割り当てることができます。

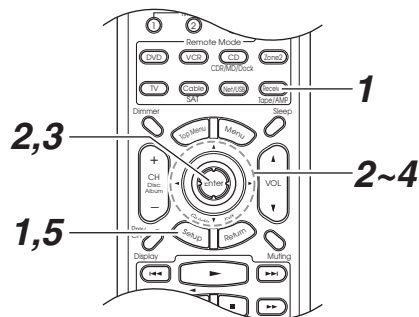
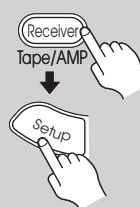
5

Setup ボタンを押す

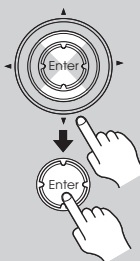
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

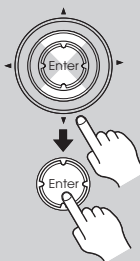
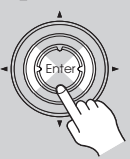
- 本体の Setup ボタン、▲/ ▼ / ◀ / ▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

アナログ音声入力の設定

本機の MULTI CH 端子に DVD プレーヤーなどを接続した場合、必ず入力切換ボタンに割り当てます。

1

AMP ボタンを押してから
Setup ボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

2

▲ /▼ボタンを押して
「1. 入力 / 出力設定」を選び、
Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲ / ▼ボタンを押して
「5. アナログ音声入力設定」を
選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1-5. アナログ音声入力設定	
マルチチャンネル	使用しない

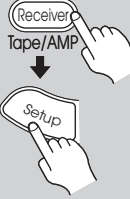
4

◀/▶ボタンを押して、MULTI CH 端子からの音声入力を割り当てたい入力切換ボタンを選ぶ

MULTI CH 端子は下記の切換ボタンに割り当てます。
DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、Game/TV、AUX1、AUX2、Tape、Tuner、CD、Phono の各ボタン

5

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- MULTI CH 端子に接続した機器を再生するときは、本体の Audio Selector ボタンあるいはリモコンの Audio Sel ボタンをくり返し押して "Multich" を選んでください（☞ 63 ページ）。
- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

画質の調整

映像の再生中にノイズが目立つ場合は、以下の設定で画質を調整することができます。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「1. 入力 / 出力設定」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「6. 画質調整」を選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1-6.　画質調整

画質モード	自動
エッジエンハンスメント	オフ
モスキートNR	オフ
ランダムNR	オフ
ブロックNR	オフ

4

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び◀/▶ボタンで選択する

各設定項目については下記の説明をご覧ください。

5

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

画質調整

画質モード

DVD を再生する際、その DVD がフィルムから記録されたものか、ビデオから記録されたものかによって最適な出力の仕方が変わります。この設定で DVD に合わせた画質モード(出力変換の方法)を選択することができます。

自動： 再生されるDVDに合わせて自動でビデオ/フィルムに対応します。（お買い上げ時の設定）
ビデオ： ビデオから記録された DVD（30 fps）に適した画質モードです。ビデオから記録された DVD を再生するときに選びます。
フィルム： フィルムから記録された DVD（24 fps）に適した画質モードです。フィルムから記録された DVD を再生するときに選びます。

エッジエンハンスメント

エッジエンハンスメント機能を設定します。映像の輪郭をシャープにする機能です。

オフ： エッジエンハンスメント機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
低： 少し映像の輪郭をシャープにします。
中： 「低」よりもより映像の輪郭をシャープにします。
高： 「中」よりもさらに映像の輪郭をシャープにします。

モスキート NR

モスキートノイズの低減機能を設定します。元の映像に圧縮がかかっているときなどに映像の輪郭に点の集まりが現れてぼやけてしまうことがあります。この点の集まりがモスキートノイズです。蚊の群れが飛んでいるように見えることからこう呼ばれます。

オフ： モスキートノイズの低減機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
低： モスキートノイズを少し低減します。
中： 「低」よりもよりモスキートノイズを低減します。
高： 「中」よりもさらにモスキートノイズを低減します。

ランダム NR

ランダムノイズの低減機能を設定します。ランダムノイズとは、画面上に不規則に現れる点のことです。

オフ： ランダムノイズの低減機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
低： ランダムノイズを少し低減します。
中： 「低」よりもよりランダムノイズを低減します。
高： 「中」よりもさらにランダムノイズを低減します。

ブロック NR

ブロックノイズの低減機能をオン / オフします。動きの速い映像を再生しているときなどに伝送速度が追いつかず画面上にモザイクがかったような不自然な四角が現れることがあります。この四角がブロックノイズです。

オフ： ブロックノイズの低減機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
オン： ブロックノイズの低減機能をオンにします。

ご注意

- 入力信号や他の設定によって、これらの設定は効かないことがあります。

自動スピーカー設定（Audyssey MultEQ XT）をする

接続したスピーカーの数や視聴位置までの距離などを自動で測定し、設定します。設定の前に、使用するすべてのスピーカーの接続と設置を行ってください。

測定位置

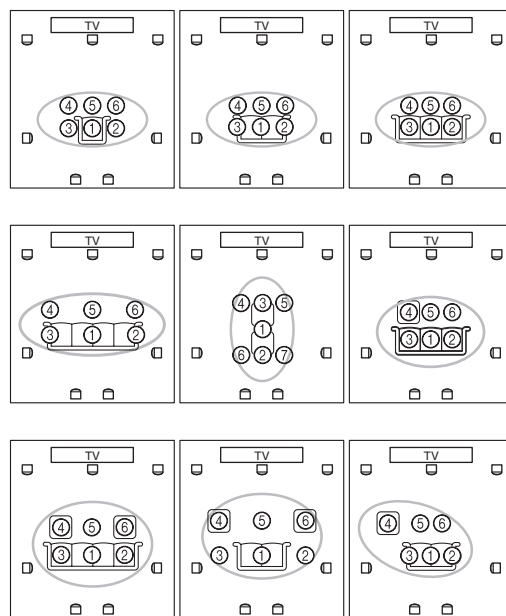
何人かで一緒にホームシアターを楽しむための最適なスピーカー設定をするため、付属の自動スピーカー設定用マイクを最高８ケ所まで設置して本体内蔵の自動測定プログラム（Audyssey MultEQ XT）で測定します。

■ １回目の測定位置

視聴する部屋の中心、あるいは一人で視聴する場合の位置にマイクを置きます。

■ ２回目〜８回目の測定位置

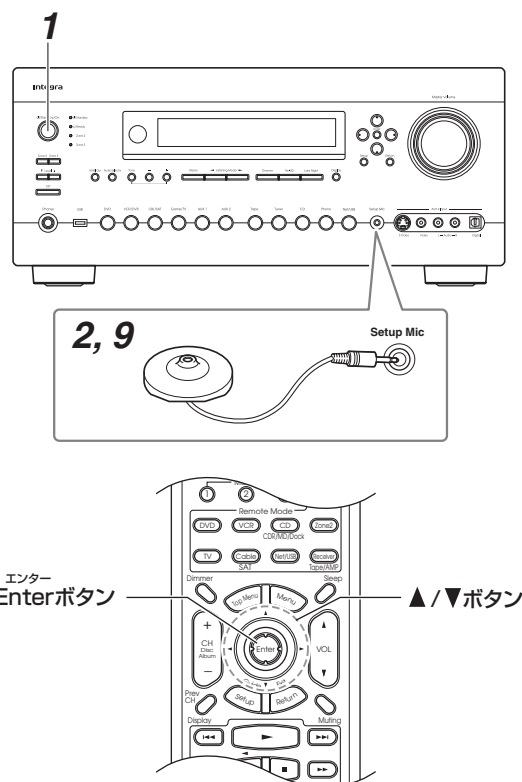
１回目の中心位置以外の視聴位置を最高８ケ所まで測定します。

下図はホームシアターの９つの典型的な視聴位置の例です。お客様のケースに一番近いものを選びマイクを設定する参考にしてください。

◯：視聴エリア
◯：視聴位置

初期設定をする

自動測定プログラム（Audyssey MultEQ XT）を使う

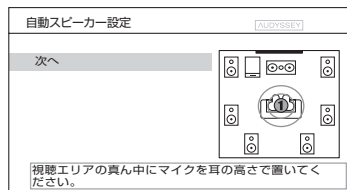
ご注意

- 接続したスピーカーの中に 1 台でも 4 Ωのスピーカーがある場合、自動スピーカー設定を始める前にスピーカーインピーダンスを変更(☞ 45 ページ)してください。
- Muting 機能が設定されていると、解除されます。
- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。
- 設定に必要な時間は 3 ケ所で約 15 分かかります。測定位置の数やスピーカーの数によって時間は変わります。
- 測定中はマイクを抜かないでください。測定が中止になります。
- 測定中にスピーカー接続を外さないでください。

1 本機の電源を入れ、接続したテレビの電源を入れる

⏻Standby/On

テレビの入力を本機を接続した入力に切り換えてください。

2 付属の自動スピーカー設定用マイクを 1 回目の測定位置に設置してから、マイクのプラグを本機の Setup Mic（セットアップ マイク）端子に接続する

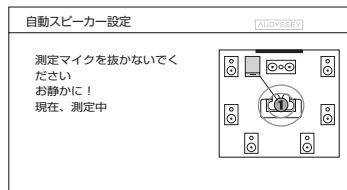
テレビに下記の画面が表示されます。

マイクを視聴時の耳に近い位置に設置します。

ご注意

- マイクは水平に置いてください。
- それぞれのスピーカーからマイクの間に障害物があると、正しく設定できません。通常の視聴時と同じ環境にしてください。

!ヒント

- 視聴するときの耳に近い位置にマイクを設置すると、正確に設定できます。三脚や水平な台を使用すると高さを調節できます。

3 Enter（エンター）ボタンを押す

測定プログラムが接続したスピーカーを順次検出してテスト音を順番に出します。検出には数分かかります。

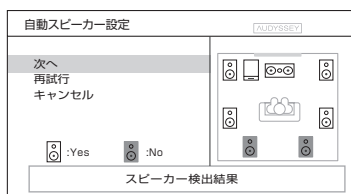
!ヒント

- 自動スピーカー設定は測定用マイクのプラグを抜くと、いつでも中止することができます。

ご注意

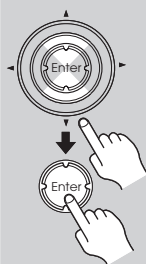
- 測定中に外部からの雑音が入ると正しく測定できないことがありますので、気をつけてください。

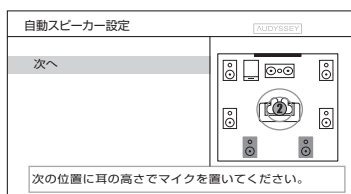
4

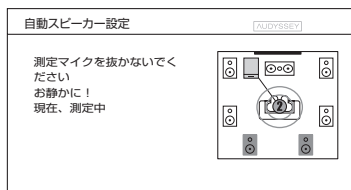
スピーカー検出結果が表示されます。

Yes： スピーカーが検出されました。
No： スピーカーは検出されませんでした。

接続したスピーカーがすべて検出されている場合は▲ / ▼ボタンで「次へ」を選び、Enter ボタンを押す

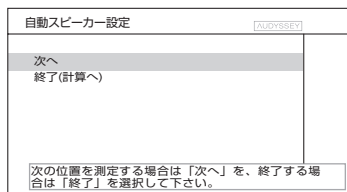
検出されていないスピーカーがある場合は▲ / ▼ボタンで「再試行」を選び、Enter ボタンを押す

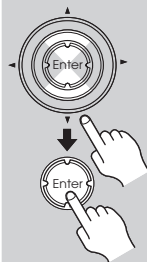
次へ： 次の操作に進むときに選びます。
再試行： 再測定するときに選びます。手順 ***3*** に戻ります。
キャンセル： 測定結果を反映しないで終了するときに選びます。

5

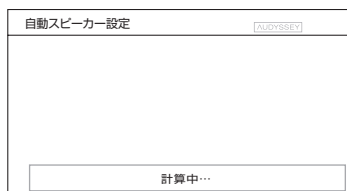
2 回目の測定位置で測定する画面が表示されます。

測定用マイクを 2 回目位置（☞ 54 ページ）に設置して Enter ボタンを押す

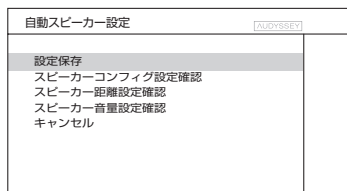
測定に数分かかります。

同じ操作を何回か続けます。

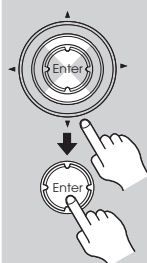
6

3 回目から 7 回目が終了すると以下の画面が表示されます。

▲ /▼ボタンで項目を選び、Enter ボタンを押す

次へ：さらに別の測定位置を測定したい場合に選びます。8 回目の位置の測定が完了すると自動で手順 ***7*** に移ります。
終了 (計算へ)：これ以上の別の測定位置は測定しない場合、またこれまでの測定結果にもとづいて最適なスピーカー設定をする計算処理をする場合に選びます。

7

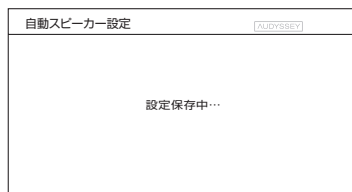
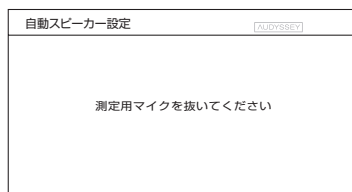
測定が完了すると計算処理開始の画面が表示されます。

8

計算処理が完了すると設定保存、設定確認をする画面が表示されます。

▲ /▼ボタンで項目を選び、Enter ボタンを押す

設定保存： 設定を保存して「自動スピーカー設定」画面を終了する場合に選びます。
スピーカーコンフィグ設定確認：「スピーカーコンフィグ設定」を確認する場合に選びます。

スピーカー距離設定確認：「スピーカー距離設定」を確認する場合に選びます。

スピーカー音量設定確認：「スピーカー音量設定」を確認する場合に選びます。

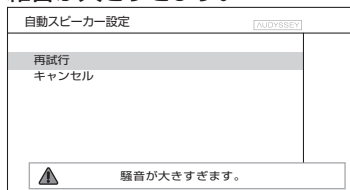
キャンセル：設定結果を反映しないで終了するときに選びます。

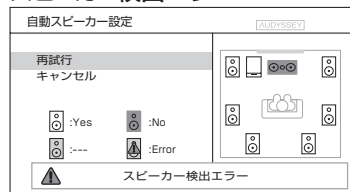
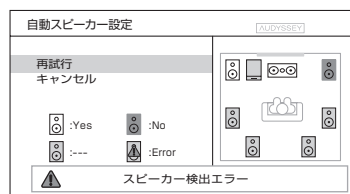
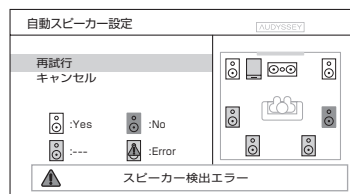
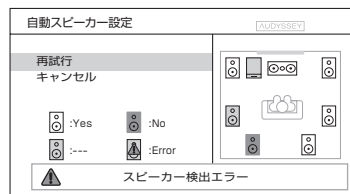
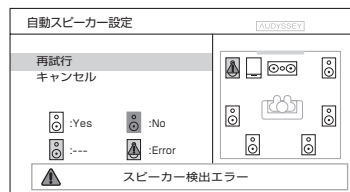
9　**「設定保存」を選ぶと保存開始の画面が表示されます。**

10　**測定用のマイクのプラグを抜く**

ご注意

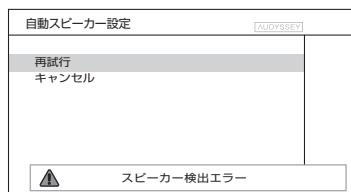
- 自動スピーカー設定が完了すると「イコライザ設定」（☞ 96 ページ）は Audyssey に設定されます。

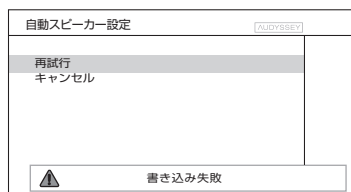
エラーメッセージ

自動スピーカー設定中にエラーメッセージが表示される場合があります。それぞれのメッセージ内容は以下のとおりです。

❑ 雑音が大きすぎます。

測定中に外部の雑音が入るとこのエラーメッセージが表示されます。雑音を取り除き再測定するか、自動スピーカー設定を中止してください。

❑ スピーカー検出エラー

スピーカーが検出されないと、このエラーメッセージが表示されます。「Yes」はスピーカーを検出したこと示し、「No」はスピーカーを検出しなかったことを示します。スピーカーのケーブル接続をチェックし再測定するか、自動スピーカー設定を中止してください。

右フロントスピーカーは検出されませんでした。

右サラウンドスピーカーは検出されませんでした。

左サラウンドバックスピーカーは検出されませんでした。

左フロントスピーカーに問題があります。

⚠ がサブウーファーに付いている場合はサブウーファーの出力レベルが大きすぎる可能性もあります。

接続スピーカーの数と違う数のスピーカーが検出されました。

❑ 書き込み失敗

自動スピーカー設定の保存ができなかったときに表示されます。保存を再度行ってみるか、自動スピーカー設定を中止してください。
くり返しこのメッセージが表示される場合は本機の誤動作の可能性があります。お近くのオンキヨー販売店にご連絡ください。

スピーカー設定をマニュアルで変更する

自動スピーカー設定による自動設定が実際の使用に必ずしも最適ではない場合があります。再測定しても結果に変更がない場合は手動でスピーカー設定を行ってください。
(☞ 81 ～ 86 ページ)

ご注意

- THX 認証スピーカーシステムを使用するときは、クロスオーバー周波数設定を 80Hz(THX) にすることをお勧めします。自動スピーカー設定を行っていても手動で 80Hz(THX) に設定し直してください。
- 低域周波数の持つ無指向性、あるいは各部屋の持つ固有の特性などにより、THX 認証スピーカーシステムはローパスフィルター設定、ダブルバス設定、ディスタンス設定を手動で設定し直してください。

アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合

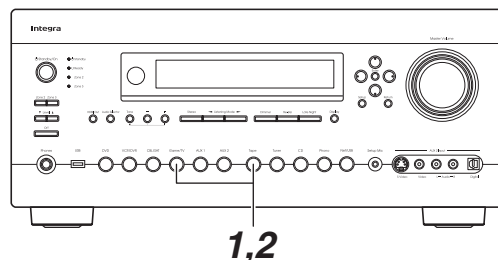
サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。測定結果を確認する画面で、サブウーファー（SW) が「No」と表示されるときは、サブウーファーの音量を八分目に、周波数を最大にした状態でご使用ください。また、カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「Off」あるいは「DIRECT」の状態にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。カットオフ周波数を「Off」にできない場合は、周波数を最大にしてご使用ください。

入力表示を切り換える

オンキヨーのRI端子付き MD レコーダー、CD レコーダーや RI ドックを本機の TAPE 端子や GAME/TV 端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。

1

Tape

または

Game/TV

入力切換ボタンの「Tape」または「Game/TV」を押し、表示部に「TAPE」または「GAME/TV」を表示させる

TAPE

または

GAME/TV

2

または

Game/TV

Tape ボタンまたは Game/TV ボタンを約 3 秒押し続けて、表示を切り換える

この手順をくり返すと以下のように表示が切り換わります。

Tape ボタン：
「TAPE」→「MD」→「CDR」→「DOCK」→「TAPE」

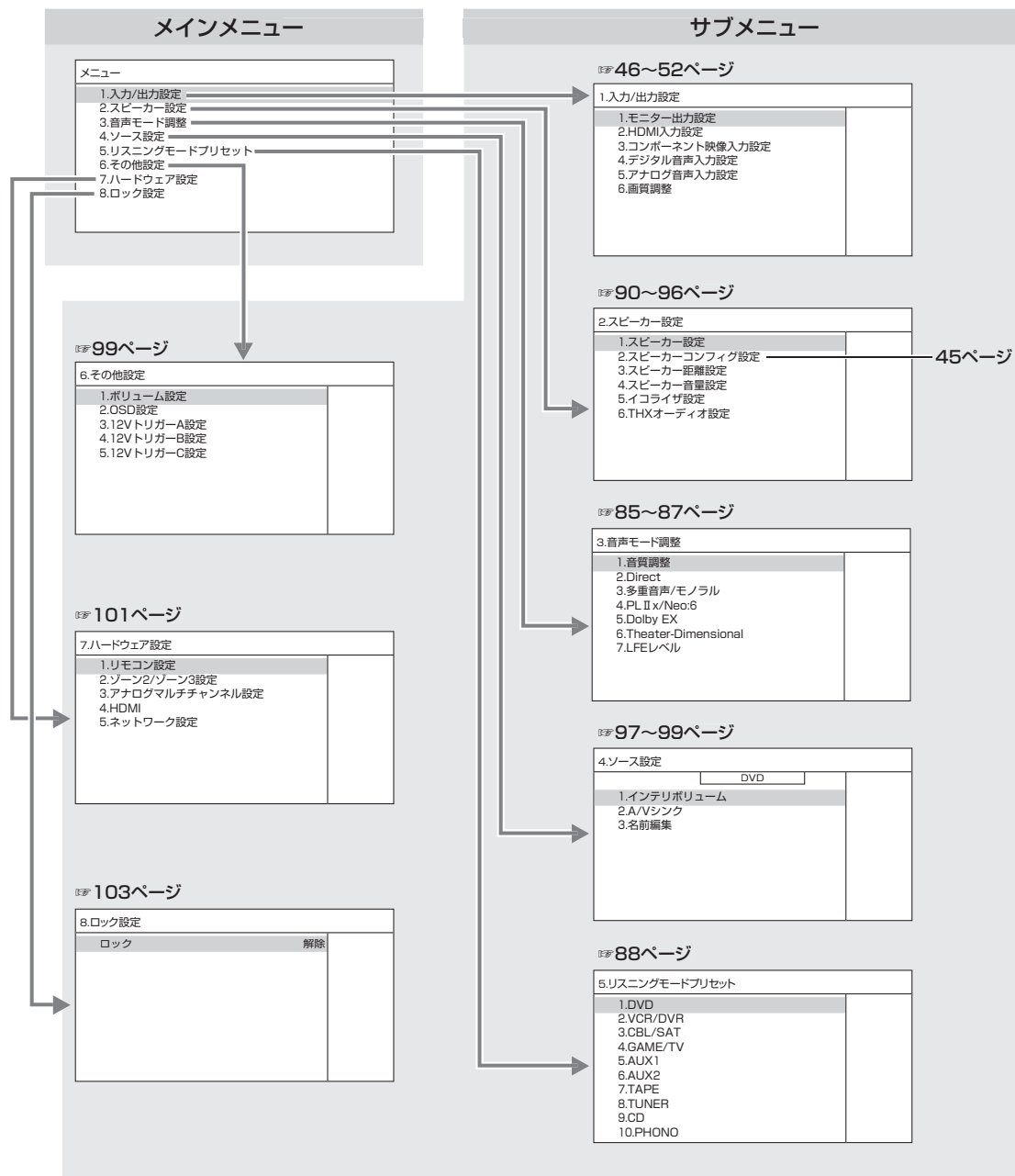
Game/TV ボタン：
「GAME/TV」→「DOCK」→「GAME/TV」

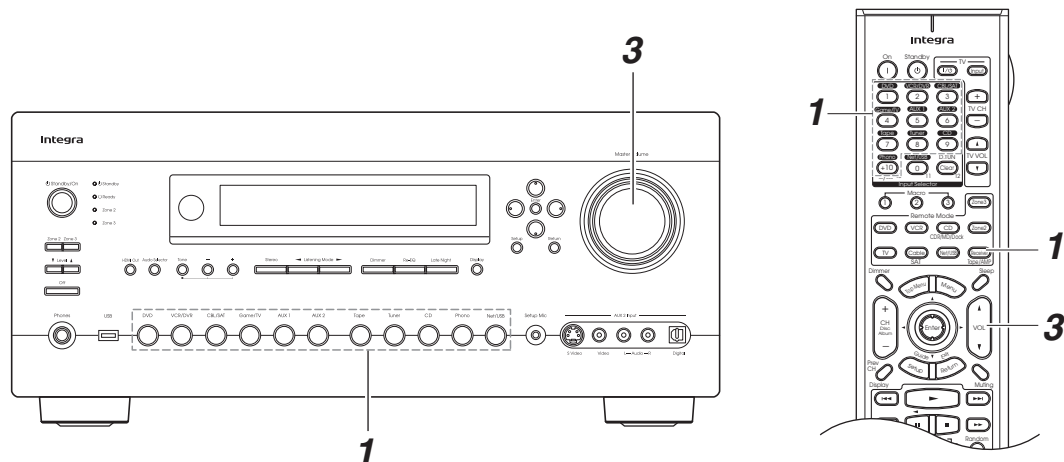
ご注意

- 「DOCK」は、「TAPE」または「GAME/TV」のどちらか片方でしか表示できません。
  どちらかで「DOCK」の表示に切り換えたときは、もう片方では切り換えることができません。

初期設定をする

OSD マップ

OSD とは On Screen Display の略で、本機での設定や操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して操作をしやすくする機能です。
自動スピーカーの設定が完了したら、初期設定を行ってください。応用設定は、お好みで設定してください。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

1

本体　リモコン

再生する機器を選ぶ

本体の入力切換ボタンを押します。または、リモコンの AMP（アンプ）ボタンを押してから Input（インプット） Selector（セレクター） ボタンを押します。

Net/USB ボタンは、押すたびに「ネットワークサーバー」「USB」「インターネットラジオ」が切り替わります。

2

選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を本機の COMPONENT VIDEO MONITOR OUT、HDMI OUT MAIN/SUB、D4 VIDEO OUT、MONITOR OUT 端子を接続した入力に切り換えてください。

また、DVD 対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

本体　リモコン

Master Volume

本体の Master（マスター） Volume（ボリューム） つまみ、またはリモコンの VOL（ボリューム）▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的に–∞ dB・－81.5dB・－81.0dB ・・・・＋ 18.0dB までの範囲で調整できます。
（100 ページで「ボリューム表示」を“相対値”に設定時）

!ヒント

- 本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

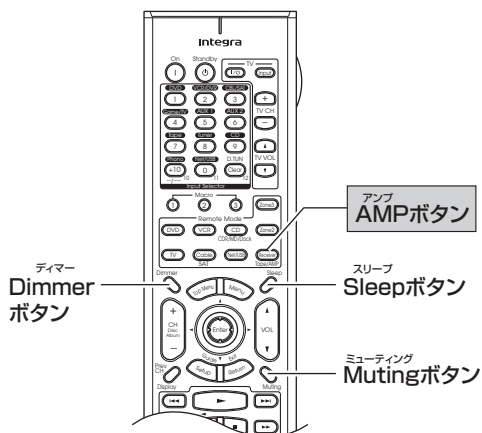
4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは 66 ページをご覧ください。

一時的に音量を小さくする

リモコンの AMP（アンプ） ボタンを押してから、Muting（ミューティング） ボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。

■ 解除するには

もう一度 Muting ボタンを押してください。
（音量を変えたり、Standby（スタンバイ） ボタンを押した場合にも解除されます。）

!ヒント

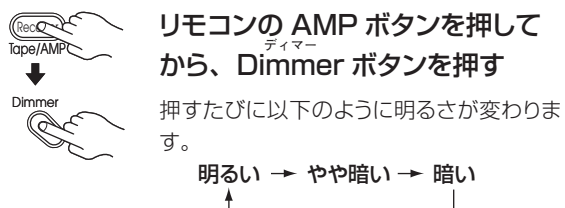
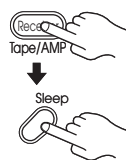
- 「ミュート減衰量」設定でミューティング時の音量レベルを調整できます（☞ 100 ページ）。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。本体の Dimmer ボタンでも操作できます。

リモコンの AMP ボタンを押してから、Dimmer（ディマー） ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

明るい → やや暗い → 暗い

スリープタイマーを使う

リモコンの AMP ボタンを押してから、Sleep（スリープ） ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90 分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに 10 分単位で設定時間が短くなります。

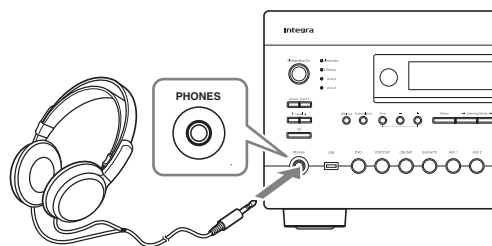
- スリープタイマー設定中は SLEEP インジケーターが点灯します。

■ 残り時間を確認するには

スリープタイマー設定中に Sleep ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が 10 分以下のときに再び Sleep ボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■ スリープタイマーを解除するには

SLEEP インジケーターが消えるまで、くり返し Sleep ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

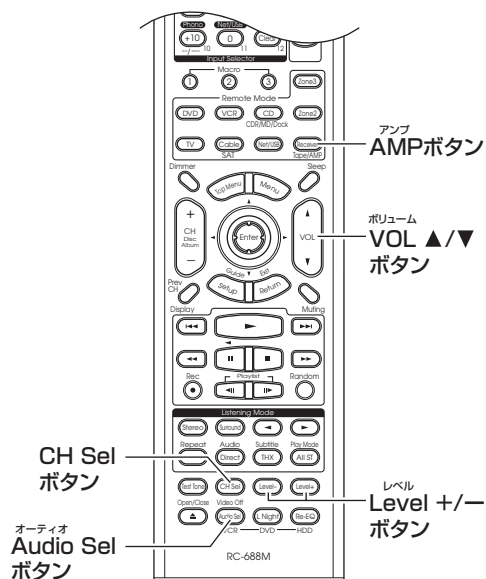
ヘッドホンで聞く

Phones（フォーンズ） 端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。
- ヘッドホン接続時は、「Mono」、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVD プレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVD オーディオやスーパーオーディオ CD などの再生をお楽しみいただけます。31 ページの通り正しく接続され、52 ページの通り、MULTI CH 端子が入力切換ボタンに割り当てられていることを確認してください。

1

AMP ボタンを押してから Audio Sel ボタンを押して、「Multich」を選び、「ANALOG」表示を点灯させる

Audio Selector
: Multich

ANALOG
点灯

2

DVD プレーヤーを再生する

3

VOL ▲ / ▼ボタンで音量を調整する

!ヒント

- 本体の入力切換ボタン、Master Volume つまみでも操作できます。

スピーカーの音量を一時的に調整する

一時的に各スピーカーの音量をお好みに調整することができます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

リモコンの AMP ボタンを押してから、CH Sel ボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

ご注意

- 「スピーカーコンフィグ設定」（☞ 90 ページ）で“なし”または“使用しない”を選択したスピーカーは調整できません。
- ミューティング機能がオンになっているときは調整できません。

2

Level ＋ / −ボタンを押して、音量を調整する

スピーカーは− 12 d B 〜＋ 12 d B、サブウーファーは− 15 d B 〜＋ 12 d B の範囲で調整できます。

■ ヘッドホンの音量を調整する

ヘッドホン接続中に、左右の音量をお好みに調整することができます。スタンバイ状態にしても設定を記憶しています。

1

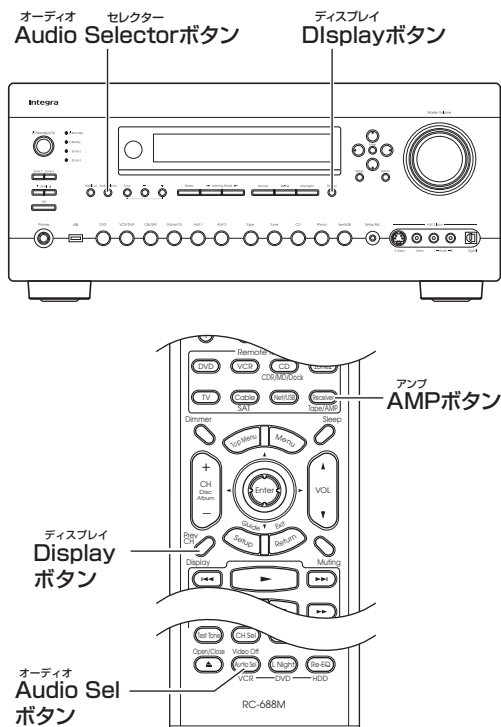
リモコンの AMP ボタンを押してから CH Sel ボタンを押して、「HP Left」（左）または「HP Right」（右）を選ぶ

HP Left
: −3.5dB

2

Level ＋ / −ボタンを押して、音量を調整する

− 12 d B 〜 +12 d B の範囲で調整できます。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

表示を確認する

AMP ボタンを押してから、Display ボタンを押す

本体の Display ボタンでも操作できます。

- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- Display ボタンを押すたびに、表示内容が下記のように切り換わります。

● 入力信号がアナログのとき

● 入力信号が PCM のとき

入力信号フォーマット — PCM
サンプリング周波数 — fs: 44.1kHz -38.0 dB

↓ ↑

入力 — DVD
リスニングモード — Pure Audio

● 入力信号が PCM 以外のデジタル信号のとき

入力 — DVD
リスニングモード — DD Digital -38.0 dB

↓ ↑

入力信号フォーマット/チャンネル数* — DTS-HDMSTR 5.1
サンプリング周波数 — fs: 96 kHz

* 入力信号がアナログのときは信号フォーマットの表示はありません。入力信号が PCM のときはサンプリング周波数が表示されます。入力信号がデジタルのときは信号フォーマットとチャンネル数が表示されます。マルチチャンネルの PCM などのデジタル入力の場合は信号フォーマット、チャンネル数、サンプリング周波数が表示されます。
サンプリング周波数やフォーマット表示は、約 3 秒経過すると、もとの表示に戻ります。

● 入力信号が AAC の音声多重放送（2 ヶ国語放送など）のとき

入力 — CBL/SAT
入力信号フォーマット — AAC :1+1

音声入力を選ぶ

再生機器の音声出力を複数、本機の音声入力に接続している場合、たとえば DVD プレーヤーをアナログ、デジタル、マルチチャンネル、HDMI の各入力に接続している場合、リモコンの Audio Sel ボタン、または本体の Audio Selector ボタンを押し、聞きたい音声を選びます。

Audio Sel ボタンをくり返し押す

HDMI、Auto、Multich、Analog から選びます。

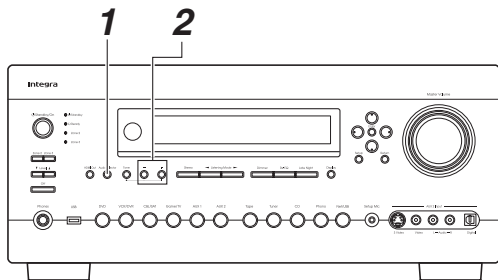
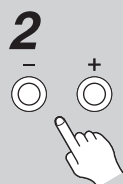
HDMI ： 入力切換ボタンに割り当てたHDMI IN端子を選びます。「HDMI」表示が点灯します。(HDMI IN 端子は必ず、前もって入力切換ボタンに割り当てておきます。)

Auto ： 入力切換ボタンに割り当てた COAXIAL IN 端子、OPITICAL IN 端子を選びます。「DIGITAL」表示が点灯します。(COAXIAL IN 端子、OPTICAL IN 端子は必ず、前もって入力切換ボタンに割り当てておきます。)

Multich ： 入力切換ボタンに割り当てた MULTI CH 端子を選びます。「ANALOG」表示が点灯します。(MULTI CH 端子は必ず、前もって入力切換ボタンに割り当てておきます。)

Analog ： アナログ入力を選びます。

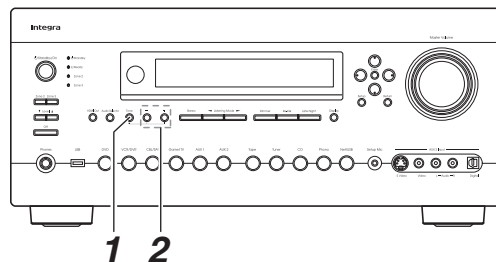
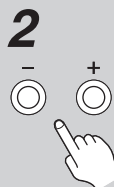
デジタル入力信号の設定

DTS や PCM 信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力を DTS または PCM に固定することができます。

1 Audio Selector	**Audio Selector ボタンを押して、「Auto」を表示させる**
2	**Tone ＋ / －ボタンで PCM、DTS または Auto を選ぶ** Auto ： デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。 PCM ： Auto で CD などの PCM の曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM 以外の音声が入力されても音は出ません。本機表示部の PCM インジケーターが点滅します。 DTS ： Auto で DTS-CD を再生するとき、DTS 信号を識別して読み取る間や、CD の早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS 以外の音声が入力されても音は出ません。 本機表示部の DTS インジケーターが点滅します。

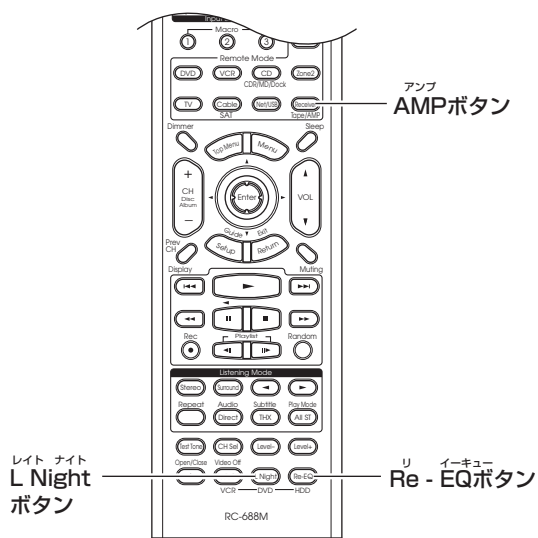
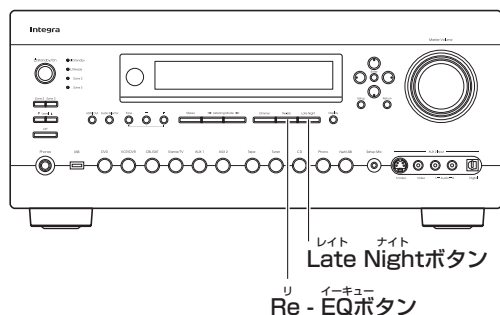
ご注意

- DTS 対応の CD や LD を再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」以外のリスニングモード時に音質を調整することができます。

1 Tone	**Tone ボタンをくり返し押して、調整するスピーカーの「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ**
2	**＋ / －ボタンを押して、レベルを調整する** お買い上げ時は「0」ですが、－ 10dB ～＋ 10dB の範囲内で 1dB ずつ調整できます。

!ヒント

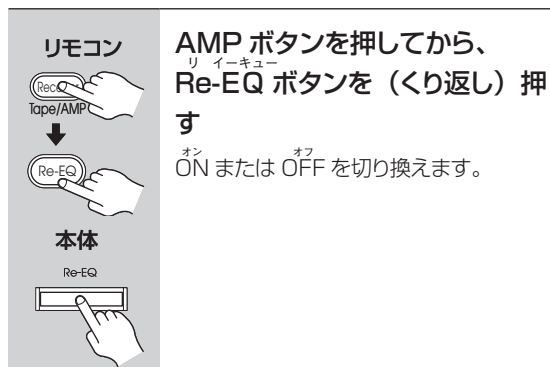
- 「3. 音声モード調整」（☞ 85 ページ）でも設定できます。
- THX リスニングモードではここでの設定は効果がありません。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

リ イーキュー
Re-EQ 機能を使う

高音域が強調されたサウンドを、ホームシアター用に補正します。高音域が強すぎる場合に設定します。Re-EQ の設定は、リスニングモードによっては使用できない場合があります。

リモコン

AMP ボタンを押してから、Re-EQ（リ イーキュー）ボタンを（くり返し）押す

ON（オン）または OFF（オフ）を切り換えます。

レイトナイト機能を使う

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。

この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

リモコン

AMP（アンプ）ボタンを押してから、L Night（レイト ナイト）ボタンを（くり返し）押す

Late Night
:Off

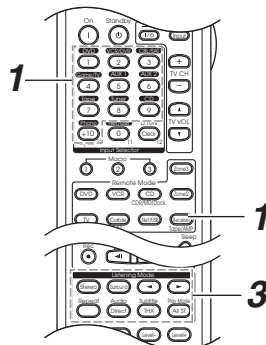
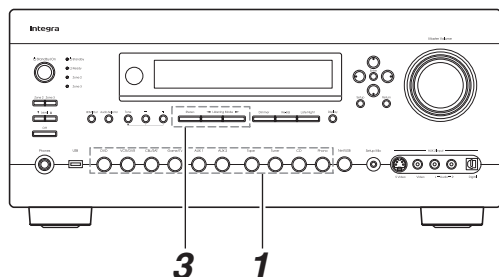
Off（オフ）：レイトナイト機能をオフにします。
Low（ロー）：音量幅を小さくします。
High（ハイ）：音量幅をさらに小さくします。

Dolby TrueHD を再生するときは：
Auto（オート）：再生ソースに準じてダイナミックレンジと音量が自動で調整されます。
Off（オフ）：レイトナイト機能をオフにします。
On（オン）：レイトナイト機能をオンにします。

本体

ご注意
- ドルビー TrueHD ソフトの場合は自動で Auto になります。
- **レイトナイト機能は、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD ソフトにのみ効果があります。**
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

リスニングモードを選ぶ

本体のボタンで選ぶ

1 入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2 選んだ機器を再生する

3 Listening Mode ◀/▶ボタンまたは Stereo ボタンでリスニングモードを選ぶ

Listening Mode ◀/▶：対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

Stereo：リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

リモコンで選ぶ

1 AMP ボタンを押してから Input Selector ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2 選んだ機器を再生する

3 リスニングモードボタンを押してリスニングモードを選ぶ

Stereo：リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

Surround：Dolby Digital や DTS のリスニングモードに切り換えます。

◀/▶：対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

Direct：リスニングモードを「Direct」に切り換えます。

THX：THX のリスニングモードに切り換えます。

All ST：リスニングモードを「All Ch Stereo」に切り換えます。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

入力信号の種類と対応するリスニングモード

アナログソースと PCM ソース

ボタン	ソースフォーマット / メディア / リスニングモード	PCM		マルチチャンネルアナログ	マルチチャンネル PCM*1					
		32～96kHz	176.4/192kHz*1		32～96kHz				176.4/192kHz	
					*/2 以外	*/2	2ch	1/0、1+1	マルチチャンネル	2ch
	メディア	CD、TV、ラジオ		DVD	DVD				DVD	
[Direct]	Direct	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[Stereo]	Stereo	●	●		●	●	●	●	●	●
[Surround]	Multichannel			●	●	●			●	
	Dolby D									
	Dolby D Plus									
	DTS, DTS 96/24									
	DTS-ES Discrete/Matrix									
	DTS-HD High Resolution									
	DTS-HD Master Audio									
	Dolby TrueHD									
	DSD									
	Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*2	●				●	●			
	Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*2	●				●	●			
	Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*2	●					●			
	Dolby Digital EX/Dolby EX					●				
	Neo:6					●				
	Neo:6 Cinema	●					●			
	Neo:6 Music	●					●			
	Neural THX 5.1	●					●			
	Neural THX 7.1	●				●	●			
[THX]	THX Cinema*3				●	●				
	Dolby PLII/Dolby PLIIx THX*3	●*2				●	●			
	Neo:6 THX*3	●*3				●	●			
	Dolby PLII THX Games Mode	●					●			
	Neo:6 THX Games Mode	●					●			
	THX Surround EX					●				
	THX Ultra2 Cinema					●				
	THX Music Mode					●				
	THX Games Mode					●				
Listening Mode [▲]、[▼]	Mono	●			●	●	●	●		
	AAC									
	オンキヨー独自のリスニングモード： Mono Movie*3 Orchestra*3 Unplugged*3 Studio-Mix*3 TV Logic*3 All Ch Stereo Full Mono T-D	●			●	●	●	●		

*1 DVD オーディオディスクのマルチチャンネル PCM 176.4/192kHz 信号は HDMI 接続でのみ出力されます。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、PLII になります。
*3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*4 T-D、Mono Movie、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic のとき、PCM でサンプリング周波数が 64kHz、88.2kHz、96kHz の場合はそれぞれ 32kHz、44.1kHz、48kHz として処理されます。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

!ヒント

- 入力信号の種類は、Display（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- AAC などで多重音声の場合は 86 ページの「多重音声」設定で主音声または副音声を選択します。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

DSD, ドルビーデジタル , ドルビーデジタルプラス

ボタン	ソースフォーマット／リスニングモード	DSD[*1]		Dolby D				Dolby Digital Plus			
		マルチチャンネル		マルチチャンネル		2ch	1/0、1+1	マルチチャンネル		2ch	1/0、1+1
		3/2	2ch	*/2 以外	*/2			*/2 以外	*/2		
	メディア	SACD		DVD、DTV など				Blu-ray、HD DVD			
[Direct]	Direct	●[*2]	●[*2]	●	●	●	●	●	●	●	●
[Stereo]	Stereo	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[Surround]	Multichannel										
	Dolby D			●	●						
	Dolby D Plus							●[*3]	●[*3]		
	DTS, DTS 96/24										
	DTS-ES Discrete/Matrix										
	DTS-HD High Resolution										
	DTS-HD Master Audio										
	Dolby TrueHD										
	DSD	●									
	Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie[*4]	●	●		●	●			●	●	
	Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music[*4]	●	●		●	●			●	●	
	Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game[*4]		●			●				●	
	Dolby Digital EX/Dolby EX	●			●				●		
	Neo:6	●			●				●		
	Neo:6 Cinema		●			●				●	
	Neo:6 Music		●			●				●	
	Neural THX 5.1		●			●				●	
	Neural THX 7.1	●	●		●	●			●	●	
[THX]	THX Cinema[*5]	●		●	●			●	●		
	Dolby PLII/Dolby PLIIx THX	●	●		●	●			●	●	
	Neo:6 THX	●	●		●	●			●	●	
	Dolby PLII THX Games Mode		●			●				●	
	Neo:6 THX Games Mode		●			●				●	
	THX Surround EX	●			●				●		
	THX Ultra2 Cinema	●			●				●		
	THX Music Mode	●			●				●		
	THX Games Mode	●			●				●		
Listening Mode [◀], [▶]	Mono	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	AAC										
	オンキヨー独自のリスニングモード: Mono Movie[*5] / Orchestra[*5] / Unplugged[*5] / Studio-Mix[*5] / TV Logic[*5] / All Ch Stereo / Full Mono / T-D	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

*1 DSD Direct 以外のリスニングモードでは、DSD ソースは PCM に変換処理されます。
*2 「3. 音声モード調整」設定のサブメニュー「2.Direct」→「遅延有効」設定で DSD を "使用しない" にした状態で DSD ソース信号が入力された場合、リスニングモード Direct は DSD Direct になります。表示部に「DSD Direct」と表示されます。このとき、「スピーカーコンフィグ設定」は無視されます。
*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、ソース信号によっては Dolby Digital モードになります。
*4 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、PLII になります。
*5 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

!ヒント

- 入力信号の種類は、Display（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- AAC などで多重音声の場合は 86 ページの「多重音声」設定で主音声または副音声を選択します。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

TrueHD, DTS

ボタン	ソースフォーマット / メディア / リスニングモード	TrueHD*1 マルチチャンネル */2 以外	TrueHD*1 マルチチャンネル */2	TrueHD*1 2ch	TrueHD*1 1/0、1+1	DTS、DTS96/24 マルチチャンネル */2 以外	DTS、DTS96/24 マルチチャンネル */2	DTS、DTS96/24 2ch	DTS、DTS96/24 1/0	DTS-ES Discrete/Matrix
	メディア	Blu-ray、HD DVD				CD、DVD など				
[Direct]	Direct	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[Stereo]	Stereo	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[Surround]	Multichannel									
	Dolby D									
	Dolby D Plus									
	DTS, DTS 96/24					●	●			
	DTS-ES Discrete/Matrix									●*2
	DTS-HD High Resolution									
	DTS-HD Master Audio									
	TrueHD	●	●							
	DSD									
	Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*3		●	●			●	●		
	Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*3		●	●			●	●		
	Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*3			●				●		
	Dolby Digital EX/Dolby EX		●				●			
	Neo:6		●				●			
	Neo:6 Cinema			●				●		
	Neo:6 Music			●				●		
	Neural THX 5.1			●				●		
	Neural THX 7.1		●	●			●	●		●
[THX]	THX Cinema*4	●	●			●	●			●
	Dolby PLII/Dolby PLIIx THX		●	●			●	●		
	Neo:6 THX		●	●			●	●		
	Dolby PLII THX Games Mode			●				●		
	Neo:6 THX Games Mode			●				●		
	THX Surround EX		●				●			
	THX Ultra2 Cinema		●				●			●
	THX Music Mode		●				●			●
	THX Games Mode		●				●			●
Listening Mode*5 [▲], [▼]	Mono	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	AAC									
	オンキヨー独自のリスニングモード: Mono Movie*4 / Orchestra*4 / Unplugged*4 / Studio-Mix*4 / TV Logic*4 / All Ch Stereo / Full Mono / T-D	●	●	●	●	●	●	●	●	●

*1 192kHz の TureHD は入力信号のチャンネル数に関わらず、すべて 196kHz 2 チャンネルとしてデコードします。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTS になります。
*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、PLII になります。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*5 T-D、Mono Movie、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic のリスニングモードのとき、DTS 96/24 は DTS として処理されます。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

!ヒント

- 入力信号の種類は、Display（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- AAC などで多重音声の場合は 86 ページの「多重音声」設定で主音声または副音声を選択します。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

DTS-HD、AAC

ボタン	リスニングモード	ソースフォーマット	DTS-HD High Resolution				DTS-HD Master Audio*1				AAC			
			マルチチャンネル		2ch	1/0	マルチチャンネル		2ch	1/0	マルチチャンネル		2ch	1/0、1+1
			*/2 以外	*/2			*/2 以外	*/2			*/2 以外	*/2		
		メディア	Blu-ray、HD DVD				Blu-ray、HD DVD				BS デジタル放送など			
[Direct]	Direct		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[Stereo]	Stereo		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[Surround]	Multichannel													
	Dolby D													
	Dolby D Plus													
	DTS, DTS 96/24													
	DTS-ES Discrete/Matrix													
	DTS-HD High Resolution		●	●										
	DTS-HD Master Audio						●	●						
	TrueHD													
	DSD													
	Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*2			●*3	●*3			●	●			●	●	
	Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*2			●*3	●*3			●	●			●	●	
	Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*2				●*3				●				●	
	Dolby Digital EX/Dolby EX			●*3				●				●		
	Neo:6			●*3				●				●		
	Neo:6 Cinema				●*3				●				●	
	Neo:6 Music				●*3				●				●	
	Neural THX 5.1				●				●				●	
	Neural THX 7.1			●	●			●	●			●	●	
[THX]	THX Cinema*2		●	●			●	●			●	●		
	Dolby PLII/ Dolby PLIIx THX			●	●			●	●			●		
	Neo:6 THX			●	●			●	●			●		
	Dolby PLII THX Games Mode				●				●					
	Neo:6 THX Games Mode				●				●					
	THX Surround EX			●				●				●		
	THX Ultra2 Cinema			●				●				●		
	THX Music Mode			●				●				●		
	THX Games Mode			●				●				●		
Listening Mode [▲], [▼]	Mono		●*3	●*3	●*3	●*3	●	●	●	●	●	●	●	●
	AAC										●	●		
	オンキヨー独自のリスニングモード	Mono Movie*4 Orchestra*4 Unplugged*4 Studio-Mix*4 TV Logic*4 All Ch Stereo Full Mono T-D	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

*1 192kHz の DTS-HD Master Audio は 96kHz としてデコードされます。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、PLII になります。
*3 96kHz などのソース信号によっては、一度 DTS でデコード処理されてから、それぞれのリスニングモードでプログラム処理されます。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

!ヒント

- 入力信号の種類は、Display（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。
- AAC などで多重音声の場合は 86 ページの「多重音声」設定で主音声または副音声を選択します。

リスニングモードを使う

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。本機には以下のリスニングモードがあります。

Pure Audio

Direct モードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、HDMI 入力以外の映像が出なくなります。）

Direct

もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

Stereo

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2 言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVD などに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

Multich

アナログのマルチチャンネル接続や HDMI 接続をしているときに使用できるリスニングモードです。

Dolby Pro Logic IIx

2 チャンネルで収録された音楽や映画を 6.1 から 7.1 チャンネルで再生できます。
明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CD や映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。
5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 7.1 チャンネルで再生できます。

- **Dolby PL IIx Movie**
  VHS や DVD ビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。
- **Dolby PL IIx Music**
  CD などのステレオ音楽や、ライブを記録した DVD に適しています。
- **Dolby PL IIx Game**
  ゲームを楽しむときに使用できます。

Dolby Pro Logic II

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Dolby Pro Logic IIx の代わりに、このリスニングモードになります。
2 チャンネルで収録された音楽や映画を 5.1 チャンネルで再生できます。

Dolby Digital

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。Dolby Digital ロゴのついた DVD、LD などの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX/Dolby EX

5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 6.1/7.1 チャンネルで再生できます。
5.1 チャンネルに背面のサラウンドチャンネルを増やし、6.1/7.1 チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。5.1 チャンネルで記録された DolbyDigital ロゴのついた DVD、LD の再生時は Dolby DigitalEX となり、その他のソースでは Dolby EX となります。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus フォーマットのブルーレイ、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD フォーマットのブルーレイ、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。
本機が対応している信号については、69 ページを参照してください。

DTS

完全に分離させた 5.1 チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するには DTS 出力が可能な DVD プレーヤーが必要です。DTS ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

DTS 96/24 ロゴのついた CD、DVD、LD などに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete
DTS にサラウンドバックを追加した、6.1/7.1 チャンネルサラウンドです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。DTS-ES ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix
DTS-ES 収録ソフトを 6.1/7.1 チャンネル再生します。
DTS-ES 収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1/7.1 チャンネルに復元して再生します。
DTS-ES ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo : 6
2 チャンネルで収録されたソースを 5.1/6.1/7.1 チャンネルで再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。映画に最適な Cinema モードと音楽再生に最適な Music モードが選択できます。
5.1 チャンネルで収録された DTS ロゴのついた DVD や CD の再生時は Neo : 6 となり、6.1/7.1 チャンネルで再生します。

- **Neo : 6 Cinema**
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2 チャンネルの VHS や DVD ビデオ、テレビ番組に適しています。
- **Neo : 6 Music**
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の 2 チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2 チャンネルで収録された CD などに適しています。

DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD High Resolution Audio フォーマットのブルーレイ、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audio フォーマットのブルーレイ、HDDVD ディスクに使用できるリスニングモードです。
本機が対応している信号については、70 ページを参照してください。

Neural THX 5.1/7.1
特殊な信号処理技術を採用し、チャンネルセパレーションとオーディオ特性を細かく処理することにより音像がより微細に再生されます。両方のリスニングモードとも 2 チャンネルで収録された音楽や映画を 5.1 あるいは 7.1 チャンネルで再生できます。放送局ではサラウンドの音声コンテンツをエンコードしてステレオで送信することができ、サラウンドでもステレオでも楽しむことができます。

DSD
Direct Stream Digital の略でスーパーオーディオ CD に音声データを収録するときに使われます。
スーパーオーディオ CD のマルチチャンネル再生に使用します。

AAC
MPEG-2 AAC 方式で圧縮されたデジタルデータで、最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声を提供します。
地上デジタル、BS/CS デジタル放送などの AAC ソースを再生するために使用します。

THX
- **THX Cinema**
  映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適しています。5.1 チャンネルソースや他のフォーマットでデコードされた 2 チャンネルのソースで楽しむことができます。サラウンドバックの音声は、ソースやデコードモードによって異なります。
- **THX Surround EX**
  ドルビーラボラトリーズと THX 社で共同開発されたホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタル EX の技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計 7.1 チャンネルとなります。
- **THX Ultra2 Cinema**
  5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 7.1 チャンネルで再生できます。再生するサラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感を最適化するようサラウンドバックに振り分けます。横と後方の広がりと定位感をさらに高めます。
- **THX Music Mode**
  音楽ソース用モードです。5.1 チャンネルで収録されたソフトを 7.1 チャンネルで再生します。
- **THX Game Mode**
  ゲームソース用モードです。

■ オンキヨー独自のリスニングモード

Mono Movie（モノ ムービー）

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施した音を出力します。
モノラルでも臨場感をお楽しみ頂けます。

Orchestra（オーケストラ）

クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged（アンプラグド）

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix（スタジオ ミックス）

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

TV Logic（ロジック）

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch Stereo（オールチャンネル ステレオ）

BGM として音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full Mono（フル モノ）

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

T-D (Theater-Dimensional)（シアター ディメンショナル）

2 つ、あるいは 3 つのスピーカー環境でも、バーチャル 5.1ch サラウンドを楽しめます。残響の少ないリスニング環境で使用されるとより良い効果が得られます。

ご注意

- オンキヨー独自のリスニングモードでは、オンキヨーのオリジナル DSP で処理される前に一度ドルビー PLIIx または Neo:6 の処理回路を通る場合があります。そのときは PLIIx あるいは Neo:6 の表示が点灯します。

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか?または HDMI 接続はしましたか?
  ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか?
  ドルビーデジタルや DTS ロゴのついた DVD の本編を再生中に、本機の PCM 表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定が PCM になっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

映画・音楽を鑑賞する（Net/USB 機能編）

本機には Net（ネット）/USB という機能があります。
この機能では次の 3 つのことができます。

1 ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する（☞ 74 ページ）

本機をホームネットワーク（LAN（ラン））に接続して、ネットワークサーバー（パソコンなど）に入っている音楽ファイルを再生することができます。

2 USB ストレージ * 内の音楽ファイルを再生する（☞ 79 ページ）

本機の前面パネルの USB ポートに USB ストレージを接続すると、USB ストレージに入っている音楽ファイルを再生することができます。

* USB メモリーなど

3 インターネットラジオを聴く（☞ 80 ページ）

本機にインターネットラジオ局の URL を入力して、インターネットに接続すると、インターネットラジオを聴くことができます。

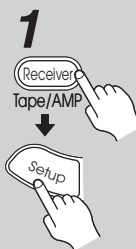
ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

準備

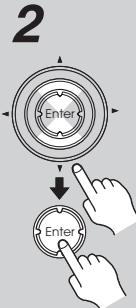
ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生するには、次の準備が必要です。

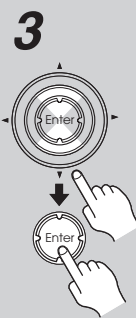
- 本機のネットワーク設定をする（☞ 74 ページ）
- 本機をホームネットワーク（LAN（ラン））に接続する（☞ 76 ページ）
- ネットワークサーバーの設定をする（☞ 76 ページ）

!ヒント

まだホームネットワーク（LAN（ラン））を構築されていない方、ホームネットワーク（LAN（ラン））をご存知でない方は、まず「ホームネットワーク（LAN（ラン））について」（☞ 82 ページ）をご覧ください。

本機のネットワーク設定をする

本機でネットワークサーバーやインターネットラジオを楽しむには、本機をホームネットワーク（LAN）に接続して使えるようにするために「ネットワーク設定」をする必要があります。

DHCP でホームネットワーク（LAN）を構築している場合は、「ネットワーク設定」2 ページ目の「DHCP」を “有効” にすれば、ホームネットワーク（LAN）で使用できるようになります。（初期設定では、この状態になっています。）

各機器に固定 IP アドレスを割り当てている場合は、「ネットワーク設定」2 ページ目で本機に IP アドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなどお使いのホームネットワーク（LAN）に関する情報を入力する必要があります。

1 AMP（アンプ）ボタンを押してから Setup（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2 ▲ / ▼ボタンを押して「7. ハードウェア設定」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

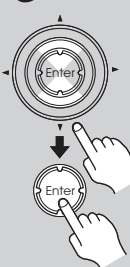
3 ▲ / ▼ボタンを押して、「5. ネットワーク設定」を選び、Enter ボタンを押す

7.ハードウェア設定
1.リモコン設定
2.ゾーン2/ゾーン3設定
3.アナログマルチチャンネル設定
4.HDMI
5.ネットワーク設定

4

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで選択する

項目については下記をご覧ください。

5

すべての項目が設定し終わったら、▲/▼ボタンを押して、「→設定保存」を選び、Enter ボタンを押す

7-5. ネットワーク設定	
プロキシ	無効
プロキシーURL	
プロキシーポート	8080
→設定保存	

ご注意

- 「ネットワーク設定」内の設定値は、本機とネットワークの保護のため「→設定保存」を選択するまで書き変えられません。

6

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の Setup（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ ボタン、Enter（エンター）ボタンでも操作することができます。

「ネットワーク設定」（1 ページ目）

■ MAC（マック）アドレス

本機の MAC アドレスを確認できます。この値は機器固有のもののため、変更することはできません。

■コントロール

外部コントローラーからの本機のコントロールを許可するかどうか設定します。“有効”にすると、外部コントローラーから本機をコントロールできるようになり、“無効”にするとコントロールを禁止します。

■ポート

この設定は上記「コントロール」設定が有効のときだけ機能します。外部コントローラーからのコントロール信号を受けるポート番号を設定します。外部コントローラー側の設定に合わせてください。

「ネットワーク設定」（2 ページ目）

■ DHCP

本機の DHCP クライアント機能の有効 / 無効を設定します。DHCP でホームネットワーク（LAN）を構築している場合は“有効”に、ホームネットワーク（LAN）に接続されている各機器に固定 IP アドレスを割り当てている場合は“無効”に設定してください。

■ IP アドレス

本機の IP アドレスを表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。
この値を設定する際、ホームネットワーク（LAN）に接続されている他の機器とアドレスが重複しないよう、ご注意ください。設定方法は次のとおりです。

アドレス設定方法

1. 設定する項目（IP アドレス、サブネットマスクなど）を選択し、**Enter ボタン**を押して、入力画面を表示します。OSD 下部に 0 ～ 9 の数値が表示されます。
2. **◀/▶ボタン**を使って数値を選択し、**Enter ボタン**で入力します。3 桁入力すると、自動的に次のセクションに移動します。入力を誤った場合は、**▲/▼ボタン**で誤入力したセクションを選択（数値を緑色に）し、数値を入力し直してください。
3. 入力する数値が 3 桁に満たない場合は、**▲ボタン**で次のセクションに移動します（選択されているセクションの文字が緑色になります）。
4. すべてのセクションの入力が終わったら、**Return ボタン**を押して値を確定します。

■サブネットマスク

ホームネットワーク（LAN）のサブネットマスクを表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

■ゲートウェイアドレス

ホームネットワーク（LAN）のゲートウェイアドレスを表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

■ DNS サーバー 1

ホームネットワーク（LAN）の DNS サーバー（プライマリ）を表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

■ DNS サーバー 2

ホームネットワーク（LAN）の DNS サーバー（セカンダリ）を表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。また「DNS サーバー 1」が正しく設定されていれば、この値は省略可能です。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

「ネットワーク設定」（3 ページ目）

!ヒント

- 次の「プロキシ」「プロキシー URL」「プロキシーポート」の 3 つの設定は、インターネットラジオを聴くために必要です。ネットワークサーバーは、これらを設定しなくても使用できます。
- 次の「プロキシ」「プロキシー URL」「プロキシーポート」の 3 つの設定は、ISP（インターネットサービスプロバイダ）がプロキシサーバーを経由してインターネットに接続しているときだけ必要です。プロキシサーバーを使っているかどうかが不明な場合は、ご使用の ISP にお問い合わせください。

■プロキシ

プロキシサーバーを経由してインターネットに接続するかどうかを設定します。ご使用の ISP が、インターネットへの接続の際プロキシサーバーを経由するようになっている場合は“有効”に設定してください。

■プロキシー URL

この設定は上記「プロキシ」設定が有効のときだけ機能します。プロキシサーバーの URL を入力します。URL が不明な場合は、ご使用の ISP にお問い合わせください。入力方法は「名前編集」（☞ 988 ページ）と同じです。

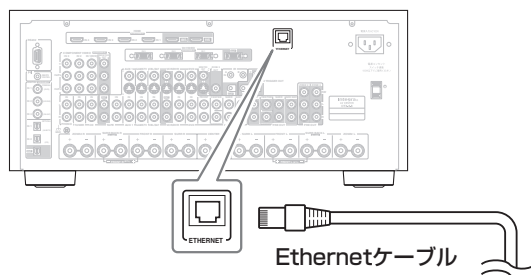
■プロキシーポート

この設定は上記「プロキシ」設定が有効のときだけ機能します。プロキシサーバーのポート番号を入力します。ポート番号が不明な場合は、ご使用の ISP にお問い合わせください。入力方法は「アドレス設定方法」（☞ 75 ページ）と同じです。

■→設定保存

変更した「ネットワーク設定」を保存します。「ネットワーク設定」内の設定値は、本機とネットワークの保護のためこの項目で設定を保存するまで書き変えられません。

本機をホームネットワーク（LAN）に接続する

本機の電源をオフにし、本機の後面パネルの ETHERNET（イーサネット）端子とホームネットワーク（LAN）のルータまたはスイッチングハブを Ethernet（イーサネット）ケーブル（CAT-5（カテゴリー））で接続します。

ネットワークサーバーの設定をする

再生したい音楽ファイルが入っているネットワークサーバーを設定します。

本機は、

- Windows（ウインドウズ） Media（メディア）® Player（プレイヤー） 11
- Windows（ウインドウズ） Media（メディア）® Connect（コネクト） 2.0
- uPnP AV 互換サーバー
- DLNA 互換サーバー

に対応しており、設定方法は使用するネットワークサーバーによって異なります。
詳細については、ご使用になるネットワークサーバーの取扱説明書をご覧ください。

ここでは、Windows（ウインドウズ） Media（メディア）® Player（プレイヤー） 11 を例として説明します。

!ヒント

Windows（ウインドウズ） Media（メディア）® Player（プレイヤー） 11 はマイクロソフト株式会社のウェブサイトから無料でダウンロードできます。

以下の操作の前に、本機の「ネットワーク設定」（☞ 74 ページ）を済ませて、本機をホームネットワーク（LAN）に接続し、本機の電源を入れてください。

1	パソコンの電源を入れ、Windows Media® Player 11 を開く

2 **[ライブラリ] メニューから [メディアの共有] を選ぶ**

次のダイアログボックスが表示されます。

3 **[メディアを共有する] チェックボックスにチェックを入れ、[OK] をクリックする**

対応機器がダイアログボックスに表示されます。

4 **DTX-8.8 を選んで、[許可] をクリックする**

DTX-8.8 のアイコンがチェックの付いたものになります。

5 **[OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じる**

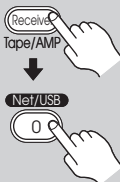
これで音楽ファイルを再生する準備が整いました。

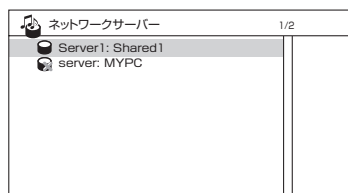
ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

以下の手順でネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生します。音楽ファイルを再生するには、以下の準備がすべて完了している必要があります。

- 本機のネットワーク設定をする(☞ 74 ページ)
- 本機をホームネットワーク(LAN(ラン))に接続する(☞ 76 ページ)
- ネットワークサーバーの設定をする(☞ 76 ページ)

1 **ネットワークサーバーを起動する**

たとえばネットワークサーバーとして Windows Media® Player 11 をお使いの場合は、パソコンの電源を入れ、Windows Media® Player 11 を開きます。

2 **AMP(アンプ) ボタンを押してから Input(インプット) Selector(セレクター) の Net(ネット)/USB ボタンを何度か押して、「ネットワークサーバー」を表示させる**

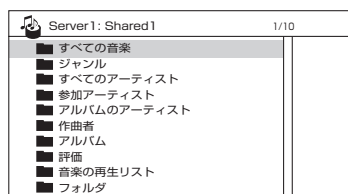
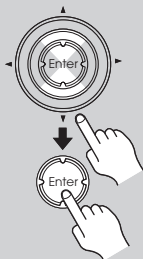
ネットワークサーバーのリストが表示されます。

!ヒント

ネットワークサーバーに接続できない場合、本機の表示部に「No server」と表示されます。この場合は、本機のネットワーク設定や本機とホームネットワーク(LAN)の接続、ネットワークサーバーの起動状況などをご確認ください。

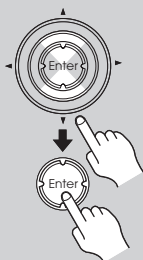
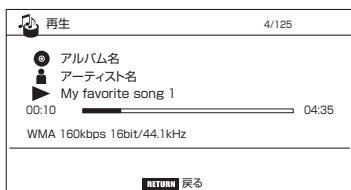
3 **Remote(リモート) Mode(モード) の Net/USB ボタンを押してリモコンを Net/USB モードに切り替える**

4 **▲ / ▼ボタンを押して、ネットワークサーバーを選び、Enter(エンター) ボタンを押す**

ネットワークサーバー内のフォルダーがリスト表示されます。

5

▲ / ▼ボタンを押して再生したい音楽ファイルが入っているフォルダを選び、Enter ボタンを押す

再生可能な音楽ファイルがリスト表示されます。

6

▲ / ▼ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、Enter ボタンを押す

選択した音楽ファイルの情報が表示され、再生が開始されます。

!ヒント

- Return ボタンを押すと、演奏を中止してひとつ前の画面に戻ります。
- 音楽ファイルの操作については、「リモコンボタンの名前と働き（Net/USB モード）」（☞ 20 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次の通りです。

WAV: (*.wav)
対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
対応データサイズ： 16 bit

WMA: (*.wma)
WMA10 DRM 対応（ネットワークサーバー時のみ）
WMA Lossless 対応
WMA Pro/Voice 非対応
対応フォーマット： Windows Media® Audio V9.0
対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
対応ビットレート： 48 ～ 320 kbps および VBR
対応データサイズ： 16 bit (WMA Lossless)

MP3: (*.mp3)
対応フォーマット： MPEG-2 Audio Layer-3
対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
対応ビットレート： 32 ～ 320 kbps および VBR

AAC: (*.m4a)
対応フォーマット： MPEG-4 Audio
対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
対応ビットレート： 16 ～ 320 kbps および VBR

- 上記のフォーマットであっても再生できる音楽ファイルは、ネットワークサーバーに依存します。たとえば、Windows Media® Player 11 をお使いの場合、パソコンに入っているすべての音楽ファイルが再生できるわけではなく、Windows Media® Player 11 のライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。
- 1 つのフォルダには 500 ファイルまで、フォルダの階層は 8 階層までサポートしています。ただしこれらはお使いのネットワークサーバーに依存します。
- 以上の要件で動作検証していますが、動作の保証はできかねますのでご了承ください。

ランダム再生について

- 通常の再生では、再生中の音楽ファイルと同一フォルダ内にある音楽ファイルをリスト順に再生していきますが、ランダム再生では、順不同で再生することができます。
- ランダム再生するには、再生停止中にリモコンの Random **ボタン**を押します。
- 再生を停止するかリスト表示画面に戻ると、ランダム再生は解除されます。
- 同一フォルダ内の音楽ファイルをひと通り重複することなく再生し終わると、1 度目とは違う順序で再び順不同で再生します。ランダム再生が解除されるまでこれをくり返します。
- ランダム再生の対象となるのは、リストの 1 ～ 9999 番目までです。同一フォルダ内に 10000 以上の音楽ファイルがある場合、リストの 10000 番以降はランダム再生では再生されません。
- ランダム再生とリピート再生を同時に行うことはできません。ランダム再生中にリモコンの Repeat ボタンを押すと、ランダム再生は解除されます。

リピート再生について

- リピート再生では、再生する音楽ファイルの範囲とくり返し再生するかどうかを選択できます。
- リピート再生には、3 つのモードがあります。

ONE: 再生中の音楽ファイルだけをくり返し再生します。

FOLDER: 再生中の音楽ファイルと同一フォルダ内にある音楽ファイルをリスト順にくり返し再生します。リストの最後の音楽ファイルを再生し終わると、フォルダー内のリストの先頭に戻って再生します。

ALL: ネットワークサーバー内のすべての音楽ファイルをリスト順にくり返し再生します。あるフォルダ内の音楽ファイルがすべて再生し終わると、次のフォルダ内の音楽ファイルの再生を開始します。ネットワークサーバー内のすべての音楽ファイルを再生し終わると、サーバー内のリストの先頭の曲に戻って再生します。

- リピート再生するには、音楽ファイルの再生画面（再生中、停止中、一時停止中）でリモコンの **Repeat ボタン**を押します。ボタンを押すたびにモードが切り替わります。
- 本機をスタンバイ状態にしたり、本機の電源をオフにしたりすると、リピート ALL モードになります。

USB ストレージ内の音楽ファイルを再生する

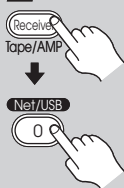
以下の手順で USB ストレージ内（USB メモリーなど）の音楽ファイルを再生します。

ご注意

- 本機の USB 端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- USB ストレージに AC アダプターが付属している場合は、AC アダプターをつないで家庭用電源でお使いください。電池で行う場合は、電池の残量が充分にあることを確認してください。
- 本機はハブおよびハブ機能付き USB 機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。

1

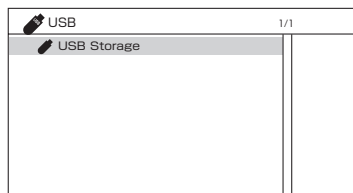
本機の前面パネルの USB 端子に音楽ファイルが入った USB ストレージを接続する

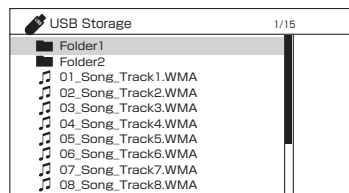
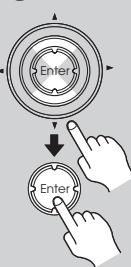
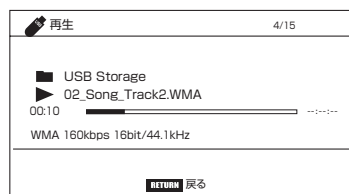
2

AMP ボタンを押してから Input Selector の Net/USB ボタンを何度か押して、「USB」を表示させる

接続されている USB ストレージが表示されます。

3

Remote Mode の Net/USB ボタンを押してリモコンを Net/USB モードに切り替える

4

Enter ボタンを押す

USB ストレージ内のフォルダーや音楽ファイルがリスト表示されます。

5

▲ / ▼ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、Enter ボタンを押す

選択した音楽ファイルの情報が表示され、再生が開始されます。

!ヒント

- Return ボタンを押すと、演奏を中止してひとつ前の画面に戻ります。
- 音楽ファイルの操作については、「リモコンボタンの名前と働き（Net/USB モード）」（☞ 20 ページ）をご覧ください。
- ランダム再生、リピート再生については 78 ページをご覧ください。

ご注意

- 本機では USB Mass Storage Class 規格に対応している USB ストレージを使用できます。
- USB ストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32 に対応しています。
- 本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次の通りです。

  WAV: (*.wav)
  対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
  対応データサイズ： 16 bit

  WMA: (*.wma)
  WMA Lossless 対応
  WMA Pro/Voice 非対応
  対応フォーマット： Windows Media® Audio V9.0
  対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
  対応ビットレート： 48 ～ 320 kbps および VBR
  対応データサイズ： 16 bit (WMA Lossless)

MP3: (*.mp3)
対応フォーマット： MPEG-2 Audio Layer-3
対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
対応ビットレート： 32 ～ 320 kbps および VBR

AAC: (*.m4a)
対応フォーマット： MPEG-4 Audio
対応サンプリングレート： 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
対応ビットレート： 16 ～ 320 kbps および VBR

- 1 つのフォルダには 500 ファイルまで、フォルダの階層は 8 階層までサポートしています。
- 以上の要件で動作検証していますが、動作の保証はできかねますのでご了承ください。
- 著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。
- 本機では、アルバム名、アーティスト名などのタグ情報を表示することはできません。
- 本機では、曲のトータル時間を表示することはできません。
- USB 対応オーディオプレーヤーと本機を接続した場合、オーディオプレーヤーの画面と本機の画面が異なる場合があります。またオーディオープレーヤーに依存する管理機能（音楽ファイルの分類、ソート、付加情報など）は本機では使用できません。
- 本機の USB 端子にパソコンを接続しないでください。本機の USB 端子にはパソコンから音声を入力できません。
- USB カードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USB ストレージがパーティションで区切られている場合、本機では最初のパーティションだけを読み込むことができます。
- USB ストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USB ストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USB ストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USB ストレージに保存されているデータは、本機でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。

インターネットラジオを聴く

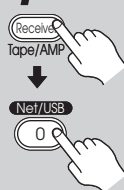
インターネットラジオを聴く

以下の手順でインターネットラジオを聴くことができます。インターネットラジオを聴くには、ホームネットワーク（LAN）経由でインターネットに接続できる環境が必要です。また、以下の準備がすべて完了している必要があります。

- 本機のネットワーク設定をする（☞ 74 ページ）
- 本機をホームネットワーク（LAN）に接続する（☞ 76 ページ）

!ヒント

まだホームネットワーク（LAN）を構築されていない方、ホームネットワーク（LAN）をご存知でない方は、まず「ホームネットワーク（LAN）について」（☞ 82 ページ）をご覧ください。

1

AMP ボタンを押してから Input Selector の Net/USB ボタンを何度か押して、「インターネットラジオ」を表示させる

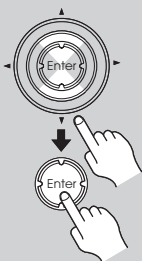
登録されているインターネットラジオ局がリスト表示されます。

!ヒント

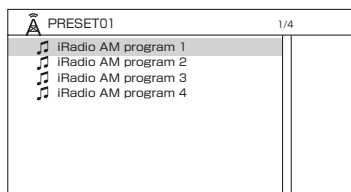
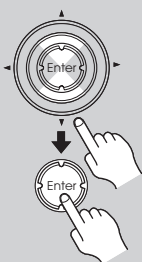
- お好みのインターネットラジオ局を登録することができます。登録方法は 81 ページをご覧ください。
  この画面で Setup ボタンを押して登録することもできます。

2

Remote Mode の Net/USB ボタンを押してリモコンを Net/USB モードに切り替える

3

▲ / ▼ボタンを押して インターネットラジオ局を選び、Enter ボタンを押す

放送されている番組がリスト表示されます。

PRESET01 1/4
iRadio AM program 1
iRadio AM program 2
iRadio AM program 3
iRadio AM program 4

4

▲ / ▼ボタンを押して 聴きたい番組を選び、Enter ボタンを押す

選択した番組の情報が表示され、受信が開始されます。

!ヒント

- Return ボタンを押すと、受信を中止してひとつ前の画面に戻ります。
- インターネットラジオの操作については、「リモコンボタンの名前と働き（Net/USB モード）」（☞ 20 ページ）をご覧ください。

インターネットラジオ局を登録する

本機にインターネットラジオ局を登録する方法は二つあります。ひとつは Net/USB 機能のインターネットラジオのトップ画面（ラジオ局のリストが表示されている画面）でリモコンと OSD を使って登録する方法です。
もうひとつは本機と同じ LAN に接続されているパソコンを使って登録する方法です。

ここでは、パソコンを使って登録する方法を説明します。インターネットラジオ局を登録するには、以下の準備がすべて完了している必要があります。

- 本機のネットワーク設定をする（☞ 74 ページ）
- 本機をホームネットワーク（LAN）に接続する（☞ 76 ページ）

!ヒント

- まだホームネットワーク（LAN）を構築されていない方、ホームネットワーク（LAN）をご存知でない方は、まず「ホームネットワーク（LAN）について」（☞ 82 ページ）をご覧ください。
- 本機は、PLS 形式、M3U 形式、および Podcast (RSS) 形式のインターネットラジオ局に対応しています。これらの形式のインターネットラジオ局であっても、データの種類や再生フォーマットによって、再生できないこともあります。
- 再生できる音声フォーマットは USB 機能と同じです。

以上の要件で動作検証していますが、動作の保証はできかねますのでご了承ください。

1 **本機の IP アドレスを確認する**

IP アドレスは「ネットワーク設定」（☞ 74 ページ）で確認できます。

2 **パソコンの電源を入れ、Internet Explorer® などのインターネットブラウザを開く**

3 **インターネットブラウザの URL 入力欄に本機の IP アドレスを入力する**

（例：「http://192.168.x.x/」と入力
x.x には数字が入ります。）
本機の WEB Setup Menu が表示されます。

4 **インターネットラジオ局を登録したいプリセット番号の [Name] 欄にラジオ局名、[URL] 欄にラジオ局の URL を入力する**

5 **[Save] をクリックして、入力した内容を保存する**

これでインターネットラジオ局が登録されました。

!ヒント

登録内容が本機のインターネットラジオ画面に反映されるまで時間がかかることがあります。この場合は、インターネットラジオ画面でリモコンの Return ボタンを押し、ラジオ局のリスト表示を更新してください。

ホームネットワーク(LAN)について

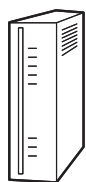
複数の機器をケーブルなどで接続し、お互いに通信できるようにしたものをネットワークといいます。
家庭ではパソコンやゲーム機をインターネットに接続したり、複数のパソコンで相互にデータをやりとりしたりするために、ネットワーク作る（一般的に構築するといわれます）ケースが多いようです。
このように家庭内など比較的狭い範囲に構築されるネットワークは LAN（Local Area Network）と呼ばれます。
この取扱説明書では、この LAN のことをもう少し身近に感じられるようにホームネットワーク（家庭のネットワーク）と書いています。

本機（DTX-8.8）はパソコンなどのネットワークサーバーと接続することでネットワークサーバー内（パソコン内）の音楽ファイルを再生したり、インターネットと接続することでインターネットラジオを聴いたりすることができます。

このとき、本機とパソコンやインターネットを直接接続するわけではありません。
パソコンやインターネットと接続するためにいくつかの機器（ネットワーク機器）が必要になります。

ホームネットワーク(LAN)構築に必要な機器

本機の Net/USB 機能を使用するためのホームネットワーク（LAN）に必要な機器は以下の通りです。

ルータ

本機とパソコンや、本機とインターネットの間に入って情報（データ）の流れをコントロールするのが、このルータという機器です。
ネットワークでは情報（データ）の流れをトラッフィック（日本語では「交通」の意）といいます。
ルータは各機器の中でトラフィックコントロールつまり情報の交通整理をする役割を担っています。

- 本機では **100Base-TX スイッチ内蔵のブロードバンドルータ**の使用を推奨します。
- また、**DHCP 機能搭載**のルータであれば、ネットワークの設定を簡単にすることができます。
- ISP と契約している場合（後述モデムの項参照）には、**契約する ISP 業者が推奨するルータ**をご使用ください。

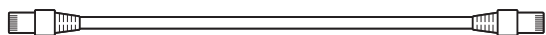
これらのルータについてはお買い求めの販売店または契約されている ISP にご相談ください。

ネットワークサーバー（パソコンなど / ネットワークサーバー使用時）

音楽ファイルを入れておいて、再生時に本機に曲を提供する機器です。

- 本機で使用する際に必要な条件は、ネットワークサーバーとして使用する機器によって異なります。
- 本機では、Windows Media Player 11、Windows Media Connect 2.0、**uPnP AV 互換サーバー**、**DLNA 互換サーバー**をネットワークサーバーとして使用できます。
- 本機で音楽ファイルを快適に再生するための条件は、使用するネットワークサーバーに依存します。たとえば Windows Media® Player 11 の場合、以下のようになります。

オペレーティングシステム
Microsoft® Windows® XP Home Edition Service Pack 2（SP2）、Windows® XP Professional SP2、Windows® XP Tablet PC Edition SP2、または KB900325（Windows® XP Media Center Edition 2005 用の更新プログラム ロールアップ 2）および KB925766（更新プログラム ロールアップ 2006 年 10 月）を適用した Windows® XP Media Center Edition 2005

プロセッサ	Intel® Pentium® II や Advanced Micro Devices（AMD）のプロセッサなど、233MHz のプロセッサ
RAM	64 MB
ハードディスクの空き領域	200 MB
ドライブ	CD または DVD ドライブ
モデム	28.8 Kbps
サウンドカード	16 ビットサウンドカード
モニタ	Super VGA（800 × 600）
ビデオカード	64 MB の RAM（ビデオ RAM（VRAM））を搭載する、DirectX® 9.0b 対応のビデオカード
サウンド出力デバイス	スピーカーまたはヘッドホン
ソフトウェア	Microsoft® ActiveSync®（Windows Mobile® ベースの Pocket PC または Smartphone を使用する場合にのみ必須）
インターネットブラウザ	Microsoft® Internet Explorer® 6 または Netscape 7.1

Ethernet ケーブル（CAT-5）

ネットワークを構成する機器同士を実際につなぎ合わせるのが、このEthernet（イーサネット）ケーブルです。Ethernetケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルがあります。

- 本機では **CAT-5（カテゴリー） に適合した** Ethernet **ストレート**ケーブルを使用します。

Ethernetケーブルについてはお買い求めの販売店にご相談ください。

モデム（インターネットラジオ使用時）

ホームネットワーク（LAN）とインターネットを接続する機器です。

モデムにはインターネットと接続する形式によってさまざまな種類があります。

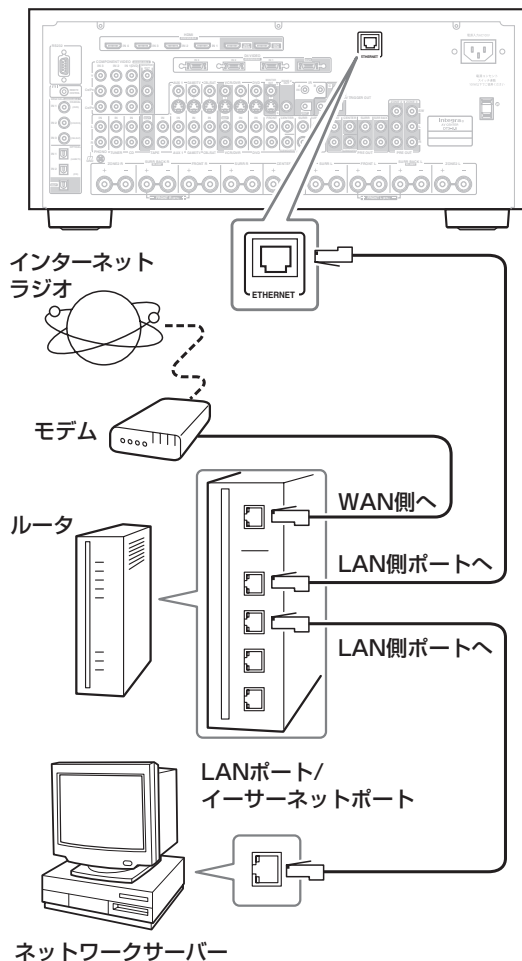
また、インターネットに接続するにはISP（インターネットサービスプロバイダ）というインターネットへの接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。

- インターネット接続には、**契約するISP業者が推奨するモデム**をご使用ください。

1台でルータとモデムの機能を併せ持つ機器もあります。

以上のネットワーク機器の内、
Net/USB機能「ネットワークサーバー」を使用するには、**ルータ**、**Ethernetケーブル**、**ネットワークサーバー**が必要になります。
Net/USB機能「インターネットラジオ」を使用するには、**ルータ**、**Ethernetケーブル**、**モデム**（およびISPとの契約）が必要になります。

ネットワーク機器の接続

ネットワーク機器がそろったら、以下のように接続して、ホームネットワーク（(LAN)を構築します。

!ヒント

各ネットワーク機器やインターネットへの接続には、個々の機器の設定が必要になります。
これらの設定については、各機器の取扱説明書やメーカー / ISPにご確認ください。

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護された DVD などはデジタル録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN（COAXIAL または OPTICAL）端子から入力したデジタル信号は、DIGITAL OUT（OPTICAL）端子からのみ出力されます。
  HDMI IN 端子から入力された信号は出力されません。
  アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- DTS 対応の CD や LD をアナログ録音すると、DTS 信号はノイズとして録音されることがあります。
- VCR/DVR IN 端子に入力された映像や音声は、VCR/DVR OUT 端子に出力されません。同様に TAPE IN 端子に入力された音声は、TAPE OUT 端子に出力されません。これは出力と入力にループができて故障するのを防ぐためです。

再生しながら録画する

現在再生中の音楽や映画を録画します。

1 入力切換ボタンを押して録画する機器（再生側）を選ぶ

2 録画する機器（録画側）の準備をする

- 録画する機器を録画待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録画機器で行ってください。
- 録画のしかたについては、録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録画を始める

手順 ***1*** で選んだ再生機器を再生します。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD 端子に接続した CD プレーヤーの音声と AUX 2 Input Video 端子に接続したビデオカメラの映像を VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録音・録画する例です。

1 録画する機器（再生側）の準備をする

例： AUX 2 Input Video 端子に接続したビデオカメラと CD IN 端子に接続した CD プレーヤーを準備する

2 VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

3 入力切換ボタンの「AUX 2」を押す

4 入力切換ボタンの「CD」を押す

音声出力は CD に変わりますが、映像出力は手順 ***3*** で選んだ AUX 2 のまま変わりません。VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、aux 2 Input Video 端子に接続したビデオカメラと CD プレーヤーの再生を始めます。
映像はビデオカメラから録画し、音声は CD プレーヤーから録音されます。

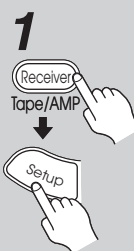
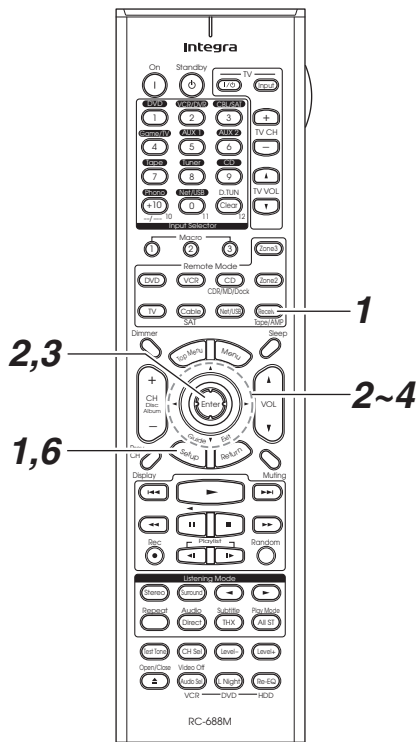
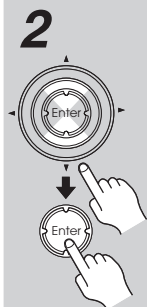
ご注意

- この方式で録音できるのは TUNER、TAPE、CD、PHONO 端子に接続した機器の音声のみです。

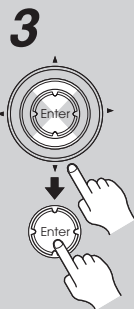
設定する（リスニングモード編）

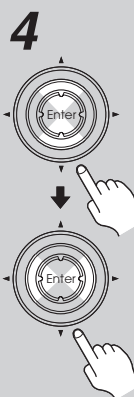
音響効果を調整する

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整することができます。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「3. 音声モード調整」を選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、Enter ボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して設定したいメニューを選び、◀/▶ボタンで調整する

1 つ前の画面に戻るときは、Return ボタンを押します。

5

手順 *3* と手順 *4* をくり返す

6

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

音質調整

64 ページの設定と同じです。

Direct

■ 遅延有効

DSD

DSD(スーパーオーディオ CD) 音声信号を A/V シンクやディレイなどの DSP 回路に通すか、通さないかを設定します。または Direct のリスニングモード選択時に DSP 回路に通すかどうかを設定します。

使用しない ：DSD 信号は DSP 処理されません。
使用する ：DSD 信号は DSP 処理されます。

“使用しない” に設定されている状態で DSD 信号が入力されるとリスニングモード「Direct」が「DSD Direct」になります。表示部に「DSD Direct」と表示されます。

多重音声 / モノラル

■ 多重音声

入力

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。
Display ボタンを押して表示部に音声の数が 「1 ＋ 1」 と表示されたら、音声多重放送です。

主 ：主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）
副 ：副音声を出力します。
主 / 副 ：主音声と副音声の両方を出力します。

■ モノラル再生

入力チャンネル

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ /PCM 信号を、「Mono」 リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

左＋右 ：左右チャンネルの信号両方を再生します。（お買い上げ時の設定）
左 ：左チャンネルの音声を再生します。
右 ：右チャンネルの音声を再生します。

出力スピーカー

「Mono」 リスニングモードを選んだときに、どのスピーカーからモノラル音声を出力するか設定することができます。

左 / 右 ：左右フロントスピーカーから出力します。
センター ：センタースピーカーから出力します。（お買い上げ時の設定）

PLIIx/Neo:6

■ PLIIx Music（2ch 入力）

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ /PCM 信号を、「PLIIx Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、「PLIIx」は「PLII」と表示されます。

Panorama

音場を横方向に広げることができます。

オン ：パノラマ効果を「オン」にします。
オフ ：パノラマ効果を「オフ」にします。（お買い上げ時の設定）

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。お買い上げ時は“0”に設定されています。

!ヒント

- “0”を中心に、“-1”、“-2”、“-3”とすると前方へ、“+1”、“+2”、“+3”とすると後方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。
Dolby Pro Logic IIx では、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。
お買い上げ時の設定は「3」ですが、0 ～ 7 の範囲で選択できます。

■ Neo:6 Music

Center Image

「Neo:6 Music」は、2 チャンネルで収録されたソースを 6 チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。
どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。
お買い上げ時の設定は “2” ですが、0 ～ 5 の範囲で選択できます。

!ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（－ 6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に便利です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby EX

Dolby EX

ドルビーデジタル EX 信号の再生方法を設定します。

自動　：ドルビーデジタルの 6.1 チャンネル識別信号があるとき、Dolby のリスニングモードは Dolby Digital EX、THX のリスニングモードは THX Surround EX が選べます。
（お買い上げ時の設定）

手動　：リスニングモード表の通りに選べます。

Theater-Dimensional

リスニングアングル

T-D リスニングモードでの最適な視聴角度を設定します。
視聴位置からの左右スピーカーの角度を設定します。左右スピーカーは視聴位置から等距離が望ましいです。

狭い　：30 度以内の場合にこの設定を選びます。

広い　：30 度以上の場合にこの設定を選びます。

LFE レベル

各入力信号の低域効果（LFE）レベルを設定します。
Dolby Digital、DTS、AAC、マルチチャンネル PCM、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DSD 信号の設定ができます。

お買い上げ時の設定はすべて「0dB」ですが、－∞ dB、－ 20dB、－ 10dB、0dB から選べます。
低域効果音が強調されすぎる場合は、－ 20dB や－∞ dB を選んでください。

Dolby Digital

ドルビーデジタルを再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

DTS

DTS 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

AAC

AAC 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

マルチチャンネル PCM

HDMI IN 端子から入力した DVD オーディオなどのマルチチャンネル PCM 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

Dolby TrueHD

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD ディスクの Dolby TrueHD 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

DTS-HD Master Audio

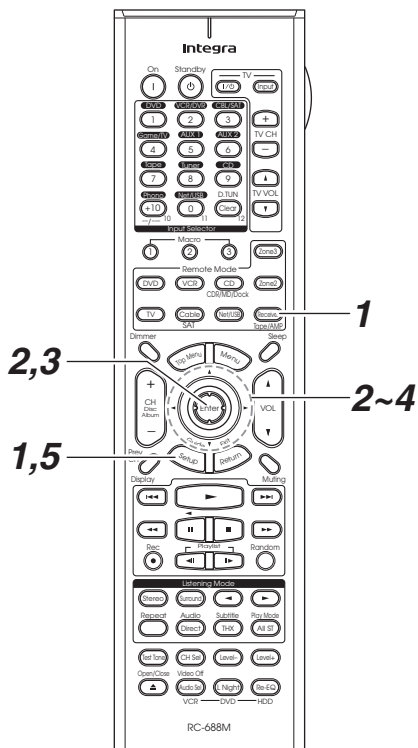
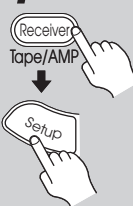
HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD ディスクの DTS-HD Master Audio 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

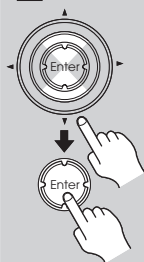
DSD

DSD（スーパーオーディオ CD）マルチチャンネルの LFE チャンネルのレベルを設定します。

よく使うリスニングモードを設定しておく

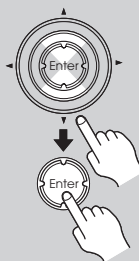
入力される信号によって、よく使うリスニングモードを設定しておくことができます。
再生中に切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたモードに戻ります。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「5. リスニングモードプリセット」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

5.リスニングモードプリセット
1.DVD
2.VCR/DVR
3.CBL/SAT
4.GAME/TV
5.AUX1
6.AUX2
7.TAPE
8.TUNER
9.CD
10.PHONO

3

▲/▼ボタンを押して「入力ソース」を選び、Enter ボタンを押す

信号フォーマットが表示されます。

5-1. リスニングモードプリセット DVD	
アナログ/PCM	All Ch Stereo
Dolby Digital	PLⅡx Movie
DTS	Neo:6
AAC	PLⅡx Movie
D.F.2ch	PLⅡx Movie
D.F.モノラル	Full Mono

▼

5-1. リスニングモードプリセット DVD	
マルチチャンネルPCM	Multich
192k/176.4k	Stereo
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD
DTS-HD Master Audio	DTS-HD MSTR
DSD	DSD

4

▲/▼ボタンを押して「設定したい信号の種類」を選び、◀/▶ボタンでリスニングモードを選ぶ

選択できるリスニングモードは設定する入力信号によって異なります。

- “最終値”はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

5

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

設定する（リスニングモード編）

アナログ /PCM

CD などの PCM 信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）

ドルビーデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS

DTS 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

AAC

AAC 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D. F. 2ch（チャンネル）

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D. F. モノラル

モノラルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

マルチチャンネル PCM

HDMI IN 端子から入力した DVD オーディオなどのマルチチャンネル PCM 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

192/176.4kHz

DVD オーディオなど、サンプリング周波数が 192/176.4kHz の信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby（ドルビー） TrueHD

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD ディスクの Dolby TrueHD 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS-HD Master（マスター） Audio（オーディオ）

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD ディスクの DTS-HD Master Audio 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DSD

DSD(スーパーオーディオ CD) マルチチャンネル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

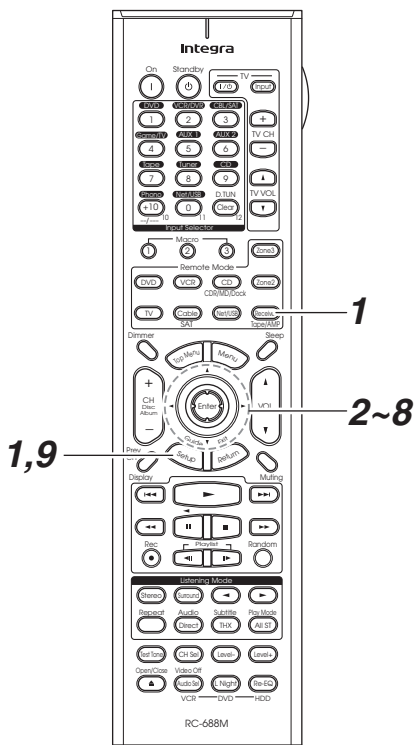
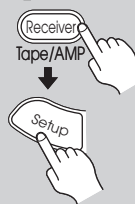
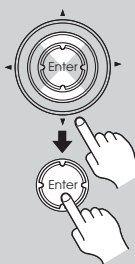
設定する（応用編）

スピーカーの設定をする

この中の多くのメニューは自動スピーカー設定（54 ページ）で自動設定されています。以下の手順は、自動スピーカー設定の後に使用するスピーカーを変更した場合や手動で設定したい場合、自動スピーカー設定で自動設定された内容を確認する場合に使用します。
ヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

スピーカー環境の設定

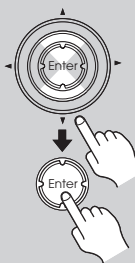
自動スピーカー設定（☞ 54 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。（LFE ローパスフィルタ、ダブルバスは手動で設定する必要があります。）

接続したスピーカーの有 / 無やクロスオーバー周波数などを設定します。
- THX 認証のスピーカーシステムを使用するときは、自動スピーカー設定を行ってもこの設定で 80Hz（THX）に設定し直してください。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲ / ▼ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲ / ▼ボタンを押して「2. スピーカーコンフィグ設定」を選び、Enter ボタンを押す

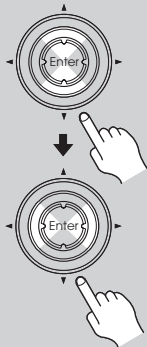
設定画面が表示されます。

4

▲ / ▼ボタンを押して「サブウーファー」を選び、◀ / ▶ボタンでサブウーファーの「有 / 無」を選ぶ

使用する：サブウーファーを接続している場合

使用しない：サブウーファーを接続していない場合

5

▲/▼ボタンを押して設定するスピーカーを選び、◀/▶ボタンでスピーカーの有無とクロスオーバー周波数を選ぶ

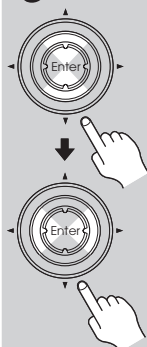
「フロント」「センター」「サラウンド」「サラウンドバック」についてそれぞれ設定します。
接続されていないスピーカーは"なし"を選んでください。
接続されているスピーカーはクロスオーバー周波数を選んでください。

!ヒント

- クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を何Hzからサブウーファーで出力するかの設定で、フルレンジ、40、45、50、55、60、70、80（THX）、90、100、110、120、130、150、200Hzから選択できます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

ご注意

- THX認証のスピーカーシステムを使用するときは、自動スピーカー設定を行ってもこの設定で80Hz（THX）に設定し直してください。
- フロントは"なし"に設定できません。サラウンドを"なし"にするとサラウンドバックも自動的に"なし"になります。
- 手順 ***4*** でサブウーファーを"使用しない"にした場合、フロントは"フルレンジ"に固定されます。他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。
- フロントを"フルレンジ"以外に設定した場合、他のスピーカーで"フルレンジ"を選べなくなります。
- 「2-1. スピーカー設定」の「スピーカータイプ」設定で"BTL"や"バイアンプ"を選択した場合、「7-2. ゾーン2/ゾーン3設定」の「パワード ゾーン2」設定で"有効"を選択した場合、手順 ***5*** で「サラウンドバック」を"なし"にした場合は、「サラウンドバック」は設定できません。

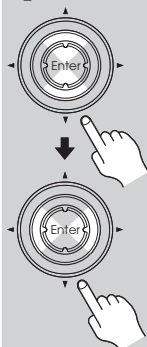
6

▲/▼ボタンを押して「サラウンドバックCh（チャンネル）」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch（チャンネル）：接続したサラウンドバックスピーカーが1つの場合（SURR BACK L端子に接続してください。）

2ch：接続したサラウンドバックスピーカーが2つの場合

ご注意

- 「2-1. スピーカー設定」の「スピーカータイプ」設定で"BTL"や"バイアンプ"を選択した場合、「7-2. ゾーン2/ゾーン3設定」の「パワード ゾーン2」設定で"有効"を選択した場合、手順 ***5*** で「サラウンドバック」を"なし"にした場合は、この項目は設定できません。

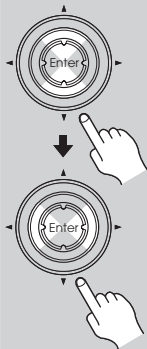
7

▲/▼ボタンを押して「LFEローパスフィルタ」を選び、◀/▶ボタンでローパスフィルタの周波数を選ぶ

!ヒント

- LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。80Hz（THX）、90Hz、100Hz、120Hzから選択できます。

ご注意

- THX認証のスピーカーシステムを使用するときは、自動スピーカー設定を行ってもこの設定で80Hz（THX）に設定し直してください。

8

▲/▼ボタンを押して「ダブルバス」を選び、◀/▶ボタンで設定する

オフ(THX)：
サブウーファーを強調しません。

オン：
サブウーファーを強調します。

ご注意

- サブウーファーを“使用する”にしていて、フロントを“フルレンジ”に設定している場合のみ設定できます。
- THX 認証のスピーカーシステムを使用するときは“オフ(THX)”を選択してください。

9

Setup ボタンを押す

設定が終了したら、Setup ボタンを押します。メニュー画面が消えます。

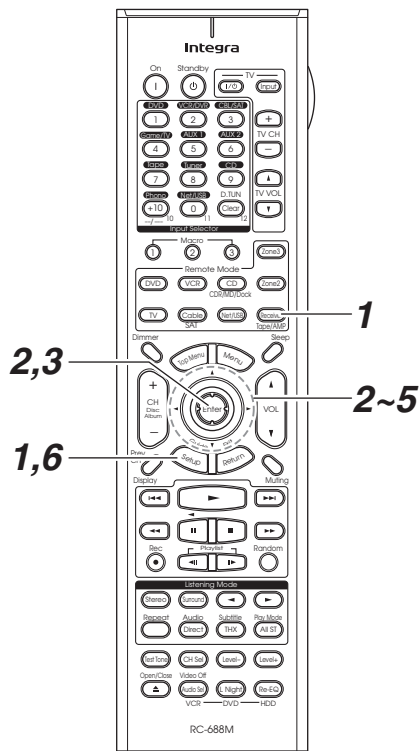
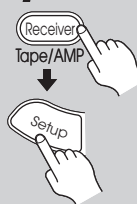
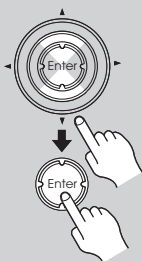
- メインメニュー画面に戻るには、Return ボタンを押してください。

!ヒント

- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

自動スピーカー設定（☞ 54 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

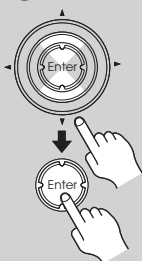
視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

2.スピーカー設定
1.スピーカー設定
2.スピーカーコンフィグ設定
3.スピーカー距離設定
4.スピーカー音量設定
5.イコライザ設定
6.THXオーディオ設定

3

▲/▼ボタンを押して「3. スピーカー距離設定」を選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2-3.　スピーカー距離設定

単位	メートル
左フロント	3.60m
センター	3.60m
右フロント	3.60m
右サラウンド	2.10m
右サラウンドバック	2.10m
左サラウンドバック	2.10m
左サラウンド	2.10m
サブウーファー	3.60m

ご注意

- 「2. スピーカー設定」の設定で、“使用しない”または“なし”を選択したスピーカーは、選択できません。

4

▲/▼ボタンを押して「単位」を選び、◀/▶ボタンで設定する単位を選ぶ

メートル：距離をメートルで設定する。0.06 m単位で 0.06 mから９mの範囲で設定できます。

フィート：距離をフィートで設定する。0.2ft 単位で 0.2ft から 30ft の範囲で設定できます。

5

▲/▼ボタンを押してスピーカーを選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

接続されているすべてのスピーカーについて、スピーカーから視聴位置までの距離を実際に近い数値に設定します。

6

Setup ボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSetup ボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、Return ボタンを押してください。

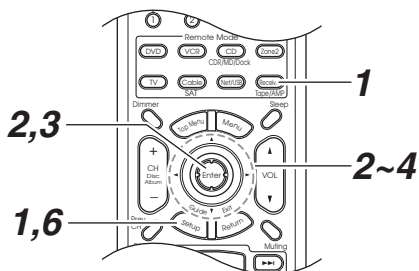
!ヒント

- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

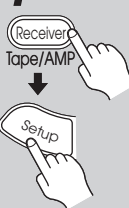
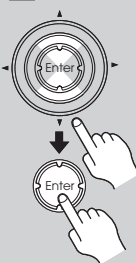
スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション）

自動スピーカー設定（☞ 54 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

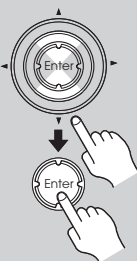
各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。
スタンバイ状態にしても記憶しています。

- ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

ご注意

本機は THX 対応機種ですので、テスト音は標準レベルの 0dB（絶対値の場合は 82）で出力されます。

通常お聞きになっている音量が小さい場合は、突然大きな音になりますのでご注意ください。

1 AMP ボタンを押してから Setups ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2 ▲/▼ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

2.スピーカー設定
1.スピーカー設定
2.スピーカーコンフィグ設定
3.スピーカー距離設定
4.スピーカー音量設定
5.イコライザ設定
6.THXオーディオ設定

3 ▲/▼ボタンを押して「4. スピーカー音量設定」を選び、Enter ボタンを押す

スピーカー音量設定画面が表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーから出力されます。

2-4.　スピーカー音量設定

左フロント	0.0dB
センター	0.0dB
右フロント	0.0dB
右サラウンド	0.0dB
右サラウンドバック	0.0dB
左サラウンドバック	0.0dB
左サラウンド	0.0dB
サブウーファー	0.0dB

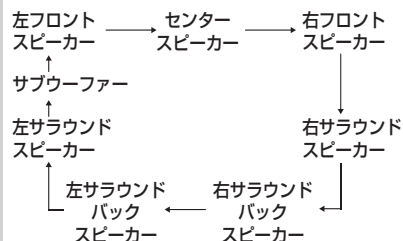
ご注意

- 「2. スピーカー設定」の設定で、“使用しない”または“なし”を選択したスピーカーは、設定できません

4 ▲/▼ボタンでスピーカーを切り換え、◀/▶ボタンを押してテスト音を調整する

すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- －12dB ～ +12dB の範囲で 0.5dB 単位で調整できます。
- サブウーファーは－ 15dB ～ +12dB の範囲内で調整できます。

5 手順 4 をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

6 Setup ボタンを押す

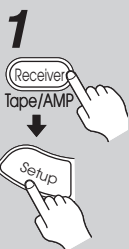
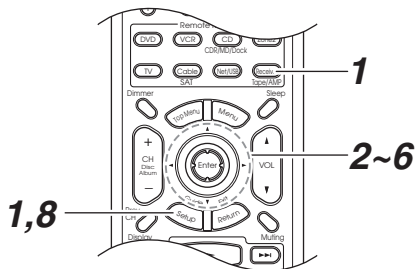
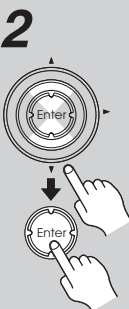
メニュー画面が消えます。

!ヒント

- リモコンの Test Tone ボタンでテスト音を出して設定することもできます。この場合、Level －/＋ボタンでテスト音を調整し、CH Sel ボタンでスピーカーを切り換えます。

スピーカーの音場補正

自動スピーカー設定（☞ 54 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は 94 ページで調整できます。ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

1

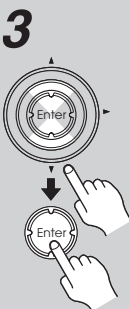
AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

2.スピーカー設定
1.スピーカー設定
2.スピーカーコンフィグ設定
3.スピーカー距離設定
4.スピーカー音量設定
5.イコライザ設定
6.THXオーディオ設定

3

▲/▼ボタンを押して「5. イコライザ設定」を選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2-5.　イコライザ設定
イコライザモード　オフ

4

◀/▶ボタンを押して「イコライザモード」を設定する

オフ　：すべての音域で同じ音量になります。
Audyssey：自動スピーカー設定で設定された音量になります。
手動　：お好みで設定できます。

“手動”を選んだ場合は、手順 ***5*** に進みます。“オフ”または“Audyssey”を選んだ場合は、手順 ***8*** に進みます。

5

▲/▼ボタンを押して設定チャンネルを選び、◀/▶ボタンでスピーカーを選ぶ

6

▲/▼ボタンで調整したい音域（周波数）を選び、◀/▶ボタンで調整する

周波数帯域は 15 帯域あります。サブウーファーは 5 帯域あります。
－ 6dB ～＋ 6dB の範囲で 1dB 単位で調整できます。

!ヒント
- 160Hz など、低い周波数は低音域、6300Hz などの高い周波数は高音域を表します。

7

手順 *6* をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定する

8

Setup ボタンを押す

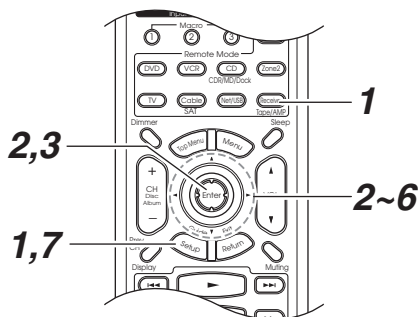
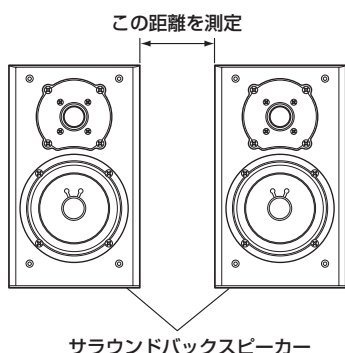
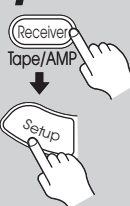
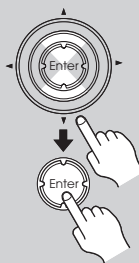
すべてのスピーカーの設定が終わったら Setup ボタンを押します。メニュー画面が消えます。
- メインメニュー画面に戻るには、Return ボタンを押してください。

!ヒント
- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

ご注意
- HDMI 入力した 176.4/192kHz の信号には効果がありません。

THX スピーカーの設定

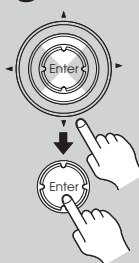
この項目は自動スピーカー設定（☞ 54 ページ）では自動で設定されていません。

サラウンドバックスピーカーの間隔を指定できます。
THX 認証のサブウーファーを使用しているときは、このページで説明している「THX サブウーファー」を“使用する”に設定してください。“使用する”に設定すると、THX の Boundary Gain Compensation (BGC) を設定できるようになります。
壁ぎわなど、部屋の境界のすぐ近くに座っているリスナーには、低い周波数が強調されます。
BGC はこれを補正する機能です。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲ / ▼ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲ / ▼ボタンを押して「6. THX オーディオ設定」を選び、Enter ボタンを押す

2-6.　THXオーディオ設定

サラウンドバック間距離	＜ 0.3m
THXサブウーファー	使用しない
BGC	---

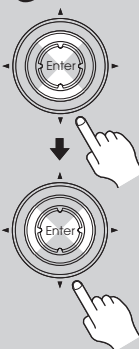
4

◀ / ▶ボタンで「サラウンドバック間距離」を設定する

＜ 0.3 m：
スピーカー間の距離が 0 ～ 30cm 未満の場合（お買い上げ時の設定）

0.3 ー 1.2m：
スピーカー間の距離が 30cm ～ 1.2 mの場合

＞ 1.2m：
スピーカー間の距離が 1.2m を超える場合

5

▲ / ▼ボタンで「THX サブウーファー」を選び、◀ / ▶ボタンで設定する

使用しない：THX 認証のサブウーファーを使用していないときに選びます。

使用する：THX 認証のサブウーファーを使用しているときに選びます。

6

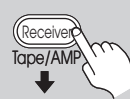
▲/▼ボタンで「BGC」を選び、◀/▶ボタンで設定する

オフ： BGC 効果をオフにします。
オン： BGC 効果をオンにします。

- 手順 ***5*** で「THX サブウーファー」を「使用する」に設定してるときだけ設定できます。

7

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。
- メインメニュー画面に戻るには、Return ボタンを押してください。

- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

入力音声の調整をする（音量差調整、遅延補正）

OSD の「4. ソース設定」で本機に接続した複数の機器間の音量差の調整、あるいは映像が音声より遅れる場合の補正ができます。

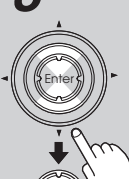
1

調整したい入力を入力切換ボタンで選び、接続機器を再生する

たとえば DVD の映像が音声より遅れている場合、DVD を再生します。

2

Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

3

▲/▼ボタンを押して「4. ソース設定」を選び、Enter ボタンを押す

画面が表示され、上段に選択している入力ソースが示されます。

4.ソース設定
DVD
1.インテリボリューム
2.A/Vシンク
3.名前編集

4

▲/▼ボタンで設定メニューを選び、Enter ボタンを押す

設定メニューの内容は次ページをご覧ください。

5

▲/▼ボタンで設定項目を選び、◀/▶ボタンで設定を調整する

6

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。
- メインメニュー画面に戻るには、Return ボタンを押してください。

!ヒント

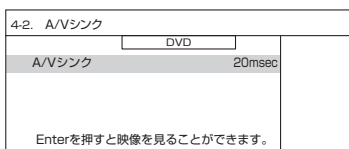
- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

インテリボリューム（機器間の音量差を減らす）

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。◀/▶ボタンで調整してください。
他の機器と比べて音量が大きい場合は◀ボタン、小さい場合は▶ボタンを押して調整します

- −12dB〜+12dBの範囲で1dB単位で調整できます。

A/V シンク（映像遅延補正）

DVD プレーヤーをプログレッシブ再生しているとき映像が音声より遅れている場合があります。A/V シンク機能を使って音声を遅延調整することで修正できます。
0〜250ms(ミリ秒)の範囲で2ms単位で調整できます。
Enter ボタンを押して再生画面を表示し、◀/▶ボタンで調整してください。

「HDMI リップシンク」設定が“有効”になっていて、お使いのテレビが HDMI リップシンク機能に対応している場合は A/V シンクの設定時間が表示されます。HDMI リップシンクの遅延時間は括弧で表示されます。

ご注意

- A/V シンク機能はアナログ入力ソースを Direct リスニングモードで再生する場合は効果がありません。

入力に名前をつける

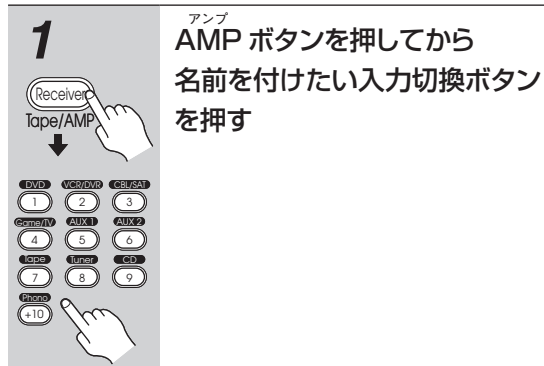
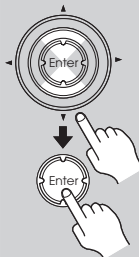
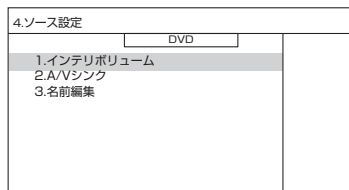
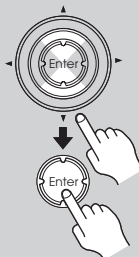
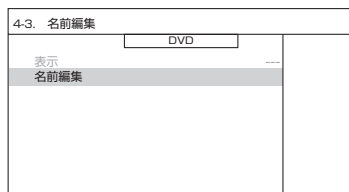
DVD や VCR/DVR などの各入力に名前をつけて表示させることができます。

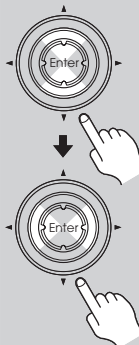
1

AMP（アンプ）ボタンを押してから名前を付けたい入力切換ボタンを押す

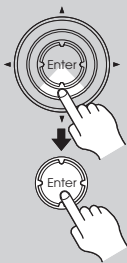
2

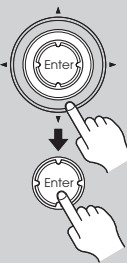
Setup（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

3

▲/▼ボタンを押して「4. ソース設定」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「3. 名前編集」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

- お買い上げ時に初めて名前をつけるときは手順 ***6*** に進みます。
- 入力にすでに名前がついているときは“初期値”または“カスタム”が選べます。

5

▲/▼ボタンを押して「表示」を選び、◀/▶ボタンで選択する

初期値　：　お買い上げ時の名前を表示します。
カスタム：　ご自分がつけた名前を表示します。

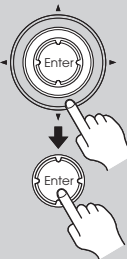
6

▼ボタンを押して「名前編集」を選び、Enter ボタンを押して文字入力画面へ進む

7

▲ / ▼ / ◀ /▶ボタンを押して入力したい文字を選び、Enter ボタンを押す

この操作で 10 文字まで入力できます。

文字を訂正するときは：

1. ← → を選んで Enter ボタンをくり返し押して、訂正する文字を選ぶ
2. ▲/ ▼ / ◀ / ▶ボタンで正しい文字を選んで、Enter ボタンを押す

8

名前入力が終了したら▲ / ▼ / ◀ /▶ボタンを押して以下の画面を表示し、OK を選び Enter ボタンを押す

"OK"

ご注意

- つけた名前を保存するには必ず OK を選び Enter ボタンを押してください。

9

Setup ボタンを押す

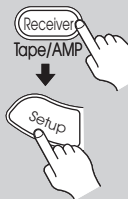
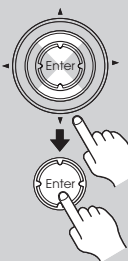
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、Return ボタンを押してください。

!ヒント

- 本体の Setup ボタン、▲/ ▼ / ◀ / ▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

お好みの設定をする

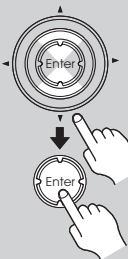
1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲ / ▼ボタンを押して「6. その他設定」を選び、Enter ボタンを押す

6.その他設定

1.ボリューム設定
2.OSD設定
3.12Vトリガー A設定
4.12Vトリガー B設定
5.12Vトリガー C設定

3

▲ / ▼ボタンを押して、設定したい「サブメニュー」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニューの内容は次ページをご覧ください。

4

▲ / ▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀ /▶ボタンで選択する

5

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

- 本体の Setup ボタン、▲/ ▼ / ◀ / ▶ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

ボリューム設定

ボリューム表示

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。

絶対値

MIN · 0.5 · 1…99 · 99.5 · MAX の範囲で表示します。

相対値（お買い上げ時の設定）

−∞ dB ·− 81.5dB ·− 81.0dB ······+ 18.0dB の範囲で表示します。絶対値の音量 82 が相対値の 0dB に相当します。

ミュート減衰量

ミューティング時の音量を聞いている音よりどれだけ下げるか設定しておくことができます。10dB 単位で−∞ dB、− 50dB 〜− 10dB の範囲で設定できます。お買い上げ時の設定は、−∞ dB です。

最大音量

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大値を設定することができます。
相対値表示の場合は、オフ·+ 17dB 〜− 32dB の範囲内で設定できます。
絶対値表示の場合は、オフ· 99 〜 50 の範囲内で設定できます。
設定しないときは“オフ”を選びます。

パワーオン時音量

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
相対値表示の場合は、最終値·−∞ dB ·− 81dB 〜+ 18dB の範囲内で設定できます。
絶対値表示の場合は、最終値·最小· 1…最大の範囲内で設定できます。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「最終値」を選びます。

ご注意

- 「最大音量」で設定した値より高く設定することはできません。

ヘッドホンレベル

スピーカーで聞くときとヘッドホンで聞くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。
− 12dB 〜+ 12dB の範囲で調整できます。

ゾーン 2 最大音量

別室 A（Zone2）の音量が大きくなり過ぎないよう最大音量レベルを設定できます。
左記の「ボリューム表示」設定を“絶対値”にしているとき、設定範囲は 99 〜 50 です。
左記の「ボリューム表示」設定を“相対値”にしているとき、設定範囲は +17dB 〜 − 32dB です。設定しないときは「オフ」を選びます。

ゾーン 2 パワーオン時音量

本機の電源を入れたときの別室 A（Zone2）の音量を設定します。
左記の「ボリューム表示」設定を“絶対値”にしているとき、最終値、最小、1 〜最大の範囲内で設定できます。
左記の「ボリューム表示」設定を“相対値”にしているとき、最終値、−∞ dB、− 81dB 〜 +18dB の範囲内で設定できます。最後に本機の電源を切ったときの音量を使用するときは「最終値」を選びます。

ゾーン 3 最大音量

別室 B（Zone3）の音量が大きくなり過ぎないよう最大音量レベルを設定できます。
左記の「ボリューム表示」設定を“絶対値”にしているとき、設定範囲は 99 〜 50 です。
左記の「ボリューム表示」設定を“相対値”にしているとき、設定範囲は +17dB 〜 − 32dB です。設定しないときは「オフ」を選びます。

ゾーン 3 パワーオン時音量

本機の電源を入れたときの別室 B（Zone3）の音量を設定します。
左記の「ボリューム表示」設定を“絶対値”にしているとき、最終値、最小、1 〜最大の範囲内で設定できます。
左記の「ボリューム表示」設定を“相対値”にしているとき、最終値、−∞ dB、− 81dB 〜 +18dB の範囲内で設定できます。最後に本機の電源を切ったときの音量を使用するときは「最終値」を選びます。

OSD 設定

イミディエイト表示

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。（ただし、“オン”に設定しても、再生機器をCOMPONENT VIDEO 入力端子、D4 VIDEO 入力端子、HDMI 入力端子に接続しているときは、操作内容は表示されません。）

オン　：　表示します。（お買い上げ時の設定）
オフ　：　表示しません。

モニタータイプ

操作内容の表示がテレビ画面からはみ出たり、伸びて映っている場合は、お持ちのテレビに合わせて設定してください。

4：3　：　ご使用のテレビが 4：3 のとき設定します。（お買い上げ時の設定）
16：9　：　ご使用のテレビが 16：9 のとき設定します。

表示位置

操作内容の表示をテレビ画面のどの位置に表示させるかを設定します。

下　：　画面の下方に表示します。（お買い上げ時の設定）
上　：　画面の上方に表示します。

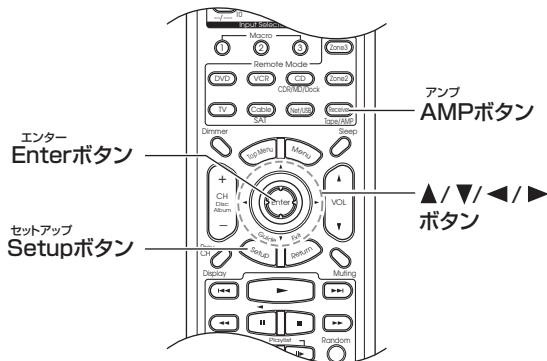
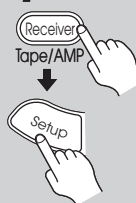
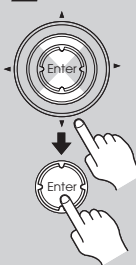
言語 (Language)

OSD メニューの表示言語を設定します。
日本語、English、Deutsch、Français、Español、Italiano、Nederlands、Svenska から選択できます。

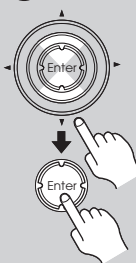
12V トリガー A/B/C 設定

109 ページをご覧ください。

接続機器を設定する

「ハードウェア設定」について説明します。

1 AMP（アンプ）ボタンを押してから Setup（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2 ▲/▼ボタンを押して「7. ハードウェア設定」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

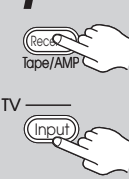
「ハードウェア設定」サブメニュー画面が表示されます。

7.ハードウェア設定
1.リモコン設定
2.ゾーン2/ゾーン3設定
3.アナログマルチチャンネル設定
4.HDMI
5.ネットワーク設定

3 ▲/▼ボタンを押してメニュー項目を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

各サブメニューの内容は次ページをご覧ください。

4

▲/▼ボタンを押して メニュー項目を選び、 ◀/▶ボタンで設定する

5

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、Return ボタンを押してください。

!ヒント

- 本体の Setup ボタン、▲/▼/◀/▶ ボタン、Enter ボタンでも操作することができます。

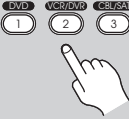
リモコン設定

リモコン ID

インテグラ / オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のインテグラ / オンキヨー製品と区別をつけるために、リモコン ID を変更することができます。
この設定では本体のリモコン ID を「1」「2」「3」から選択できます。本体のリモコン ID を変えた場合、下記の手順でリモコンのリモコン ID も同じ値にしてください。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。

リモコンのリモコン ID を変更する

- リモコン ID はリモコン、本体ともに同じ値に設定する必要があります。以下の手順でリモコンのリモコン ID を変更することができます。

1

AMP ボタンを押しながら、TV Input ボタンを押す

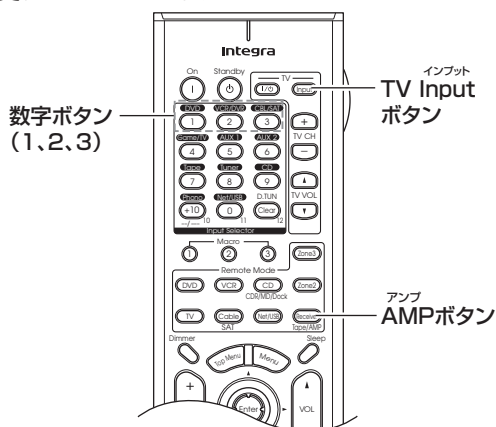
約 4 秒間、リモートインジケーターが点滅します。

2

点滅後、設定したいコードの数字ボタンを押す

1 ～ 3 から選べます。

別室で再生するための設定（ゾーン 2/ ゾーン 3 設定）

詳しくは 104 ページをご覧ください。

アナログマルチチャンネル設定

サブウーファー入力感度

DVD プレーヤーによっては、マルチチャンネル出力時に LFE（低域効果音）チャンネルが 15dB 高く出力されるものがあり、サブウーファーの音量が大きくなることがあります。
この設定では、マルチチャンネル入力時のサブウーファーの音量を設定することができます。
0dB（お買い上げ時の設定）、5dB、10dB、15dB から選択できます。
サブウーファーが大きすぎる場合は、10dB や 15dB を選んでください。

HDMI

HDMI オーディオ出力

HDMI IN 端子に入力した音声を HDMI OUT 端子から出力するかどうかを設定します。DVD プレーヤーを本機の HDMI IN 端子に接続し、HDMI OUT 端子にテレビを接続した場合、DVD プレーヤーの音声を本機に接続したスピーカーではなくテレビのスピーカーで聞きたいときはこの設定を“オン”にしてください。
通常本機に接続したスピーカーで聴くには“オフ”に設定します。

オフ　：HDMI OUT からの音声は出力しません。
オン　：HDMI IN 音声を HDMI OUT から出力します。

ご注意

- “オン”に設定したときは、本機に接続したスピーカーからは音はでません、ご注意ください。
- 「TV 連動」設定を “有効” にして使用する場合、この「HDMI オーディオ出力」設定は“自動”になります。

- テレビや入力信号によっては「HDMI オーディオ出力」を“オン”に設定しても音が出ない場合があります。
- この設定を“オン”、あるいは「TV 連動」を“有効”に設定してテレビのスピーカーで音声を聞いているときに、本機のボリュームを上げると音声が本機に接続されているスピーカーから出力される場合があります。本機に接続されているスピーカーからの音声出力を止めるにはこの設定やテレビの設定を変更するか本機のボリュームを下げてください。

リップシンク

HDMI OUT 端子から出力される音声と映像がずれたときに自動で同期をとって修正する機能です。この「ずれ」は HDMI 対応のテレビで複雑なデジタル映像信号の処理をするために起こるものです。リップシンク機能は音声の遅延を本機で自動に計算して遅れを補正します。

無効　：HDMI リップシンク機能を無効にします。
有効　：HDMI リップシンク機能を有効にします。

ご注意
- HDMI リップシンクに対応している HDMI 対応のテレビの場合にのみ使用できる機能です。
- OSD 画面「A/V シンク」で HDMI リップシンク遅延時間を確認できます。

xvYCC

HDMI 入力ソースと HDMI 対応テレビが xvYCC カラー規格に準拠してる場合、xvYCC 機能を使用できます。

無効　：xvYCC 機能を無効にします。
有効　：xvYCC 機能を有効にします。

コントロール

CEC 規格準拠の機器、あるいは RIHD 規格準拠の機器を本機と HDMI 接続することでそれらの機器を本機でコントロールできます。

無効　：HDMI コントロールを無効にします。
有効　：HDMI コントロールを有効にします。

ご注意
- 接続する機器が CEC 規格あるいは RIHD 規格と互換性がない場合、あるいは互換性の有無が分からない場合は“無効”に設定してください。
- “有効”の設定で、操作中に機器の動作が“おかしい”場合は“無効”に設定し直してください。
- この設定を“有効”、あるいは「HDMI オーディオ出力」を“オン”に設定してテレビのスピーカーで音声を聞いているときに、本機のボリュームを上げると本機に接続されているスピーカーから音が出る場合があります。本機に接続されているスピーカーから音が出るを止めるにはこの設定やテレビの設定を変更するか本機のボリュームを下げてください。
- この設定を“有効”にしているときは、本機の RI 端子とテレビを接続しないでください。HDMI コントロールと RI オーディオコントロールの両方が機能し、誤動作の原因となることがあります。

電源連動

本機と HDMI 接続した CEC 規格準拠の機器、あるいは RIHD 規格準拠の機器との間でパワーコントロール機能を連動します。

無効　：パワーコントロール機能を連動しません。
有効　：パワーコントロール機能を連動にします。

ご注意
- パワーコントロール機能は上述の「コントロール」設定が“有効”になっている場合にのみ設定できます。
- 「電源連動」機能は接続した HDMI 機器が本機能に対応している場合にのみ動作します。機器によってはその設定や互換性により正しく動作しない場合があります。
- 「電源連動」が“有効”のときは本体がスタンバイ状態になるとパネルの Standby 表示の替わりに Ready 表示が点灯します。
- Ready 表示のときはスタンバイ状態のときよりも電力消費が高くなります。

TV 連動

本機と HDMI 接続した RIHD 規格準拠のテレビから本機をコントロールします。

無効　：テレビからのコントロール機能を無効にします。
有効　：テレビからのコントロール機能を有効にします。

ご注意
- 接続したテレビが互換性がない場合、あるいは互換性の有無が分からない場合は“無効”に設定してください。
- 「TV 連動」設定は上述の「コントロール」設定と「電源連動」設定の、ふたつとも“有効”になっているときのみ設定できます。

ご注意
「コントロール」、「電源連動」、「TV 連動」の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器すべての電源を一度切って、再度電源を入れてください。またそれぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ネットワーク設定

74 ページをご覧ください。

ロック設定

誤って設定を変更してしまわないように、設定したメニューにロックをかけることができます。

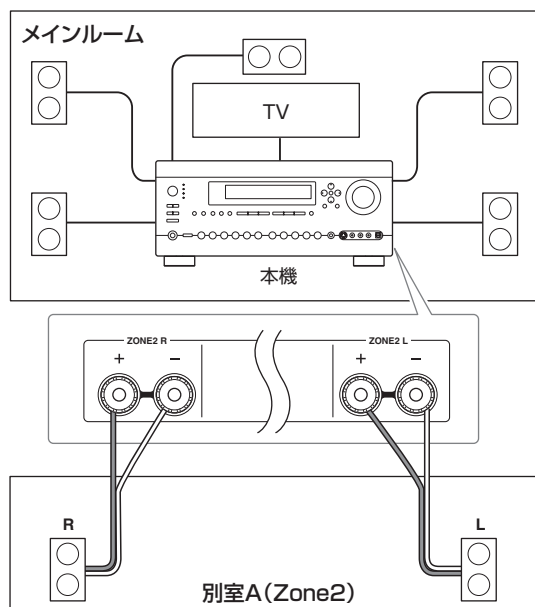
ロック　：ロックをかけます。ロックをかけておくと、そのあとに設定を変更しても、スタンバイ状態にすることで、ロックをかけたときの状態に戻ります。
解除　：設定操作にロックをかけません。（お買い上げ時の設定）

別室（Zone2/3）で音楽を鑑賞する

別室用のスピーカーやアンプを接続して別室（Zone2/3）で異なるソースをお楽しみいただくことができます。
別室 A（Zone2）でお楽しみいただくには、2 つの方法があります。

別室 A（Zone2）接続と設定方法

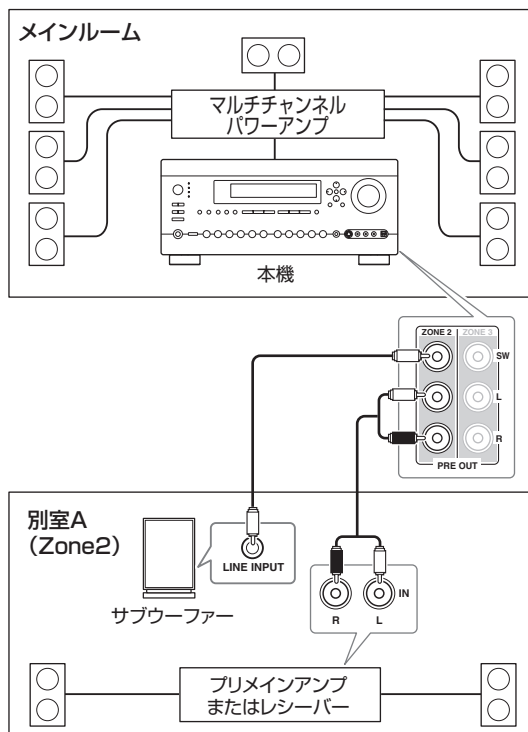
スピーカーだけを接続する場合

- メインルームで 5.1 チャンネル再生をしながら、別室 A で異なるソースを再生できます。
- 音量は本機で調整します。

1 別室 A で使用するスピーカーを本機の ZONE（ゾーン） 2 L/R 端子に接続する

2 セットアップメニューの設定をする

「パワード ゾーン 2」設定を“有効”にします。
（☞ 106 ページ）

プリメインアンプまたはレシーバーを接続する場合

- メインルームで 7.1 チャンネル再生をしながら、別室 A で異なるソースを再生できます。
- 音量は別室 A で使用するプリメインアンプまたはレシーバーで調整してください。音量調節できないパワーアンプと接続するときは、本機で調整することもできます。

1 別室 A で使用するプリメインアンプまたはレシーバーとサブウーファーを本機に接続する

本機の ZONE 2 PREOUT L/R 端子にプリメインアンプまたはレシーバーの音声入力端子を接続し、ZONE 2 PREOUT SW 端子に、アンプ内蔵のサブウーファーを接続してください。

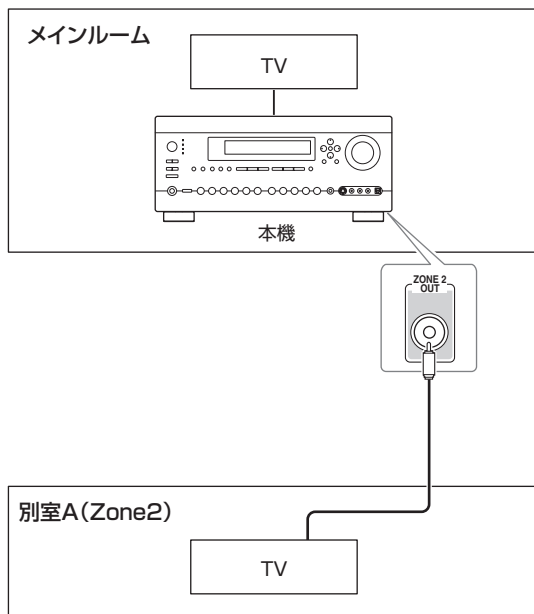
2 別室 A で使用するスピーカーをプリメインアンプまたはレシーバーのスピーカー端子に接続する

3 セットアップメニューの設定をする音量調整できないパワーアンプと接続する

ときは、「ゾーン 2 出力」の設定を“可変”にすると、本機で音量を調整することができます。
（☞ 108 ページ）
プリメインアンプやレシーバーと接続するときは、お買い上げ時の設定のままでご使用いただけます。

別室（Zone2/3）で音楽を鑑賞する

別室 A（Zone2）にビデオ出力する

- ビデオ（コンポジット）の映像信号を別室 A（Zone2）のテレビに送って別室 A（Zone2）でも映像をご覧いただけます。

1 別室 A（Zone2）で使用するテレビのビデオ入力端子と本機のビデオ出力端子をビデオケーブルで接続する

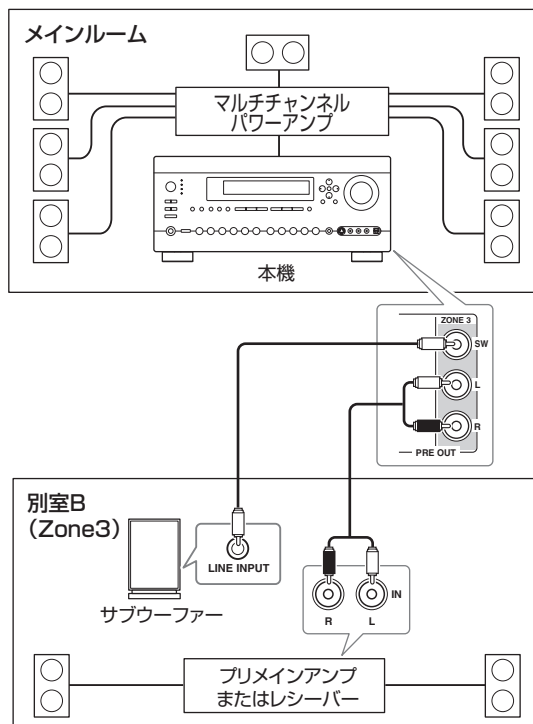
本機の ZONE 2 OUT V 端子と別室 A（Zone2）のテレビのビデオ（コンポジット）入力端子をビデオコードで接続します。

ご注意

- 本機のZONE 2 OUT V端子からは、本機のビデオ入力（V）端子または S ビデオ入力（S）端子に接続された機器からの映像信号が別室 A（Zone2）へ出力されます。

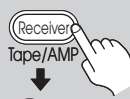
別室 B（Zone3）接続と設定方法

- メインルームや別室 A（Zone2）とは異なるソースを別室 B（Zone3）で再生できます。
- 別室 B（Zone3）のスピーカーは別室 B（Zone3）で使用するプリメインアンプまたはレシーバーに接続します。

別室 B（Zone3）のスピーカーを接続する

1 別室 B（Zone3）で使用するプリメインアンプまたはレシーバーとサブウーファーを本機に接続する

本機の ZONE 3 PRE OUT L/R 端子にプリメインアンプまたはレシーバーの音声入力端子を接続し、ZONE 3 PRE OUT SW 端子に、アンプ内蔵のサブウーファーを接続してください。

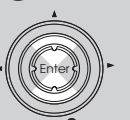
2 別室 B（Zone3）で使用するスピーカーを別室 B（Zone3）のプリメインアンプまたはレシーバーのスピーカー端子に接続する

音量調整できないパワーアンプと接続するときは「ゾーン 3 出力」の設定を“可変”にすると、本機で音量を調整することができます（☞ 108 ページ）。

プリメインアンプやレシーバーと接続するときは、お買い上げ時の設定のままでご使用いただけます。

別室（Zone2/3）で音楽を鑑賞する

Powered Zone 2 の設定をする

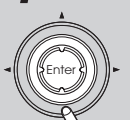
ZONE2 L/R 端子に別室 A（Zone2）用のスピーカーを接続したときは（☞ 104 ページ「スピーカーだけを接続する場合」）、この設定を“有効”にします。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「7. ハードウェア設定」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「2. ゾーン 2/ ゾーン 3 設定」を選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

7-2.　ゾーン2/ゾーン3設定

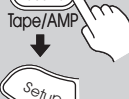
パワード ゾーン2	無効
ゾーン2出力	固定
ゾーン3出力	固定

4

▲/▼ボタンを押して「パワード ゾーン 2」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

無効： Zone2 スピーカーは働きません。（お買い上げ時の設定）

有効： Zone2 スピーカーが働きます。Zone2 が「オン」になっているときは、メインルームのサラウンドバックスピーカーが働きません。

5

Setup ボタンを押す

設定が終了します。

Zone 2/Zone 3 Out の設定をする

ZONE 2/ZONE 3 OUT 端子に音量調整機能の無いパワーアンプを接続したときは、この設定を「可変」にします。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

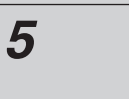
2

▲/▼ボタンを押して「7. ハードウェア設定」を選び、Enter ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「2. ゾーン 2/ ゾーン 3 設定」を選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

7-2.　ゾーン2/ゾーン3設定

パワード ゾーン2	無効
ゾーン2出力	固定
ゾーン3出力	固定

4

▲/▼ボタンを押して「ゾーン 2 出力」または「ゾーン 3 出力」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

固定： ZONE 2/ZONE 3 PREOUT 端子は出力の音量が固定されますので、別室 A/B（Zone2/3）の音量は別室 A/B（Zone2/3）用のアンプで調整します。（お買い上げ時の設定）

可変： 別室 A/B（Zone2/3）の音量を本機で調整することができます。

5

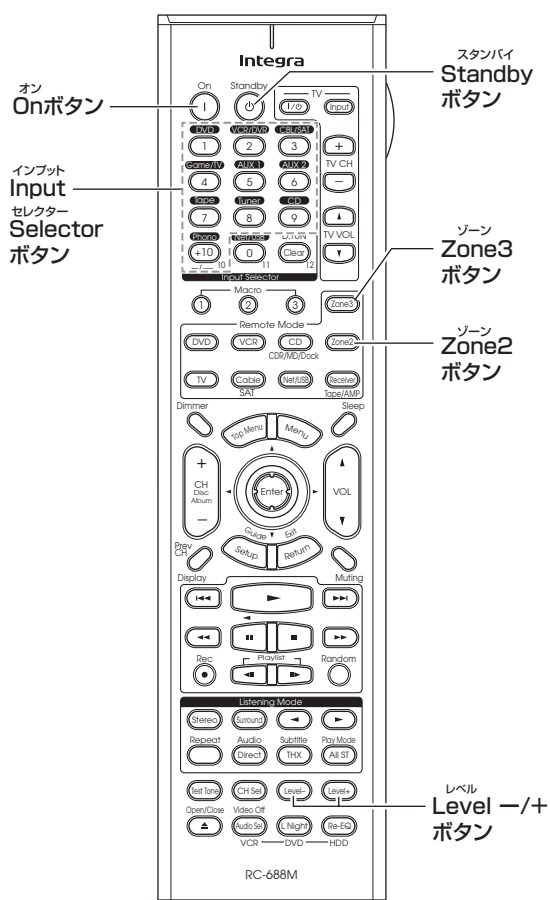
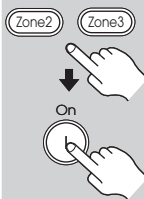
Setup ボタンを押す

設定を終了します。

別室（Zone2/3）で音楽を鑑賞する

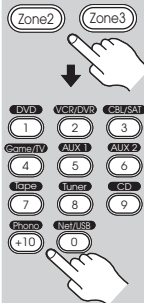
別室 A/B（Zone2/3）で音楽を鑑賞する

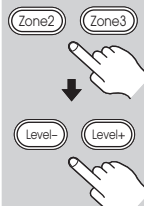
- 別室 A/B（Zone2/3）では、デジタル信号の再生はできません。アナログ信号のみ再生できます。
- ZONE 2 L/R 端子に接続したスピーカーを使用しているときは、本機の SURR BACK L/R 端子から音声信号が出力されなくなるため、メインルームでサラウンドバックドルビーデジタルスピーカーを使用するリスニングモード（Dolby Digital EX など）は選べません。
- Zone2 あるいは Zone3 が働いているときは、連動機能は働きません。

リモコンで操作する

1 別室 A または別室 B の電源を入れる

Zone 2 ボタンまたは Zone 3 ボタンを押してから、On ボタンを押します。
Zone 2 または Zone 3 インジケーターが点灯します。

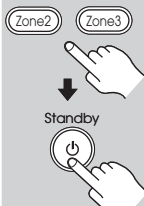
ご注意

- 「パワード ゾーン 2」設定が有効になっている場合、別室 A（Zone 2）の電源を入れると、メインルームは 5.1ch になります。このとき本機の SURR BACK L/R 端子からは音声信号が出力されません。

2 ソースを選ぶ

Zone 2 ボタンまたは Zone 3 ボタンを押してから、Input Selector ボタンを押します。

3 音量を調整する

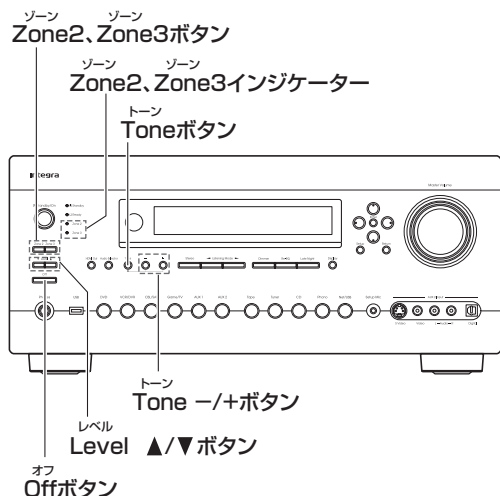
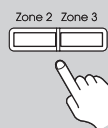
Zone 2 ボタンまたは Zone 3 ボタンを押してから、Level − / +ボタンを押して調整します。

ご注意

- プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。
- Zone2 あるいは Zone3 の音量を一時的に小さくするには、Zone 2 ボタンまたは Zone 3 ボタンを押してから、Muting ボタンを押します。
  解除するには、再度 Zone 2 ボタンまたは Zone 3 ボタンを押してから、Muting ボタンを押します。

4 別室 A または別室 B をオフにする

別室 A または別室 B を使用しないときは、Zone 2 ボタンまたは Zone 3 ボタンを押してから、Standby ボタンを押してください。

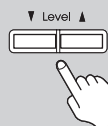
別室（Zone2/3）で音楽を鑑賞する

本体で操作する

1

本体の電源をオンにしてから、Zone2 または Zone3 のソースを選ぶ

Zone 2 または Zone 3 ボタンを押してゾーン 2 の電源を入れます。
Zone 2 ボタンまたは Zone 3 ボタンをくり返し押して、ソースを選びます。
Zone 2 または Zone 3 インジケーターの点滅中に入力切換ボタンを押して、ソースを選ぶこともできます。

Zone2またはZone3とメインルームのソースを同じソースにするには

Zone 2 ボタンまたは Zone 3 ボタンをくり返し押して、
「Zone2 Selector：Source」または「Zone3 Selector：Source」と表示させます。

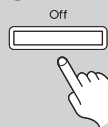
2

▼ Level ▲

音量を調整する

Level ▲ / ▼ボタンを押して音量を調整します。

ご注意

- プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。

3

Zone2 または Zone3 をオフにする

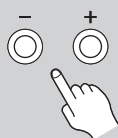
Zone2 または Zone3 を使用しないときは、Zone 2 ボタンまたは Zone 3 ボタンを押してから、Standby/On ボタンを押すか、Off ボタンを押して「Off」にします。

バランスを調整する

1

Zone2 または Zone3 を押してから Tone ボタンをくり返し押して、「Balance（バランス）」を選ぶ

2

− +

Tone − / +ボタンを押して、調整する

Balance ：
Zone2 での左右のスピーカーのバランスを調整します。
左右とも 0 から+ 10 の範囲内で 2 ずつ調整できます。

ご注意

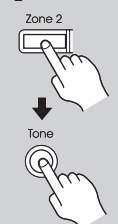
- 別室 A（Zone2）のバランスは「ゾーン 2 出力」設定が“固定”のときは調整できません。
- 別室 B（Zone3）のバランスは「ゾーン 3 出力」設定が“固定”のときは調整できません。

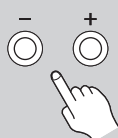
別室 A（Zone2）の音質を調整する

別室 A（Zone2）の Bass、Treble を調整します。

ご注意

- ゾーン 3 は音質調整できません。

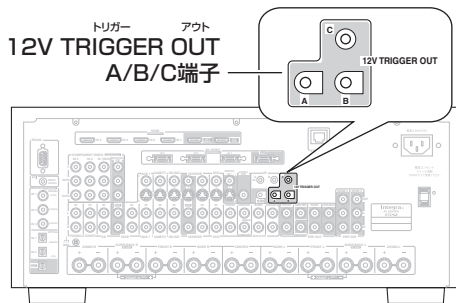
1

Zone2 を押してから Tone ボタンをくり返し押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

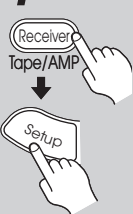
2

Tone − / +ボタンを押して、調整する

Bass、Treble：
お買い上げ時は「0」ですが、− 1 0 d B から+ 1 0 d B の範囲内で 2dB ずつ調整できます。

別室（Zone2/3）で音楽を鑑賞する

Zone2/Zone3 とメインルームの 12V Trigger 信号の設定をする

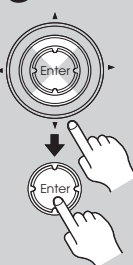
本機の 12V TRIGGER OUT 端子を、接続している機器の 12V TRIGGER IN 端子に接続しているとき、入力ごとにどの部屋で使うときにトリガー信号を出力させるのかを設定します。

接続には抵抗なしのミニプラグケーブルをご使用ください。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲ / ▼ボタンを押して「6. その他設定」を選び、Enter ボタンを押す

6.その他設定
1.ボリューム設定
2.OSD設定
3.12Vトリガー A設定
4.12Vトリガー B設定
5.12Vトリガー C設定

3

▲ / ▼ボタンで「12V トリガー A、B または C 設定」を選び、Enter ボタンを押す

6-X.　12Vトリガー X設定

遅延	0sec
DVD	メイン
VCR/DVR	メイン
CBL/SAT	メイン
GAME/TV	メイン
AUX1	メイン
AUX2	メイン
TAPE	メイン
TUNER	メイン
CD	メイン ▼

4

▲ / ▼ボタンで「遅延」または入力ソースを選び、◀ / ▶ボタンで設定をする

5

Setup ボタンを押す

設定を終了します。

12V トリガー A/B/C 設定

12V トリガー A/B/C 端子の設定です。

オフ：12V トリガーを使用しないときに選びます。

メイン：接続している機器をメインルームで使用するときだけトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

ゾーン 2：接続している機器をゾーン 2 で使用するときだけトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

メイン / ゾーン 2：接続している機器をメインルームまたはゾーン 2 で使用するときトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

ゾーン 3：接続している機器をゾーン 3 で使用するときだけトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

メイン / ゾーン 3：接続している機器をメインルームまたはゾーン 3 で使用するときトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

ゾーン 2/3：接続している機器をゾーン 2 またはゾーン 3 で使用するときトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

メイン / ゾーン 2/3：接続している機器をメインルーム、ゾーン 2 またはゾーン 3 で使用するときトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

遅延

12V トリガー接続をしている機器の電源が入るときに、機器によっては瞬間的に大容量の電流が流れる場合があります。これを防ぐため、メインルームまたはゾーン 2/3 の電源入力と本機からの 12V トリガー信号出力に時間差をつけることができます。また、電源入力を遅らせることで、不安なノイズ（ボコ音など）を避けることができます。

0 sec（秒）：メインルームまたはゾーン 2/3 の電源入力に連動して同時にトリガー信号を出力する場合に選びます。

1 sec（秒）：メインルームまたはゾーン 2/3 の電源入力から 1 秒後にトリガー信号を出力する場合に選びます。

2 sec（秒）：メインルームまたはゾーン 2/3 の電源入力から 2 秒後にトリガー信号を出力する場合に選びます。

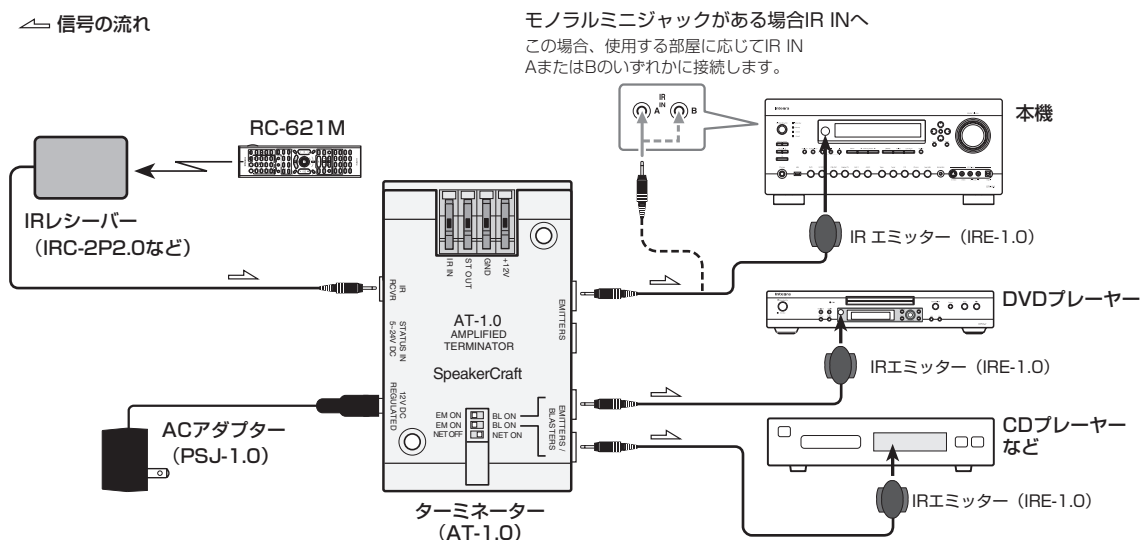
3 sec（秒）：メインルームまたはゾーン 2/3 の電源入力から 3 秒後にトリガー信号を出力する場合に選びます。

別室（Zone2/3）で音楽を鑑賞する

リモコン信号が届かない場合は（マルチルームでリモコンを操作する）

市販のマルチルームキットなどを使用して、本機にリモコン信号が届かない場所からでもリモコン操作をすることができます。
別室 A/B（Zone2/3）でホームシアターを楽しんだり、機器をキャビネットに収納している場合などにご利用ください。
ここではスピーカークラフト社の赤外線コントロールシステムをご使用になった場合の例で説明します。
同セットには取扱説明書を同梱しておりますが、取り付けにあたっては壁内配線などを要する場合もございますので、同セット取り扱いのカスタムインストールができる販売店への依頼をお勧めいたします。

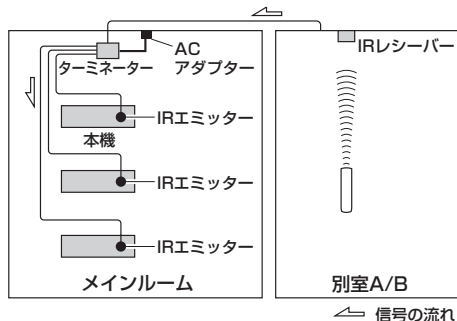
※ マルチルーム用のキットによっては本機のIR IN OUT端子をご使用いただくことができます。その場合はマルチルームキットの説明書にしたがい、接続・設定をしてください。

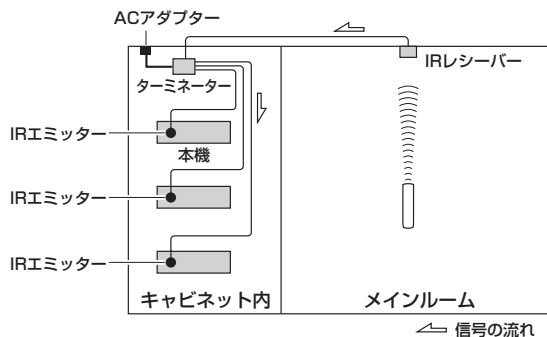
接続例

■ 別室（Zone2/3）で使用する場合

1. リモコンを使用する部屋に IR レシーバーを設置し、IR エミッターのエミッター側（赤外線を発射する部分）を機器のリモコン受光部に取り付けます。

!ヒント

- モノラルのミニジャックケーブルがある場合は、IR エミッターを取り付ける代わりにミニジャックの片方をターミネーターに接続し、もう一方を本機の IR IN 端子 に接続してもかまいません。

2. ターミネーターに、IR レシーバーと IR エミッターを接続し、ターミネーターのスイッチを適切な位置に合わせます。（システムに添付の取扱説明書等をご覧ください。）電源アダプターをターミネーターに接続します。

■ キャビネットなどの中に入れて使用する場合

1. リモコン信号を受信しやすい場所に IR レシーバーを設置し、IR エミッターをキャビネット内に取り付けます。取り付けについての詳細は添付の取扱説明書等をご覧ください。
2. ターミネーターに、IR レシーバーと IR エミッターを接続し、ターミネーターのスイッチを適切な位置に合わせます。（システムに添付の取扱説明書等をご覧ください。）電源アダプターをターミネーターに接続します。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

本機に付属のリモコン（RC-688M）で、他社の製品を操作したり、連続した操作を学習させることができます。操作するには、次の3つの方法があります。

- **他機（DVD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコードを登録する**
- **他機のリモコンから指定した操作を学習させる**
- **マクロ機能を使って連続した操作を学習させる**

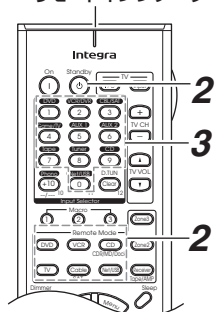
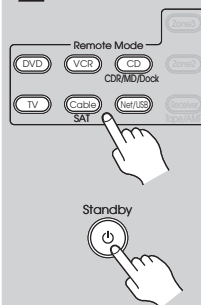
リモコンコードを登録する

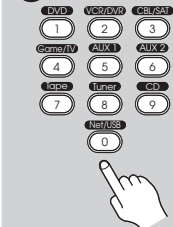
他機のリモコンコードを本機リモコンの「Remote Mode ボタン」に登録すると、本機のリモコンで他機を操作することができます。
リモコンコード表は、112、113ページをご覧ください。それぞれのカテゴリーからコードを選んでください。

ご注意

- 他社のMDレコーダーとCDレコーダーのコードは、「CD」Remote Mode ボタンに登録してください。
- Receiver/Tape/AMP ボタン、Net/USB ボタン、Zone 2 ボタン、Zone 3 ボタンには登録できません。

インテグラ / オンキヨー製品のコードを登録するときは…
RI接続用と非接続用の2種類のコード番号があります。
RI接続用のコード番号を登録したときは、本機のリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。
RI非接続用の場合はそれぞれの機器に向けて操作してください。

「DVD」……5001　お買い上げ時の設定
　　　　　5002（RI接続用）
「CD」………6001　お買い上げ時の設定
　　　　　6002（RI接続用）
「MD」………6007
　　　　　6008（RI接続用）
「CDR」……6005
　　　　　6006（RI接続用）
「DOCK」…6004（RI接続用）

1 登録する他機のメーカー別リモコンコード（4桁）を112、113ページのリモコンコード表で確かめる

2 登録したい Remote Mode ボタンを押しながら、Standby ボタンを押す

リモートインジケーターが1回点滅した後、点灯します。

3 30秒以内に、数字ボタンで4桁のリモコンコードを入力する

リモートインジケーターが2回点滅したら、登録完了です。

4 他機を操作する

登録した機器に向けて操作してください。

!ヒント

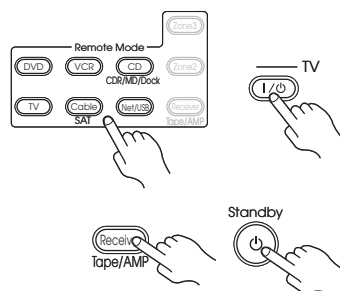
- 正しく動作しない場合は、もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある機器は、他のコードも試してください。
  動作しない操作ボタンには、他機のリモコンから学習させることもできます。（☞ 116ページ）

Remote Mode ボタンのお買い上げ時の設定（初期設定）への戻しかた

1. お買い上げ時の設定に戻したい Mode ボタンを押しながら、TV（I/⏻）ボタンを押します。
2. リモートインジケーターが3回点滅し終わってから、もう一度その Mode ボタンを押すと、その Mode ボタンが2回点滅し、お買い上げ時の設定に戻ります。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻すには

リモコンをお買い上げ時と同じ状態に戻すには、以下の操作をしてください。

1. AMP ボタンを押しながら、Standby ボタンを押します。
2. リモートインジケーターが5回点滅し終わってから、もう一度 AMP ボタンを押します。
   リモートインジケーターが2回点滅し終わったら、設定完了です。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

リモコンコード表　*複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。*

DVD ボタン　DVD

■ DVD プレーヤー

ブランド名	コード番号
デノン	0517, 1661
フナイ	0702
日立	0600, 0691, 0722
ビクター／JVC	0585, 0650, 1191
ケンウッド	0517, 0561
LG	0618, 0768, 1933
マランツ	0566
三菱	0548, 1548
オンキヨー	0530, 0654
パナソニック／テクニクス	0517, 0659, 1389, 1489, 1517, 1789, 1861, 1935, 2017
フィリップス	0530, 0566, 0673, 0702, 0881, 1185, 1367
パイオニア	0552, 0598, 0658, 0659, 1992
サムスン	0517, 0600, 0847, 0926, 1102
サンヨー	0697, 0722
シャープ	0657, 0702
ソニー	0560, 0891, 1097, 1560, 2008, 2047
ティアック	0598, 0744, 0817
東芝	0530, 0722, 1181
ヤマダ	0899, 1031, 1185
ヤマハ	0517, 0566

■ DVD レコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	0517
フナイ	0702
ビクター／JVC	1191
LG	0768
パナソニック／テクニクス	0517
フィリップス	0673, 1185
パイオニア	0658
サムスン	0517
シャープ	0657, 0702
ソニー	1097
ヤマダ	1185

CD ボタン　CD CDR/MD/Dock

■ CD プレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	0184
デノン	0653, 0900
日立	0059
ビクター／JVC	0099
ケンウッド	0064, 0653, 0708
マランツ	0056, 0184, 0653
オンキヨー	0895
パナソニック／テクニクス	0056, 0330
フィリップス	0184, 0653
パイオニア	0059, 0332
サンヨー	0206
シャープ	0064, 0888
ソニー	0027, 0517
ヤマハ	0517

TV ボタン　TV

■テレビ

ブランド名	コード番号
富士通	0710, 0836
フナイ	0198, 0207, 0291
日立	0036, 0057, 0119, 0132, 0136, 0172, 0183, 0190, 0205, 0252, 0508, 0535, 0575, 0605, 1064, 1172, 1283
ビクター／JVC	0398, 0490, 0535, 0633, 0677, 0680, 0710
LG	0057, 0064, 0087, 0135, 0205, 0741
マランツ	0057, 0064, 0081, 0583
三菱	0057, 0120, 0135, 0177, 0181, 0205, 0207, 0263, 0539, 0863, 1277
パナソニック／ナショナル／松下	0064, 0078, 0081, 0190, 0235, 0253, 0535, 0677
NEC	0036, 0057, 0078, 0181, 0183, 0197, 0205, 0291, 0482, 0535, 1731
オリオン	0064, 0263, 0470, 0490, 0907

ブランド名	コード番号
フィリップス	0027, 0057, 0064, 0078, 0081, 0119, 0135, 0205, 0401, 0583, 0717, 1481
パイオニア	0136, 0190, 0193, 0314, 0706, 0787, 0893
サムスン	0036, 0057, 0064, 0087, 0117, 0119, 0181, 0183, 0205, 0235, 0253, 0291, 0397, 0583, 0614, 0645, 0729, 0793, 0839, 0841, 1657
サンヨー	0131, 0172, 0181, 0183, 0207, 0235, 0291, 0535
シャープ	0036, 0057, 0120, 0677
ソニー	0027, 0677, 1127, 1532, 1678
東芝	0036, 0062, 0087, 0120, 0172, 0181, 0183, 0291, 0535, 0645, 0677, 1283, 1383, 1535, 1683, 1731

VCR ボタン (VCR)

■ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	0027, 0064, 0375, 0379
フナイ	0027
日立	0027, 0064, 0068, 0069, 0267
ビクター／JVC	0068, 0072, 0094
LG	0064, 0069, 0072
マランツ	0062, 0108
三菱	0068, 0070, 0094, 0108, 0834
NEC	0062, 0064, 0068, 0075, 0094, 0131
オリオン	0211, 0375, 0379, 1506
パナソニック	0062, 0252, 0253, 0641, 0643, 1062, 1089, 1589
フィリップス	0027, 0062, 0108, 0253, 0645, 1108, 1208
パイオニア	0069, 0094, 0108
サムスン	0072, 0267, 0459
サンスイ	0027, 0068, 0094, 1506
サンヨー	0074, 0131, 0267
シャープ	0075, 0834
ソニー	0027, 0059, 0060, 0062, 0663, 1259
東芝	0068, 0069, 0070, 0072, 0094, 0108, 0872
ヤマハ	0068

CABLE/SAT ボタン (Cable SAT)

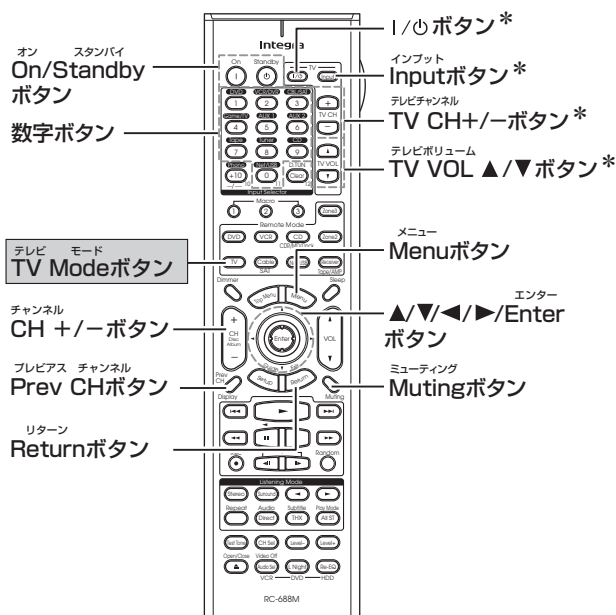
■ケーブルテレビ

ブランド名	コード番号
パイオニア	0904, 1904
Scientific Atlanta	0504, 0904, 1904

■衛星放送チューナー

ブランド名	コード番号
日立	0482, 0846, 1311
ヒューマックス	1203, 1454
ビクター／JVC	0802
三菱	0776
パナソニック	0274, 0728, 0874, 1331
パイオニア	0356, 0880, 1335
ソニー	0666, 0874, 1585, 1666, 1667
東芝	0776, 0817, 1776

接続した製品を本機のリモコンで操作する

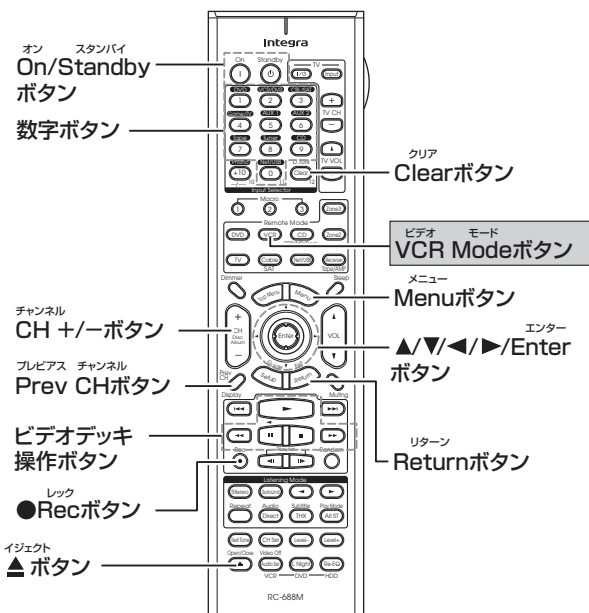
TV モード（本機に接続したテレビを操作するとき）

1. TV Mode ボタンを押す

2. 各操作ボタンを押す

On/Standby　：テレビの電源 ON/OFF
0、1 〜 9　：数字ボタン
Muting　：テレビのミューティング
CH ＋/－　：チャンネル選択
Prev CH　：1 つ前のチャンネルに戻る
▲/▼/◀/▶　：テレビの設定メニュー操作
Enter　：テレビの設定メニュー操作
Menu　：テレビの設定メニュー操作
Return　：テレビの設定メニュー操作

＊ のついたボタンは、どのリモコンモードのときでもテレビを操作できます。

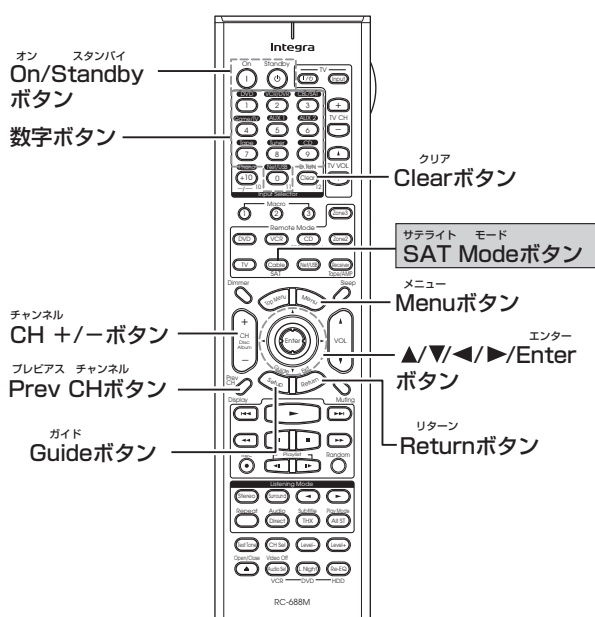
TV VOL ▲/▼　：テレビの音量調整
TV CH ＋/－　：チャンネル選択
TV I/⏻　：テレビの電源 ON/OFF
TV Input　：テレビの入力切換

VCR モード（本機に接続したビデオデッキを操作するとき）

1. VCR Mode ボタンを押す

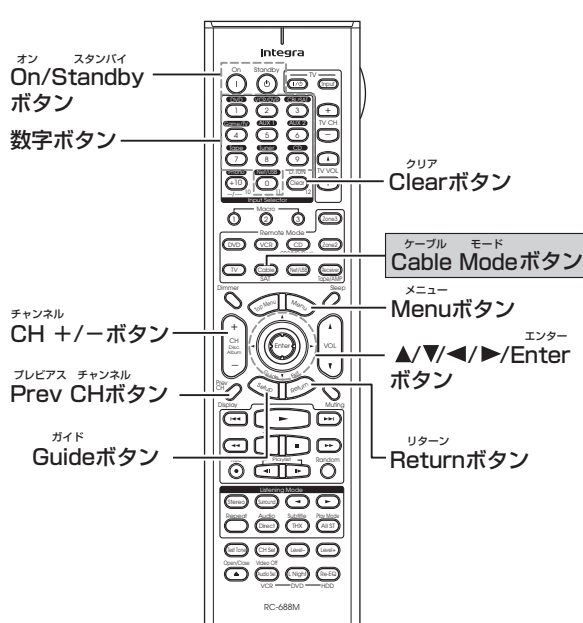
2. 各操作ボタンを押す

On/Standby　：ビデオデッキの電源 ON/OFF
CH ＋/－　：チャンネル選択
▶　：再生
■　：停止
▶▶|　：巻戻し
|◀◀　：早送り
❚❚　：一時停止
● Rec　：録画
0、1 〜 9　：数字ボタン
Prev CH　：1 つ前のチャンネルに戻る
▲/▼/◀/▶　：ビデオデッキの設定メニュー操作
Enter　：ビデオデッキの設定メニュー操作
Menu　：ビデオデッキの設定メニュー操作
Return　：ビデオデッキの設定メニュー操作
Clear　：設定を取り消す
▲　：ビデオテープを取り出す

接続した製品を本機のリモコンで操作する

SAT モード（本機に接続した BS チューナーを操作するとき）

1. SAT Mode ボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

On/Standby	：	BS チューナーの電源 ON/OFF
CH＋/−	：	チャンネル選択
0、1 ～ 9	：	数字ボタン
▲/▼/◀/▶	：	BS チューナーの設定メニュー操作
Enter	：	BS チューナーの設定メニュー操作
Menu	：	BS チューナーの設定メニュー操作
Return	：	BS チューナーの設定メニュー操作
Clear	：	設定を取り消す
Prev CH	：	1 つ前のチャンネルに戻る
Guide	：	ガイドメニューを表示する

Cable モード（本機に接続したケーブルテレビチューナーを操作するとき）

1. Cable Mode ボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

On/Standby	：	ケーブルテレビチューナーの電源 ON/OFF
CH＋/−	：	チャンネル選択
0,1 ～ 9	：	数字ボタン
▲/▼/◀/▶	：	ケーブルテレビチューナーの設定メニュー操作
Enter	：	ケーブルテレビチューナーの設定メニュー操作
Menu	：	ケーブルテレビチューナーの設定メニュー操作
Return	：	ケーブルテレビチューナーの設定メニュー操作
Clear	：	設定を取り消す
Prev CH	：	1 つ前のチャンネルに戻る
Guide	：	ガイドメニューを表示する

ご注意

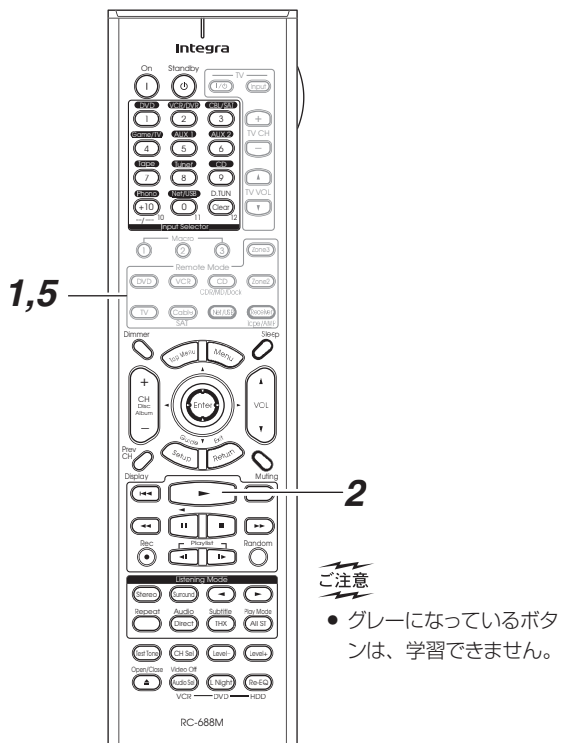
● 機器やメーカーによっては、動作が異なったり、動作しない場合があります。動作しないボタンには、他機のリモコンから操作を学習させてください。（☞ 116 ページ）

接続した製品を本機のリモコンで操作する

他機のリモコンから指定した操作を学習させる

他機のリモコンの操作を1つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。
111 ページでリモコンコードを登録した後で、不足している操作や追加したい操作を 1 つずつ学習させると便利です。たとえば、他機の CD プレーヤーのリモコンから再生機能を転送し、本機リモコンの CD モードの再生ボタンに学習させることができます。

ご注意

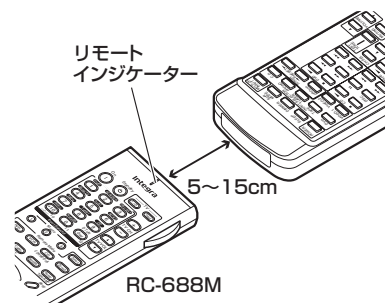
- グレーになっているボタンは、学習できません。

1 学習させたい Remote Mode ボタンを押しながら、On ボタンを押す

リモートインジケーターが点灯します。

2 RC-688M に学習させたい操作ボタンを押す

Remote Mode ボタン、Macro 1 ～ 3 ボタン、TV Input、TV CH＋/－、TV VOL▲/▼、LIGHT ボタン以外のボタンから選んでください。

3 学習させる他機のリモコンボタンを押す

他機のリモコンと本機のリモコン（RC-688M）を 5cm ～ 15cm 離して置き、他機のリモコンボタンを本機のリモコンに向かって押し続けます。

正しく学習できるとリモートインジケーターが 2 回点滅します。

4 別の操作ボタンを学習する場合は、手順 ***2***、***3*** をくり返す

5 学習を終了する場合は、手順 ***1*** で押した Remote Mode ボタンを押す

ご注意

- 本機のリモコンは、基本的に 70 ～ 90 個の操作を学習できます。他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのエリアを使用する場合があります。その場合、学習できるエリアは 70 ～ 90 個より少なくなります。
- 本機のリモコンは、インテグラ／オンキヨー製CDプレーヤー、チューナー、テープデッキ、DVDプレーヤーのコードをすでに記憶しています。これらのボタンに他のコードを記憶させることもできますが、リセットすると元のコードに戻ります。
- コードが登録されているボタンに、新しいコードを上書きして記憶する時も同じ手順で操作します。
- 本機のリモコンはほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- 電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

マクロ機能を使って連続した操作を学習させる

マクロ機能とは

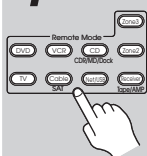
連続した操作を 1 つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続した CD プレーヤーを再生するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. **Remote Mode ボタンの AMP ボタンを押す**
   リモコンをアンプモードにします。
2. **On ボタンを押す**
   本機の電源を入れます。
3. **Input Selector ボタンの CD ボタンを押す**
   本機の入力を CD に切り換えます。
4. **Remote Mode ボタンの CD ボタンを押す**
   リモコンを CD モードにします。
5. **▶ボタンを押す**
   CD プレーヤーを再生します。

これらの操作を下記の手順でマクロ学習させると、1 つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

Macro1 ～ 3 ボタンにそれぞれマクロを学習させることができます。1 つのマクロに対して 8 つまでの操作が学習できます。

1

一番初めに学習させる操作の Remote Mode ボタンを押しながら、Macro 1（または 2、3）ボタンを押す

リモートインジケーターが点灯します。

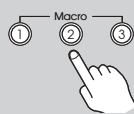
例：
Remote Mode ボタンの AMP ボタンを押す

2

記憶させたい操作ボタンを操作順に連続して押す

例：

On ボタンを押す
↓
Input Selector ボタンの CD ボタンを押す
↓
Remote Mode ボタンの CD ボタンを押す
↓
▶ボタンを押す

3

手順 *1* で押した Macro ボタンを押す

学習が完了します。

- 8 つ目の操作を学習するとリモートインジケーターが点滅し、自動的に学習を完了します。8 つよりも少ない操作を学習させるときは、最後に Macro ボタンを押します。

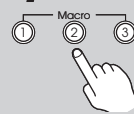
ご注意

- マクロを学習させた後、そこに含まれるボタンに他の操作を上書き学習させると、誤動作の原因になります。再度マクロ学習を行ってください。
- 9 つ以上の操作を学習させることはできません。

- どの Macro ボタンに何の操作を学習させたかをメモしておくことをおすすめします。

操作	マクロ 1	マクロ 2	マクロ 3
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

マクロを実行する

1

操作したい Macro ボタンを押す

操作を学習させた Macro ボタンが使用できます。

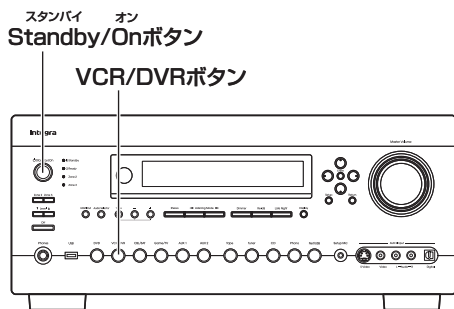
マクロを消去する

1. **Remote Mode ボタンの AMP ボタンを押しながら、消去する Macro ボタンを押す**
2. **もう一度 Macro ボタンを押して消去する**

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

!ヒント 修理を依頼される前に

すべての設定をお買い上げ時に戻す

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機のマイコンをリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

電源を入れた状態でVCR/DVRボタンを押したまま、Standby/On（スタンバイ オン）ボタンを押してください。

表示部に「Clear（クリア）」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。

Clear

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音を出した瞬間に電源が切れる

- スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください。

音声

音声が出力されない / 小さい

音声信号の設定はされていますか?デジタル音声入力端子の設定を正しく行ってください(☞ 51 ページ)。

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子 / 出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+ / −は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください(☞ 23 ページ)。
- 入力が正しく選択できているか確認してください(☞ 6 ページ)。
- MULTI CH 端子に音声信号を入力している場合、選択されている入力に正しい音声入力端子が割り当てられているか確認してください(☞ 52 ページ)。
- MULTI CH 端子に音声信号を入力している場合、音声入力に Multich が選択されているか確認してください(☞ 64 ページ)。
- ボリューム位置を確認してください。本機はお買い上げ時の設定では、基本的に−∞ dB、− 81.5dB、− 81.0dB…+ 18.0dB まで調整できます。
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンの Muting ボタンを押して解除してください(☞ 62 ページ)。
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定が OFF になっていることがあります。

困ったときは

- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。
- DTS インジケーターや PCM インジケーターが点滅していないか確認してください。点滅している場合、それ以外の音声を出力しません。デジタル入力信号の設定で「Auto」にしてください(☞ 65 ページ)。
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。
- 自動スピーカー設定で正しく測定されなかった可能性があります。「スピーカーの設定」を手動で行ってください(☞ 90 ～ 98 ページ)。
- HDMI 入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定や対応フォーマットを変更してください。

特定のスピーカーから音が出ない

テストトーンは出ますか?

リモコンの AMP(アンプ) ボタンを押してから Test(テスト) Tone(トーン) ボタンを押してテストトーンを出してください。CH Sel ボタンをくり返し押して、接続したすべてのスピーカーから個別にテストトーンが出ているか確認してください。
もう一度 Test Tone ボタンを押すと、テストトーンは止まります。
- 大きな音が出るのでご注意ください。

表示部にスピーカーの表示は出るが、テストトーンが出ない
- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テストトーンも出ず、表示部にも表示されない
- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。
- 「スピーカーコンフィグ」の設定を手動で行ってください(☞ 90 ページ)

テストトーンは出るが、音が出ない
- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素(LFE)の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る
- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない
- テレビや AM 放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジック II またはドルビープロロジック IIx にすると、センタースピーカーに音が集中します。
- リスニングモードが「Mono(モノ)」のとき、設定によってはセンタースピーカーからしか音が出ません(☞ 88 ページ)。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない
- リスニングモードが「Stereo(ステレオ)」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。
- リスニングモードが「Mono」のとき、設定によってはセンタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません(☞ 88 ページ)。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない
- 再生ソースやリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない
- 再生ソースにサブウーファー音声要素(LFE)が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聴くことができない

次のフォーマットの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。
DSD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution、DTS-HD Master Audio、AAC

- デジタル音声入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります(☞ 51 ページ)。
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力が OFF になっていたり、PCM に設定されていることがあります。また、デジタル放送の番組によって出力が変化する機器もあります。
- 接続した機器の仕様や設定によっては希望する信号フォーマットで聴けない場合があります。
- DVD ディスクによっては、音声フォーマットを OSD メニューか DVD プレーヤーのリモコンの「音声」ボタンで選択する必要があります。
- デジタル信号フォーマットを「PCM」か「DTS」に設定している場合、「Auto(オート)」に設定し直してください。

困ったときは

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。

マルチチャンネル音声（アナログ）が出力されない

- マルチチャンネル対応の DVD プレーヤーを使用しているか確認してください。
- MULTI CH IN 端子が入力切換ボタンに割り当ててあるか確かめてください。
- 本体パネルかリモコンの AUDIO SEL ボタンで「Multich」が選ばれているか確認してください。

DTS 信号について

- DTS 信号を再生しているときは、本機の DTS インジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても DTS インジケーターが点灯したままになります。このため、DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。出力されている DTS 信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI 入力音声が頭切れする

- HDMI 信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

映像

映像が出ない

- TV など、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 映像機器と本機を HDMI 端子接続している場合は、本機とテレビも HDMI 端子接続をしてください。
- 映像機器と本機を D 端子接続している場合は、本機とテレビも D 端子、コンポーネント端子、HDMI 端子のいずれかに接続をしてください（☞ 28 ページ）。
- 映像機器と本機を COMPONENT 端子接続している場合は、本機とテレビもコンポーネント端子、D 端子、HDMI 端子のいずれかに接続をしてください（☞ 28 ページ）。
- テレビを本機の HDMI OUT 端子に接続しているときは「HDMI モニター」設定をケーブルを接続している端子に合わせて“メイン”または“サブ”に設定してください。再生ソースがビデオ（コンポジット）、S ビデオ、コンポーネントビデオの場合、HDMI OUT 端子から出力してテレビで映すには「HDMI 入力設定」を“- - -”にしてください（☞ 48 ページ）。
- テレビを本機の HDMI OUT 端子以外に接続しているときは「HDMI モニター」設定を“使用しない”にしてください。再生ソースがビデオ（コンポジット）、S ビデオの場合、COMPONENT VIDEO OUT 端子から出力してテレビで映すには「コンポーネント映像入力設定」を“- - -”にしてください（☞ 50 ページ）。
- 再生機器を本機のいずれかの COMPONENT VIDEO IN 端子に接続したときは、テレビは必ず本機の COMPONENT VIDEO OUT か HDMI OUT 端子に接続してください。
- 再生機器を本機の HDMI IN 1 ～ IN 4 のいずれかの端子に接続したときは、テレビは必ず本機の HDMI OUT MAIN または SUB に接続してください。
- 再生機器を本機の HDMI IN1 ～ IN4 のいずれかに接続したときは、選択されている入力に正しい入力端子が割り当てられているか確認してください（☞ 48 ページ）。
- 再生機器を本機の COMPONENT VIDEO IN1 ～ IN3 のいずれかに接続したときは、選択されている入力に正しい入力端子が割り当てられているか確認してください（☞ 50 ページ）。
- 再生機器を本機の D4 VIDEO IN1 ～ IN3 のいずれかに接続したときは、選択されている入力に正しい入力端子が割り当てられているか確認してください（☞ 50 ページ）。
- コンポーネントビデオ端子の設定により、VIDEO 端子や S VIDEO 端子に接続した機器の映像を D 端子やコンポーネント端子で接続した TV などのモニターに変換することができますが、ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり映像を表示しなくなる場合があります。この場合は D 端子やコンポーネント端子で接続した TV などのモニターに変換せず、VIDEO または S VIDEO 端子で接続してください（☞ 50 ページ）。

HDMI IN 1 ～ IN 4 に接続した映像が映らない

- 「HDMI モニター」設定が“使用しない”の場合は HDMI OUT 端子からは映像は出力されません。

OSD 画面表示が出ない

- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。

テレビに操作内容が表示されない

- COMPONENT OUT 端子や D4 OUT 端子とテレビを接続しているときは、「コンポーネント映像入力設定」で“- - -”に設定してください(☞ 50 ページ)。
- 「その他設定」の「OSD 設定」で「イミディエイト表示」を“オン”にしてください(☞ 101 ページ)。

リモコン

リモコン操作ができない

- **本機を操作するときは、はじめに Receiver/Tape(テープ)/AMP(アンプ) ボタンを押してください。**
- 電池の極性(＋ / −)が正しく入っているか確認してください(☞ 21 ページ)。
- 電池を 3 本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります(☞ 21 ページ)。
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光(インバーター蛍光灯や直射日光)が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。

RI専用リモコンコードを使ったインテグラ / オンキヨー製他機器の操作ができない

- インテグラ / オンキヨー製他機器と RI ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 RI ケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。(RI ケーブルだけでは正しく連動しません)
- もう一度、 RI 専用リモコンコードを入力し直してください(☞ 111 ページ)。
- RI 専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。(例 : TAPE 端子や GAME/TV 端子に MD レコーダーや CD レコーダーを接続した場合)(☞ 58 ページ)

インテグラ / オンキヨー製機器(RI なし)や他メーカー機器の操作ができない

- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。動作しない操作ボタンには、他機のリモコンから学習させることもできます。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

リモコンの学習操作ができない

- リモコン送信部が正しく向き合っていることを確認してください。
- 学習できないリモコンを学習させようとしていませんか?コードを転送できないもの、1 つのボタンで複数の指示を出すリモコンは学習できないことがあります。

録音 / 録画

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。
- 信号がループして本機が損傷することを回避するため、入力信号は同じ端子の IN 端子から OUT 端子に通りません。

Net/USB 機能

ネットワークサーバーが使用できない

- Input Selector の Net/USB ボタンを押し、本機の前面パネルの NETWORK インジケーターが点灯しているか確認してください。
- NETWORK インジケーターが点灯している場合、本機はホームネットワークに正しく接続されています。
  ネットワークサーバーが起動しているか確認してください。
  ネットワークサーバーがホームネットワークに正しく接続されているか確認してください。
  ネットワークサーバーが正しく設定されているか確認してください。
- NETWORK インジケーターが点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
  ルータの LAN 側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
  本機の「ネットワーク設定」で正しい IP アドレスが割り当てられているか確認してください。

困ったときは

ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる

- ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。
- パソコンをネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア（Windows Media® Player 11 など）以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。
- パソコンで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。

インターネットラジオが聴けない

- 特定のラジオ局だけが聴けない場合は、登録した URL が正しいか、またラジオ局から配信されているフォーマットが本機の対応しているものか確認してください。
- Input Selector の Net/USB ボタンを押し、本機の前面パネルの NETWORK インジケーターが点灯しているか確認してください。
- NETWORK インジケーターが点灯している場合、本機はホームネットワークに正しく接続されています。
  モデムとルータが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。
  他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。
- NETWORK インジケーターが点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
  ルータの LAN 側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
  本機の「ネットワーク設定」で正しい IP アドレスが割り当てられているか確認してください。
- ISP によってはプロキシサーバーを設定する必要があります。
- お使いの ISP がサポートしているルータやモデムを使用しているか確認してください。

USB ストレージが表示されない

- USB メモリーや USB ケーブルが本機の USB 端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。
- USB ストレージを一旦本機から外し、再度接続してみてください。
- 本機の USB 端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。

インターネットブラウザで本機の情報を表示できない

- インターネットブラウザに本機の IP アドレスが正しく入力されているか確認してください。
  IP アドレスの割り当てに DHCP を使用している場合、本機の IP アドレスが変わっている可能性があります。
- 本機とパソコンの両方が正しくネットワークに接続されているか確認してください。

その他

ヘッドホンを接続すると音が変わる

- 「Direct」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

本体表示部が暗い

- Dimmer（ディマー）機能が働いていませんか? Dimmer（ディマー）ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください（☞ 61 ページ）。

音量調整が＋ 18dB（99）以下で終わる

- 各スピーカーの音量調整を行うと、音量最大値が変わることがあります。

多重音声の言語を切り換えたい

- 「3. 音声モード調整」の「多重音声」設定で主音声と副音声を切り換えます（☞ 86 ページ）。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CD レンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源を OFF にしてから抜いてください。

用語集

音声フォーマット、リスニングモード

サラウンド(Surround)
ドルビーデジタルや DSP の音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル(Dolby Digital)
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから 5.1 チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。
DVD-Video の標準音声、米国 DTV の標準音声として採用されています。

ドルビー EX（Dolby EX）
サラウンドバックチャンネルが, 左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされています。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。

ドルビープロロジック II（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を 5.1 チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジック IIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジック II をさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を 7.1 チャンネル再生するため、かつてないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビーデジタルプラス(Dolby Digital Plus)
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な高音質音声フォーマットです。48kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネルをサポートします。

ドルビー TrueHD（Dolby TrueHD）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能なロスレス圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネル、192kHz のサンプリング周波数で最大 5.1 チャンネルをサポートします。

DTS デジタルサラウンド(DTS Digital Surround)
米国の DTS 社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常 4:1 程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期して CD-ROM に記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)
従来の DTS5.1ch システムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ES には「DTS-ES ディスクリート 6.1ch」と「DTS-ES マトリックス 6.1ch」の 2 種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来の DTS5.1ch 対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート (DTS-ES Discrete)
5.1 チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応した DTS デジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した 6.1 チャンネル音声を再生する DTS システム。

DTS-ES　マトリックス (DTS-ES Matrix)
映画館における DTS-ES と同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して 6.1 チャンネルとする方式の DTS システム。

DTS96/24
DTS96/24 フォーマットソースに記録された拡張用データを使用してきめ細やかな音声を再現します。サンプリング周波数 96kHz、量子化ビット数 24 ビットの高音質で再生します。

DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ (DTS-HD High Resolution Audio)
DTS 社が開発した、次世代高精細光ディスク(ブルーレイ、HD DVD)に収録可能な高音質音声フォーマットです。96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネルをサポートします。

DTS-HD マスターオーディオ (DTS-HD Master Audio)
DTS 社が開発した、次世代高精細光ディスク(ブルーレイ、HD DVD）に収録可能なロスレス圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネル、192kHz のサンプリング周波数で最大 5.1 チャンネルをサポートします。

Neo:6
DTS 社によって開発された、デジタル・アナログを含むすべての 2 チャンネルソースを 6 チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。

MPEG-2 AAC
AAC（Advanced Audio Coding）は、AT&T 社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（FraunhoferIIS)、そしてソニー株式会社の 4 社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISO と IEC の共同管轄の下に、MPEG-2 規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来の MPEG 音声との後方互換性がないので、従来の MPEG 音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

THX
ルーカスフィルム (Lucasfilm) 社が提唱する劇場用音響の品質規格。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ / 残響音 / 音響機材 / スピーカーの設置位置など厳格な品質基準が設けられています。全世界で 5,000 を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。

THX セレクト 2（THX Select2）
8 ～ 12 畳程度のリスニングルームを想定して新たに制定された規格カテゴリー。映画再生に適した THX Select2Cinema モード、マルチチャンネル音楽再生に適した THXMusic モード、また、ゲームソフトに適した THX Games モードが用意されています。

THX サラウンド EX（THX Surround EX）
ルーカスフィルム社が、ドルビーデジタルサラウンド EX をホームシアター用再生システムとしてライセンスを行っている方式。映画館と同様にデコードされた左右サラウンドチャンネル信号からマトリックスデコーダーによってサラウンドバックチャンネル信号を取り出します。それぞれの処理にはホーム THX で定められた厳しい性能規格が適用されます。

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されている L/R（白 / 赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CD プレーヤー、DVD プレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルや DTS などのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に OPTICAL 端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号でRCAタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に COAXIAL 端子がある場合に使用できます。音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1 k Hz は 1 秒間に 44100 回、96 k Hz は 1 秒間に 96000 回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルや DTS の低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つで 5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が 10 分の 1 のため、この 6 本のスピーカーを使って再生することを 5.1ch サラウンドと言います。

7.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー 2 つで 7ch（7 チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が 10 分の 1 のため、この 8 本のスピーカーを使って再生することを 7.1ch サラウンドと言います。

用語集

映像

コンポジット

映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Sビデオ

輝度信号（Y 信号）と色信号（C 信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはSビデオコードを使用します。テレビにS端子がある場合使えます。

コンポーネント

輝度信号（Y 信号）と色信号（C 信号）を 2 つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
S信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルを使用します。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質は S ビデオより良く、D 端子と同レベルです。

D端子

ケーブル 1 本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビに D 端子がある場合使えます。
D1 ～ D5 までの解像度のランクがあり、D5 がもっとも高画質です。画質は S ビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

HDMI

35 ページ参照。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力 (JEITA)
7ch × 280 W, 6 Ω , 1kHz ,1ch 駆動時

定格出力 (JEITA)
7ch × 200 W, 6 Ω , 20Hz ～ 20kHz, 0.05% , 1ch 駆動時

全高調波歪率
0.05 % (20Hz ～ 20kHz 定格出力時)

ダンピングファクター
60（フロント ,1kHz, 8 Ω）

入力感度 / インピーダンス
200 mV / 47 k Ω（LINE）
2.5 mV / 47 k Ω（PHONO MM）

出力電圧 / インピーダンス
200 mV / 470 Ω（REC OUT）

PHONO 最大許容入力
70 mV（MM 1kHz 0.5%）

周波数特性
5Hz ～ 100kHz/ +1 dB − 3 dB（Direct モード）

トーンコントロール最大変化量
+10 dB, − 10 dB, 20Hz（BASS）
+10 dB, − 10 dB, 20kHz（TREBLE）

SN 比
110 dB（LINE,IHF-A）
80 dB（PHONO,IHF-A）

スピーカー適応インピーダンス
4 Ω～ 16 Ωまたは 6 Ω～ 16 Ω

映像部

入力感度・出力電圧 / インピーダンス
1 Vp-p /75 Ω(コンポーネント、S ビデオ Y)
0.7 Vp-p /75 Ω(コンポーネント Pb/Cb、Pr/Cr)
0.28 Vp-p /75 Ω(S ビデオ C)
1 Vp-p /75 Ω(コンポジット)

コンポーネント映像周波数特性
5Hz ～ 100MHz − 3dB

総合

電源・電圧
AC 100 V, 50/60Hz

消費電力
770 W

待機時電力
0.1 W

最大外形寸法
435 W × 194 H × 455 D mm

質量
24.1 kg

映像入力

D4	IN1, IN2, IN3
コンポーネント	IN1, IN2, IN3
S ビデオ	DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX1, AUX2
コンポジット	DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX1, AUX2
HDMI	IN1, IN2, IN3, IN4

映像出力

D4	D4 OUT
コンポーネント	MONITOR OUT
S ビデオ	MONITOR OUT, VCR/DVR OUT
コンポジット	MONITOR OUT, VCR/DVR OUT, ZONE 2 OUT
HDMI	OUT MAIN, OUT SUB

音声入力

デジタル	2 (リア OPT) 1 (フロント OPT) 3 (リア coax)
アナログ	MULTI CH,DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME/TV, AUX1, AUX2, TAPE, CD, PHONO, TUNER
マルチチャンネル	7.1

音声出力

デジタル	1 (Optical)
アナログ	VCR/DVR OUT, TAPE OUT, MULTI CH PREOUT, ZONE 2 PREOUT, ZONE 3 PREOUT
マルチチャンネルプリ	7
サブウーファープリ	1
スピーカー	MAIN(FL,FR,C,SL,SR,SBL,SBR) +ZONE 2 (L,R)
ヘッドホン	1

その他

音場制御用マイク	有り
RS232	1
ETHERNET	1
IR Input/Output	2/1
12V Trigger Out	3
USB	有り /1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高周波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

オンキヨー ご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

■ 製品についてのご相談、カタログのご請求

お 客 様 ご相談窓口	コールセンター 受付 9:30～17:30（土・日・祝、弊社休業日を除く） ※ WEB ： http://www.jp.onkyo.com/support/ ※ TEL ： 050-3161-9555 ※ FAX ： 072-831-8124 ※ 住所 ： 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町 2-1 オンキヨー株式会社 コールセンター

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページ。 → http://www.jp.onkyo.com/

快適なオーディオライフをサポートするセレクトショップ。 → http://www.e-onkyo.com/

修理のご依頼は、取扱説明書の「困ったときは」、「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。
転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

■ 修理、部品・付属品についてのご相談、ご依頼

修 理 窓 口	首都圏サービスセンター 受付 9:30～17:30（土・日・祝、弊社休業日を除く） ※ TEL ： 050-3161-9555（コールセンター） ※ FAX ： 03-5819-2940 ※ 住所 ： 〒130-0004 東京都墨田区本所 2 丁目 16-5 京王本所ビル 6 階
	大阪サービスセンター 受付 9:30～17:30（土・日・祝、弊社休業日を除く） ※ TEL ： 050-3161-9555（コールセンター） ※ FAX ： 072-831-8124 ※ 住所 ： 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町 2-1

● 050-3161-9555（コールセンター）で集中受付を行っています。

2007 年 4 月現在 お客様ご相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。
（http://www.jp.onkyo.com/support/ で最新の名称、所在地、電話番号をご覧いただけます）

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より３年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 DTX-8.8
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は前頁の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低８年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　月　日
ご購入店名：
Tel.　（　）
メモ：

Integra®

オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎ 050-31619555（受付時間　9：30～17：30）
（土・日・祝日・弊社の定める休業日を除きます）

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

Printed in Japan
I0706-1

SN 29344543